

有明工業高等専門学校	建築学専攻	開講年度	令和04年度(2022年度)
------------	-------	------	----------------

学科到達目標

(A) 豊かな教養と国際性
 (A-1)多面的考察力
 物事を多面的に考察できること。すなわち、自然科学の素養の修得に加えて、国語・社会・語学系科目の修得を通して、豊かな教養や国際感覚を身につけ、自分自身を把握するとともに自国・他国の文化を理解し、それらを基に、物事を多面的に考察できること。
 (A-2)高い倫理観
 技術者としての倫理観を確立できること。すなわち、社会系科目や環境関連の科目の修得を通して、一般的な倫理観はもちろんのこと、技術が自然・人間・環境に及ぼす影響を理解し、技術者としての倫理観を身につけ、社会における技術者の責任を自覚できること。
 (A-3)コミュニケーション能力
 日本語および外国語によるコミュニケーションを適切にできること。すなわち、発表・討議を伴う科目の修得を通して、日本語による記述・口頭発表・討議を、相手に理解できるように論理的かつ的確にできること、また、語学系科目の修得により、日常生活に必要なレベルの英語等の外国語を理解し、使用できること。

(B) 専門知識と学際性
 (B-1)工学の基礎知識
 工学の基礎知識を専門に活用できるまで理解できること。すなわち、数学・理科などの自然科学系科目や情報技術および基礎工学の知識の修得を通して、数学的手法・自然法則や情報技術および工学の基礎知識の概念や理論を理解し、論理的思考力を養い、それらの知識や思考力を専門科目に活用できること。
 (B-2)工学の専門知識
 工学の専門知識を深く理解できること。すなわち、専門分野の科目の修得を通して、専門分野の知識・技術を将来の仕事で活用できるまで理解できること。さらに、これらの学習において自発的学習方法を身につけ、生涯にわたって自分で新たな知識などを獲得し自主的に継続して学習する習慣を身につけること。
 (B-3)実践力
 実験・実習等を確実に実践できること。すなわち、実技系科目(実験・実習・演習等)の修得を通して、実働を計画的かつ確実に実践できること。そこで得られた結果を学んだ知識と関連させて考察でき、それらの記述説明が的確にできること。
 (B-4)工学の学際的知識
 工学の学際的知識を専門知識に活用できる程度に習得すること。すなわち、学際的資質育成科目等の修得を通して、複眼的な視野を広げ、異分野の知識・技術を専門知識に活用できるまで理解できること。

(C) 創造性とデザイン能力
 (C-1)課題探究力
 現状を進展させるための課題の探求・理解が自らできること。すなわち、特別研究や特別演習・合同演習等の科目の修得を通して、現状を進展させるために創造性を発揮して自ら課題を見つけ、課題の本質を理解できること。
 (C-2)課題解決力
 様々な問題に対処できるデザイン能力を習得すること。すなわち、特別研究や特別演習・合同演習等の科目の修得を通して、様々な問題に対して、これまで身につけた多面的考察力・工学の知識・実践力等を総合して活用し、現状での最適な解を見出すことができること。また、研究や作業を計画的に実行し完結させる力を身に付けること。さらに、他学科の学生と共同で実働する科目の修得を通して、他分野の人たちとのチームワークを実行できる能力を身に付けること。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
建築学専攻	専1年	学科	専門	建築防災システム工学	2	金田一男
建築学専攻	専1年	学科	専門	居住地計画論	2	正木哲
建築学専攻	専2年	共通	専門	環境工学概論	2	内田雅也
建築学専攻	専2年	学科	専門	建築生産システム工学	2	上田雅之
建築学専攻	専2年	学科	専門	近代化建築史論	2	松岡高弘
建築学専攻	専2年	学科	専門	建築保存再生論	2	松岡高弘
建築学専攻	専2年	学科	専門	建築構造設計論	2	金田一男
建築学専攻	専2年	共通	専門	特別実習Ⅱ	6	

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分		
					専1年				専2年							
					前	後	前	後	前	後	前	後				
一般	必修	英語特講	001	学修単位	2	1									山崎 英司	
一般	必修	実践英語	002	学修単位	2		1								村田 和穂	
一般	選択	国語表現	003	学修単位	2		1								安井 絢子	
一般	選択	人文社会科学特論	004	学修単位	2		1								山口 英一	
一般	選択	応用数理 I	005	学修単位	2	1									田中 彰則	

専門	選択	地域協働特論	AC037-1	学修単位	1	1	1								橋爪康 知本昌彦 本岩下勉
専門	選択	地域協働演習 I	AC038-1	学修単位	1	1	1								下田誠 也,松高弘 岡,金田一 男,岩下 勉,藤心 と,正哲 田,窪 田,樹 原,木 窪,眞 樹,森 太郎 健,佐 土原 洋平
専門	選択	地域協働演習 II	AC039-1	学修単位	1	1	1								下田誠 也,松高弘 岡,金田一 男,岩下 勉,藤心 と,正哲 田,窪 田,樹 原,木 窪,眞 樹,森 太郎 健,佐 土原 洋平
専門	選択	特別実習 II	AC040-1	履修単位	6	1	1								下田誠 也,岩 下勉
専門	選択	建築防災システム工学	AC041	学修単位	2		1								金田一 男
専門	選択	居住地計画論	AC042	学修単位	2	1									正木 哲
専門	選択	都市・空間デザイン論	AC043	学修単位	2		1								佐土原 洋平
専門	選択	構造解析特論	AC047	学修単位	2	1									岩下 勉
専門	選択	鉄筋コンクリート構造特論	AC048	学修単位	2		1								下田 誠 也
一般	選択	日本語の表現技法	AC004	学修単位	2							1			
一般	選択	英語コミュニケーションⅢ	AC005	学修単位	2				1						
一般	選択	地域特性と人間生活	AC007	学修単位	2				1						
一般	選択	応用数理Ⅱ	AC007-2	学修単位	2				1						
一般	選択	環境科学	AC015	学修単位	2				1						
専門	必修	建築学特別研究Ⅱ	AC017	学修単位	6					5			5		岩下 勉 金田一 男,窪 田,眞 樹,藤 原ひ とみ 正木 哲
専門	必修	建築設計特別演習Ⅱ	AC021	学修単位	2					2					正木 哲 森田 健太郎
専門	選択	材料科学	AC024	学修単位	2							1			石丸 智 士
専門	選択	環境調整学	AC026	学修単位	2				1						窪田 眞 樹
専門	選択	環境工学概論	AC027	学修単位	2				1						内田 雅 也
専門	選択	熱力学概論	AC029	学修単位	2				1						鶴 大 輔
専門	選択	情報ネットワーク概論	AC032	学修単位	2							1			嘉藤 学
専門	選択	材料工学概論	AC033	学修単位	2							1			田中 康 徳

専門	選択	分子生物学	AC034	学修単位	2						1	出口 智昭
専門	選択	建築生産システム工学	AC035	学修単位	2				1			下田 誠也, 上田 雅之
専門	選択	ユニバーサルデザイン	AC036	学修単位	2						1	
専門	選択	地域協働特論	AC037-2	学修単位	1				1		1	橋爪 康彦, 本 昌彦, 岩 勉
専門	選択	地域協働演習 I	AC038-2	学修単位	1				1		1	下田 誠也, 松 高弘, 岡 高弘, 金田 一男, 岩下 勉, 藤 心と, 原木 正哲, 窪田 眞樹, 森田 健太郎, 佐土 洋平
専門	選択	地域協働演習 II	AC039-2	学修単位	1				1		1	下田 誠也, 松 高弘, 岡 高弘, 金田 一男, 岩下 勉, 藤 心と, 原木 正哲, 窪田 眞樹, 森田 健太郎, 佐土 洋平
専門	選択	特別実習 II	AC040-2	履修単位	6				1		1	下田 誠也, 岩 勉
専門	選択	都市環境マネジメント論	AC044	学修単位	2				1			森田 健太郎
専門	選択	近代化建築史論	AC045	学修単位	2				1			松岡 高弘
専門	選択	建築保存再生論	AC046	学修単位	2						1	松岡 高弘
専門	選択	鋼構造特論	AC049	学修単位	2						2	岩下 勉
専門	選択	建築構造設計論	AC050	学修単位	2				1			金田 一男

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語特講
科目基礎情報					
科目番号	001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	配布プリント (Up To Dateほか)				
担当教員	山崎 英司				
到達目標					
1. ニュース英語における paragraph 構成方法の理解 2. スキャンリーディング能力の習得 3. Context や時事情報を活用しての、未知の単語の意味の類推 4. TOEICテストのスコアアップにつながる語彙力の増強					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	main idea を support する details を合理的に分類することができる。		topic sentence と supporting details を 区別できる。		topic sentence と supporting details の区別がつかない。
評価項目2	英文の中から必要な情報の場所を予想して、速やかに見つけることができる。		英文を精読し、時間をかければ必要な情報を見つめることができる。		英文を精読し、時間をかけても必要な情報を見つめることができない。
評価項目3	英文 context や時事情報を活用して、未知の英単語の意味を類推し、その推測を論理的に説明できる。		時事情報を活用して、未知の英単語の意味を類推し、その推測を説明できる。		英文Contextや時事情報を活用しても、未知の英単語の意味を類推できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 A-3					
教育方法等					
概要	ある一定の分量の英文を速く正確に読むための skill を学ぶ。また自身を取り巻く社会情勢や経済状況に対するアンテナを持ち、自己決断力と情報収集能力の獲得を図る。				
授業の進め方・方法	短文の英語Webニュースサイトを引用した「Up To Date」というプリント教材を利用し、直近の社会情勢などを英語で読み取り、意見を交わすトレーニングを行う。Up To Dateには自宅学習用の部分も含まれている。その中で英文速読に欠かせないパラグラフ構成の知識、main idea, supporting details の見つけ出し、スキャンリーディングスキルを各レッスンで学ぶ。 また中学までで既出の語彙・文法を定着させるため、前期中間試験まではTOEICにおける基礎的な語彙増強のドリルを授業中に行う。 リスニング能力増強のために映画のシーンを利用したディクテーションを定期的に行い、定期試験にもその内容を反映させる。				
注意点	前週に課されたプリントは忘れずに持参し、授業開始時に提出すること。授業中や授業後の提出は受理しない。紛失したり前週の授業を欠席した場合は、山崎教員室前のポストより予備のコピーを自分で取って課題をこなして持参すること。ポートフォリオから減点する。 前期のみ開講 (1週当たり90分×1コマ)。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	News Up To Date 1週目 TOEIC Bridge ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 1)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる	
		2週	News Up To Date 2週目 TOEIC Bridge ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 2)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる	
		3週	News Up To Date 3週目 TOEIC Bridge ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 3)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる	
		4週	News Up To Date 4週目 映画を用いたディクテーション① 対話のロールプレイ	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける 日常生活などについてのナチュラルスピードの英語を聞いて、内容を理解できる ジェスチャーなどを交えてコミュニケーションを図ることができる	
		5週	News Up To Date 5週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 4)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる	
		6週	News Up To Date 6週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 5)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる	
		7週	News Up To Date 7週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 6)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける 映画における口語表現の語彙力・文法を理解できる	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	News Up To Date 8週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 7)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる	
			10週	News Up To Date 9週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 8)	直近1週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる

	11週	News Up To Date 1 0 週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 9)	直近 1 週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる
	12週	News Up To Date 1 1 週目 映画を用いたディクテーション② 対話のロールプレイ	直近 1 週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる
	13週	News Up To Date 1 2 週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 10)	直近 1 週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる
	14週	News Up To Date 1 3 週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 11)	直近 1 週間のできごとを英字新聞で読み解ける TOEICテスト用の語彙力を増やせる
	15週	News Up To Date 1 4 週目 TOEIC L&R TEST ヴォキャブラリー徹底演習 (Drill 12)	直近 1 週間のできごとを英字新聞で読み解ける 映画における口語表現の語彙力・文法を理解できる
	16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	実践英語
科目基礎情報					
科目番号	002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	Working Abroad: Learning to Communicate via Emails & Telephone Conversations / Nicholas Bovee 著 (松柏社)				行時潔 / 長田順子
担当教員	村田 和穂				
到達目標					
1. 異なるスピードのリーディング教材を活用し、理解力を向上させることができる。 2. 速読を通して、500語の英文を内容理解ができるようになる。 3. テストで使用される専門用語等を体系的に理解し、自主的な語彙力の強化ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	テキスト『Working Abroad』について、日頃から計画的に自学することができる。また、ネイティブの発話を通して、英文の内容を8割以上理解することができる。		テキストで扱う様々なトピックについての理解が十分で、ネイティブの発話を通して、英文の内容を6割以上理解することができる。		テキストで扱う様々なトピックについての理解が不十分で、ネイティブの発話を通して、英文の内容を6割未満しか理解することができない。
評価項目2	教材の中の文法事項の発展的内容を見つけてたり、読んだり聞いたりしたことや学んだことに基づき、情報や考えなどについて、詳しく書いたり発表したりすることができる。		教材の中の文法事項を身につけ、読んだり聞いたりしたことや学んだことに基づき、基本的な情報や考えについて、書いたりすることができる。		教材の中の文法事項を身につけておらず、読んだり聞いたりしたことや学んだことに基づき、基本的な情報や考えについて、まとめたりすることができない。
評価項目3	教材と同じレベル以上の英文を読んだり聞いたりして、内容を英語で説明することができる。		教材の英文を読んだり聞いたりして、内容を英語で説明することができる。		教材の英文をスクリプトを見ながら読んだり聞いたりしても、内容を英語で説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 A-3					
教育方法等					
概要	この授業は受講生の「聞く」（というより「聴き取る」）能力を改善し、上達させることを第一の目標とする。上達の目安の一つはTOEICテストのスコアである。最低でも400点をクリアする必要のある専攻科生にとって有益な授業を行うことを前提とするのだが、本校で実施しているTOEIC IPテスト受験者の（ここ数年の）結果から判断すると、リスニング・セクションよりリーディング・セクションの方が圧倒的に正解率が低いという事実があり、授業に工夫を要する。この読解力不足の主たる原因は（専攻科生も含め）高専生の基本的な語彙力と文法力の不足が挙げられよう。そこで、「聴き取る」教材に英文法の基本文型を用いたものを活用し、単元ごとに要点をチェックしながら、リスニング力のみならず文法力の強化も目指したい。また一方で、映画やニュース、またはポップスなども教材として適宜活用し、役に立つ表現も毎回習得させ、それらの表現を用いて口頭発表させることで、英語でのコミュニケーションにおける積極性を養うことも目標としたい。				
授業の進め方・方法	上記の教科書『Working Abroad』を毎回1課ずつ進めながら付属しているCDを活用し、聴き取りならびにディクテーションを通して聴解能力を高める。さらに文法と語彙の確認、長文読解を毎回行い「リーディングセクション」でも得点力アップを目指す。				
注意点	定期試験は行わない。各25点の確認テストを4回行い、合計点を成績とする。確認テストの4回は以下の通り（順番は異なることもある）。 テスト1 『Working Abroad』確認テスト（語彙編） テスト2 『Working Abroad』確認テスト（リスニング編1） テスト3 『Working Abroad』確認テスト（リスニング編2） テスト4 重要表現暗唱（これは合格するまで何度でも行う）				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション：授業の進め方についての説明	本テキストの予習の仕方を学ぶ。	
		2週	Unit 1 Takuya's Job Hunt	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		3週	Unit 2 Asking A Favor	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		4週	Unit 3 Decision Time	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		5週	Unit 4 A Lucky Break	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		6週	Unit 5 Fun in the Sun (確認テスト1)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		7週	Unit 6 Welcome to the Land of the Rising Sun!	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		8週	Unit 7 Bottoms Up!	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	

4thQ	9週	Unit 8 The World's Most Comfortable City (確認テスト2)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	10週	Unit 9 Touching Base	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	11週	Unit 10 The Lion City	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	12週	Unit 11 Heading Down Under	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	13週	Unit 12 Dreams Come True (確認テスト3)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	14週	Unit 13 An Unexpected Invitation	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	15週	Unit 14 The Sweet, Spicy, and Sour Wonderland	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	16週	Unit 15 Back to a Good Old City (確認テスト4)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	国語表現
科目基礎情報					
科目番号	003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	プリント配布				
担当教員	安井 絢子				
到達目標					
1. 他者の発信した情報や意見を理解し、自らの情報や意見を他者に伝える能力を習得する。 2. 他者の考えに対して、日本語で正確に自分の意志や意見を伝達する能力、および自分の考えを人前で表明する能力を習得する。 3. 正しい日本語の基礎知識を習得し、日本語によるコミュニケーションが適切にできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	他者の発信した情報や意見を理解し、自らの情報や意見を他者に伝える能力を的確に習得できる。		他者の発信した情報や意見を理解し、自らの情報や意見を他者に伝える能力を習得できる。		他者の発信した情報や意見を理解し、自らの情報や意見を他者に伝える能力を習得できていない。
評価項目2	他者の考えに対して、日本語で正確に自分の意志や意見を伝達する能力および自分の考えを人前で表明する能力を的確に習得できる。		他者の考えに対して、日本語で正確に自分の意志や意見を伝達する能力および自分の考えを人前で表明する能力を習得できる。		他者の考えに対して、日本語で正確に自分の意志や意見を伝達する能力および自分の考えを人前で表明する能力を習得できていない。
評価項目3	日本語による的確なコミュニケーションができる。		日本語によるコミュニケーションができる。		日本語によるコミュニケーションができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3					
教育方法等					
概要	4年次「日本語コミュニケーション」の授業で実践した事を復習し、さらに発展させる。日本語を的確に理解する能力を養うとともに文章表現能力を伸ばして、他者に日本語で正確に自己の思考内容を伝達出来る能力及び他者の考えに対する自己の考えを表明する能力を習得することを目標とする。				
授業の進め方・方法	日本語の基礎知識（語彙・一般常識等）を学習し、表現力の基盤を確かなものとする。日本語で書かれた文章の読解・要約を行うこと、および意見文・所感文を書くことを通して読解力・表現力を磨き、その能力のさらなる向上を図る。4年次「日本語コミュニケーション」の授業で培った日本語表現能力を定着させるために、個別指導・相互鑑賞を繰り返すことで実践応用力を養う科目である。 授業は講義形式や演習方式で実施し、有明高専独自で編纂したテキストやプリントを使用する。文章表現のワークや読書課題・作文課題・相互鑑賞を実施し、評価の対象とする。講義や演習を通して、自分の感じたこと・考えたことについて筋道を立てて表現する力が自ずと習得出来ることを最終目標としている。 ①日本語に関する講義を受け、演習することにより、日本語の聞き取りや漢字力といった日本語の基礎知識を身につける。 ②文章表現能力を伸ばすための作文課題によって、物事を他者に的確に伝える能力を身につける。 ③日本語文の読解・要約をすることにより、他者の文章の趣旨を的確に把握する力を身につける。 ④意見文や研究紹介文を書く演習により、論理的な日本語表現能力を身につける。 以上の授業内容・方法によって、他者の発信した情報や意見を理解し、自らの情報や意見を他者に伝える能力を身につける。A-3<日本語によるコミュニケーションを適切にできること>という教育目標の達成に向けて本科5年間で培ってきた日本語運用能力をさらに発展させ、他者の考えに対して、日本語で正確に自分の意志や意見内容を伝達する能力および自分の考えを人前で表明する能力を身に付ける。なお、この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート等を実施する。				
注意点	漢字検定試験2級程度の語彙力。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス 日本語の基礎知識（1）	授業内容・評価方法などを理解し、目的意識をもって課題に取り組むことができる。 日本語の基礎知識が理解できる。	
		2週	日本語の基礎知識（2） 日本語の文章を理解し、要約する（1）	日本語の基礎知識が理解できる。 社説・コラム・評論文など、他者が書いた文章の要約文が作成できる。	
		3週	日本語の文書を作成する（1） ～個人添削指導～	自分の情報を他者に伝える文書を作成することができる。	
		4週	日本語の文書を作成する（2） ～個人面談指導～	自分の情報を他者に伝える文書を作成することができる。 担当教員からの添削・助言をうけて、適切に文章を書きなおすことができる。	
		5週	日本語の文書を作成する（3） ～個人面談指導～	自分の情報を他者に伝える文書を作成することができる。 担当教員からの添削・助言をうけて、適切に文章を書きなおすことができる。	
		6週	日本語の文書を作成する（4） ～受講者相互評価～	作成した文書について発表し、相互評価することができる。 他者の文章から良い点を見出し、学ぶことができる。	
		7週	日本語の文章を理解し、要約する（2）	社説・コラム・評論文など、他者が書いた文章の要約文が作成できる。	
		8週	意見文（小論文）を書く（1） ～個人添削指導～	自分の立場を明示して、論理的に意見を論述することができる。	

4thQ	9週	意見文（小論文）を書く（2） ～個人面談指導～	自分の立場を明示して、論理的に意見を論述することができる。 担当教員からの添削・助言をうけて、適切に文章を書きなおすことができる。
	10週	意見文（小論文）を書く（3） ～受講者相互評価～	作成した文章について発表し、相互評価することができる。 他者の文章から良い点を見出し、学ぶことができる。
	11週	研究紹介文を書く（1） ～個人添削指導～	専門知識を持たない人（文系の担当教員）に伝わる研究内容紹介文を作成できる。
	12週	研究紹介文を書く（2） ～個人面談指導～	専門知識を持たない人（文系の担当教員）に伝わる研究内容紹介文を作成できる。 担当教員からの質問・添削・助言をうけて、適切に文章を書きなおすことができる。
	13週	研究紹介文を書く（3） ～受講者相互評価～	専門知識を持たない人（文系の担当教員）に伝わる研究内容紹介文を作成できる。 他者の文章から良い点を見出し、学ぶことができる。 学生同士が相互に研究紹介内容に対して質問することで異分野の研究手法への理解を深める。
	14週	文章表現に関する総合的な学修	これまでの添削を振り返り、自分の文章表現についての課題を把握することができる。
	15週	総合テスト	これまでに学修した内容について、試験を行う。
	16週	テスト返却と総復習	これまでに学修した内容を再度確認し、理解不足の点を補うことができる。 当該授業の自らの取り組みについて自己評価することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	人文社会科学特論
科目基礎情報					
科目番号	004	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	後期:1		
教科書/教材	(参考図書、購入の必要はない) イザベル・サン＝メザール『地図で見るインドハンドブック』原書房 天竺奇譚『いちばんわかりやすいインド神話』じっぴコンパクト新書 井坂理穂・山根聡(編)『食から描くインド——近現代の社会変容とアイデンティティ』春風社				
担当教員	山口 英一				
到達目標					
1.現代インドの宗教について、その概略を理解することができる。 2. 現代インドの衣食住文化の中の宗教的背景を自分の視点から説明できる。 3.インドの絵画などに描かれる宗教的要素を読み取ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代インドの宗教について、その概略を正確に説明できる。	現代インドの宗教について、その概略を不十分ながら説明できる。	現代インドの宗教について、その概略を説明できない。		
評価項目2	現代インドの衣食住文化の中の宗教的背景を自分の視点から詳細に説明できる。	現代インドの衣食住文化の中の宗教的背景を自分の視点から不十分ながら説明できる。	現代インドの衣食住文化の中の宗教的背景を説明できない。		
評価項目3	インドの絵画などに描かれる宗教的要素を正しく読み取ることができる。	インドの絵画などに描かれる宗教的要素を不十分ながら読み取ることができる。	インドの絵画などに描かれる宗教的要素を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-1					
教育方法等					
概要	この授業では「宗教をキーとして自他の文化を客観化すること」をめざします。現代においても文化全般に宗教が非常に大きな要素であるインドの事例を取り上げ、そこから自らの経験を超えた文化の幅広さを学んでもらう、広い意味での異文化理解をめざす授業です。ただし、自分と他者という単純な対立ではなく、多様なあり方のひとつとして自分を見つめる視点を持ってくれることを期待しています。				
授業の進め方・方法	板書とプロジェクトを使った講義形式ですが、授業では学生とのやり取りをしながら説明を行いますので積極的な参加姿勢を期待します。また、内容理解を深めるために多くの映像資料や現物資料を提示して、文化的要素をより実感できるように取り組んでいます。授業内容の理解、異文化を柔軟に理解する視点とその変化をチェックするため、毎回の授業後にコメント・カードを書いてもらいます。学修単位となるため、授業時間外の学習を反映させるものとして、授業内容を発展させた課題レポートがあります。				
注意点	自分でノートを取ることは基本的なことですが内容理解には非常に重要であることを再確認しておきます。授業中に配布する資料の全部は時間内に読めませんから、予習・復習として自分で読んでおいて下さい。その他に、参考文献やインターネット上の情報ソースなどを示します。各自の興味でそれらを参照し、より一層の理解につなげて下さい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	導入=インド文化の理解のために1	現代インドの宗教の概略について理解できる	
		2週	導入=インド文化の理解のために2	インド文化の多様性と言語の関わりについて理解できる	
		3週	インド神話と美術1	バラモン教とヒンドゥー教の関係を理解できる	
		4週	インド神話と美術2	バラモン教の主要な神格シヴァについて説明できる	
		5週	インド神話と美術3	バラモン教の主要な神格ヴィシュヌとその化身について説明できる	
		6週	映像で学ぶインドの祭り1	ディワリとはどのような祭りをかを説明できる	
		7週	映像で学ぶインドの祭り2	叙事詩ラーマヤナのあらすじを理解できる	
		8週	中間試験	これまでの学習をふまえ、到達目標を達成できているか、確認できる。	
	4thQ	9週	試験返却と解説 宗教的菜食主義を考える1	菜食主義の概要を理解できる	
		10週	宗教的菜食主義を考える2	宗教的菜食主義の理由を説明できる	
		11週	宗教的菜食主義を考える3	ブラフマンとアートマンの概念を理解できる	
		12週	インドの服飾文化と社会の変化1	現代インドの服飾文化の中に宗教的要素を指摘できる	
		13週	インドの服飾文化と社会の変化2	服飾文化の中にあるさまざまな技法を指摘できる	
		14週	インドの服飾文化と社会の変化3	服飾文化と関わる社会の変化を理解できる	
		15週	期末試験	これまでの学習をふまえ、到達目標を達成できているか、確認できる。	
		16週	試験返却と解説	これまでの学習をふまえ、到達目標を達成できているか、確認できる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ
					その他
					合計

総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	応用数理 I		
科目基礎情報							
科目番号	005		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	前期:1			
教科書/教材	基礎科学のための数学的手法 (裳華房: 小田垣 孝)						
担当教員	田中 彰則						
到達目標							
1. 物理現象を方程式として数学的に表現することができる。 2. 数学的に表現された方程式の解を求めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	非線形の物理現象を方程式として数学的に表現できる。	物理現象を方程式として数学的に表現することができる。	数学的表現 (方程式) が理解できない。				
評価項目2	方程式の解と物理的現象の適合性について説明できる。	数学的に表現された方程式の解を求めることができる。	数学的表現としての方程式の解を求めることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-1							
教育方法等							
概要	基礎科学のための数学的手法について学びます。工学, 理学における現象を理解するには, 数学的手法が不可欠です。ここでは, 数学のひとつのまとまった分野を紹介するのではなく, 力学, 熱現象, 電磁気などの具体的な現象に, それを解析するのに必要とされる数学的手法を導入することによって, 数学を物理的, 工学的現象を理解する上で必要なものとして身につけることが出来るようになることをめざします。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため, 事前・事後学習としてレポート等を実施します。授業形式となりますので, ノートを取って復習に利用して下さい。後半, 授業内容に関連した演習問題を考えいています。						
注意点	有明高専の数学1~4巻の内容を理解している必要があります。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	運動と微分方程式	現象を数学的方程式に表現できる。			
		2週	微分方程式の解法	微分方程式の求積的解法ができる。			
		3週	3次元の運動と方程式	連立微分方程式の求積的解法ができる。			
		4週	ベクトル値関数の微分	ベクトル値関数の微分ができる。			
		5週	非線形関数の線形化 振り子の非線形振動	非線形関数の線形化が理解できる。			
		6週	多変数関数の冪展開	多変数関数の冪展開ができる。			
		7週	減衰振動の方程式	線形斉次微分方程式が解くことができる。			
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	強制振動の方程式	線形非斉次微分方程式が解くことができる。			
		10週	対称作用素と固有値	作用素と固有ベクトルの関係が理解できる。			
		11週	連成振動の方程式	連立線形微分方程式が解くことができる。			
		12週	力場とポテンシャル	ベクトル場とスカラー場の関係が理解できる。			
		13週	線積分	線積分の定義を理解し計算ができる。			
		14週	エネルギー保存則と仕事	線積分を使って仕事や力学的エネルギーの計算ができる。			
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却と解説	理解できていない所をチェックして再確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	数学	数学	数学	微分方程式の意味を理解し, 簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	4	前1,前2,前3	
				簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	4	前1,前2,前3	
				定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。	4	前2,前3,前5,前7,前8	
				簡単な1変数関数の局所的な1次近似式を求めることができる。	4	前5	
				1変数関数のテイラー展開を理解し, 基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	4	前5	
オイラーの公式を用いて, 複素変数の指数関数の簡単な計算ができる。	4	前9					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	応用数理Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	006	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	後期:1		
教科書/教材	プリント等				
担当教員	村岡 良紀				
到達目標					
<p>1. フーリエ級数・変換について説明でき、その計算ができる。</p> <p>2. 1次元の波動方程式・熱伝導方程式の導出について理解している。変数分離法、フーリエ級数・変換を用いてそれらの解を求めることができる。これらの微分方程式によって記述される現象について説明できる。</p> <p>3. 微分方程式のべき級数解法を説明でき、それを用いて微分方程式の一般解を求めることができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	フーリエ変換・逆変換に関連する関係式を理解している。	フーリエ級数・変換について説明でき、その計算ができる。	フーリエ級数・変換について説明できない。その計算ができない。		
評価項目2	2次元の波動方程式の変数分離法の導出方法を理解している。	1次元の波動方程式・熱伝導方程式の導出について理解している。変数分離法、フーリエ級数・変換を用いてそれらの解を求めることができる。これらの微分方程式によって記述される現象について説明できる。	1次元の波動方程式・熱伝導方程式の導出について理解していない。変数分離法、フーリエ級数・変換を用いてそれらの解を求めることができない。これらの微分方程式によって記述される現象について説明できない。		
評価項目3	べき級数の収束半径について理解し、計算できる。	微分方程式のべき級数解法を説明でき、それを用いて微分方程式の一般解を求めることができること。	微分方程式のべき級数解法を説明できない。それを用いて微分方程式の一般解を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-1					
教育方法等					
概要	<p>偏微分方程式は常微分方程式の多変数への拡張として数学的に興味深いばかりではなく、多くの自然現象が偏微分方程式を用いて記述されることを見ても明らかのように、広く理工学において中心的な重要性を持っている。</p> <p>この科目の第1の目標は、学生が理工学において最も頻繁にあらわれ応用上非常に重要な意味を持つ2階の線形偏微分方程式を理解することである。具体的に述べるならば、学生が代表的な2階の線形偏微分方程式である波動方程式・熱伝導(拡散)方程式等がその元となる物理現象からどのようにして導出されるかを理解し、その上でそれぞれの偏微分方程式の解の持つ定性的な性質を理解することである。学生が解の性質を常識として持つておくことは現実問題に出会ったとき、それに正しく対処する上で非常に重要と考えられる。</p> <p>第2の目標は、学生が変数分離法を用いて2階の偏微分方程式の境界条件・初期条件を満足する解を求めることができることである。波動方程式・熱伝導(拡散)方程式を解く場合には、本科4年の「応用数学」において学習した常微分方程式の解法に加えてフーリエ級数の知識も必要となり、学生はフーリエ級数に関する必要最低限の事項についても学習し、様々な関数のフーリエ級数の導出ができること。1次元および2次元の波動方程式の解として得られた固有振動を明示することにより、学生は波動方程式によって記述されている現象の理解を深めること。</p> <p>第3の目標はべき級数法の理解である。境界条件によっては、極座標・球面座標・円筒座標等の座標系を採用することになるが、これらの座標系に変換した2階の偏微分方程式を変数分離法で解くとキルジャンドルの微分方程式・ベッセルの微分方程式等と呼ばれている微分方程式が現れる。これら応用上重要な微分方程式の中には、求積法・演算子法により解くことができない場合および解が初等関数で表現できない場合がある。また、微分方程式の解として近似解が求められれば十分な場合もある。学生はこのような場合の微分方程式の解法であるべき級数法の基本を理解し、微分方程式のべき級数解を導出できること。</p>				
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、毎回事後学習としてレポート等を課します。 講義形式、グループワーク等による授業および問題演習				
注意点	本科1～4年生迄の学習内容に基づき授業を行います。 内容の理解と定着をはかるため、演習問題を適宜レポートとして解答・提出してもらいます。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業の概要説明 フーリエ級数の定義	・定義にしたがって、簡単な周期関数に対してフーリエ級数を求めることができること。	
		2週	フーリエ余弦級数・正弦級数、一般の周期関数のフーリエ級数	・偶関数・奇関数に対してフーリエ余弦級数・正弦級数を求めることができること。 ・一般の周期関数に対してフーリエ級数を求めることができること。	
		3週	複素形式のフーリエ級数	・簡単な周期関数に対して複素形式のフーリエ級数を求めることができること。	
		4週	フーリエ変換の定義、フーリエ余弦変換・正弦変換	・定義にしたがって、簡単な周期関数に対してフーリエ変換を求めることができること。 ・偶関数・奇関数に対してフーリエ余弦変換・正弦変換を求めることができること。	
		5週	フーリエ変換の性質	・フーリエ変換の性質を理解し、利用できること。 ・フーリエ変換のたたみこみ積分定理を理解すること。	
		6週	偏微分方程式概説	・偏微分方程式の基本事項を理解すること。 ・偏微分方程式の一般解について理解すること。	

4thQ	7週	座標変換	・極座標・球面座標等を理解すること。 ・デカルト座標で表された偏微分方程式を極座標・球面座標等で表すことができること。
	8週	中間試験	
	9週	テスト返却と解説 波動方程式の導出	・弦の微小振動を記述する運動方程式から1次元波動方程式が導かれることを理解すること。 ・マックスウェルの方程式から3次元波動方程式が導かれることを理解すること。
	10週	1次元波動方程式の変数分離解	・初期条件のフーリエ級数より初期条件を満たす1次元波動方程式の解が得られることを理解すること。
	11週	2次元波動方程式（円型薄膜）の変数分離解	・2次元波動方程式（円型薄膜）に対しては極座標への変換が有効であることを理解すること。 ・極座標への変換された2次元波動方程式（円型薄膜）の変数分離解による解法を理解すること。
	12週	1次元熱伝導方程式の変数分離解 無限長の棒の熱伝導	・有限長の棒の熱伝導の変数分離解による解法を理解すること。 ・無限長の棒の1次元熱伝導方程式に対するフーリエ変換を用いた解法を理解すること。 ・初期条件がディラックのデルタ関数で与えられた場合について理解すること。
	13週	べき級数の性質・べき級数法	・べき級数の性質を理解すること。 ・べき級数法による微分方程式の解法を理解すること。
	14週	べき級数法	・べき級数法を用いて微分方程式の一般解が求められること。
	15週	期末試験	
16週	テスト返却と解説		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	4	後1,後2
				合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	4	後6,後7
				簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	4	後6,後7
				2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	4	後4,後5
				微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	4	後7,後14
				簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	4	後11
				定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。	4	後10
				簡単な1変数関数の局所的な1次近似式を求めることができる。	4	後9,後11
				1変数関数のテイラー展開を理解し、基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	4	後9,後11,後13
オイラーの公式を用いて、複素数変数の指数関数の簡単な計算ができる。	4	後3,後4				

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	総合科学
科目基礎情報					
科目番号	007		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	配付プリント				
担当教員	松尾 明洋,竹内 伯夫				
到達目標					
1. イオン結合、共有結合、金属結合の違いを理解している。 2. 簡単な分子の形状を予想できる。 3. 物理数学および電磁気学の基本的な事項について説明できる。 4. プラズマの基本的性質について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	イオン結合、共有結合、金属結合の違いを理解し、正しく説明できる。		イオン結合、共有結合、金属結合の違いを理解している。		イオン結合、共有結合、金属結合の違いを理解していない。
評価項目2	簡単な分子の形状を正しく予想できる。		簡単な分子の形状を予想できる。		簡単な分子の形状を予想できない。
評価項目3	物理数学および電磁気学について、説明と計算が正確にできる。		物理数学および電磁気学について、説明と計算ができる。		物理数学および電磁気学について、説明と計算ができない。
評価項目4	プラズマの性質について、正確に説明できる。		プラズマの性質について、概要が説明できる。		プラズマの性質について、説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-1					
教育方法等					
概要	本講義は、化学と物理の分野で構成して実施する。化学の分野では最初に化学結合論の基本となる原子価結合法と分子軌道法を理解し、簡単な分子の形状や性質を予測できるようになることを目標とする。物理の分野では物理数学とプラズマを扱う。プラズマは「物質の第4の状態」とも呼ばれ、正の荷電粒子（正イオン）と負の荷電粒子（電子や負イオン）を含みつつ、全体として電気的にほぼ中性の気体を示す。プラズマ中では荷電粒子の間にクーロン力が働き、様々な現象が確認できる。数学的理解を深めながら、電磁場中の荷電粒子の動きの物理的なイメージや、集団運動としてのプラズマの振る舞い等を理解し、プラズマに関する基本概念を定性的・定量的に習得することを目標とする。なお本科目はSDGsの目標「4.質の高い教育」と「17.パートナーシップ」に対応している。				
授業の進め方・方法	化学の分野では化学結合の原理についての理解度を確保するために、講義の最初に前回分の内容について小テストを行う。さらに理解を深めるために、事後課題を課す。物理の分野では講義中心の授業を行う。事後学習として適宜レポートを実施する。化学の分野も物理の分野も小テストの成績60%、課題の提出および解答状況40%の比率で評価する。化学と物理の各分野を50点満点として総合的に評価し、合計60%以上の得点率で目標達成とみなす。また、本科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを課します。				
注意点	化学の分野は化学 I の化学結合の内容を復習しておくこと。 物理の分野は八坂保能（著）『放電プラズマ工学』 森北出版を元にプリントを作成している。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	【化学分野】 ・シラバス説明 ・化学結合（1）	・イオン結合、共有結合の特徴を、簡単に説明できるようになること。	
		2週	・化学結合（2） ・小テスト（1）	・金属結合、配位結合、水素結合の特徴を、簡単に説明できるようになること。 ・原子の電気陰性度の違いから、分子の極性を説明できるようになること。	
		3週	・化学結合（3） ・小テスト（2）	・量子数の意味を理解すること。ポーアモデルとエネルギー準位を理解し、原子軌道の形状を書けるようになること。	
		4週	・化学結合（4） ・小テスト（3）	・パウリの原理、フントの規則を説明できるようになること。	
		5週	・化学結合（5） ・小テスト（4）	・原子価を理解し、混成軌道の形状を書けるようになること。 ・分子の形状を混成軌道の考え方で説明できるようになること。	
		6週	・化学結合（6） ・小テスト（5）	・分子軌道法により、等核二原子分子の結合の強さ、酸素分子の常磁性を説明できるようになること。	
		7週	・分子の励起と緩和（1） ・小テスト（6）	・光と分子の相互作用について説明できるようになること。	
		8週	・分子の励起と緩和（2） ・小テスト（7）	・分子の励起過程と緩和過程を説明できるようになること。	
	4thQ	9週	【物理分野】 ・シラバス説明 ・プラズマの基礎 ・物理数学（1）	・プラズマとは何か説明できるようになること。 ・物理で使用する数学（物理数学）の基礎が説明できるようになること。	
		10週	・物理数学（2）	・物理で使用する数学（物理数学）の基礎が説明できるようになること。	

	11週	・電磁気学（1）	・電磁気学の基礎について説明できるようになること。
	12週	・電磁気学（2）	・電磁気学の基礎について説明できるようになること。
	13週	・プラズマの性質	・ラーマー運動およびプラズマ振動について、計算やシミュレーションを用いて説明できるようになること。
	14週	・問題演習 ・小テスト（8）	・物理数学、電気磁気学およびプラズマの基本的性質に関する問題の解法を説明できるようになること。
	15週	・放電プラズマの応用	・核融合発電の概要について説明できるようになること。
	16週	・総括	・学修内容をまとめ、理解を深めること。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	環境科学特講		
科目基礎情報							
科目番号	008		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	前期:1			
教科書/教材	理工系学生のための生命科学・環境科学/東京化学同人						
担当教員	富永 伸明						
到達目標							
1. 生命の構造や成り立ちについての基本概念を理解していること。 2. 生命と環境の関わりについての基本的概念を理解していること。 3. 環境科学の基本的概念を理解していること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	生命の構造や成り立ちについての基本概念を理解して説明できる。		生命の構造や成り立ちについての基本概念を概ね理解して概ね説明できる。		生命の構造や成り立ちについての基本概念を理解せず説明できない。		
評価項目2	生命と環境の関わりについての基本的概念を理解して説明できる。		生命と環境の関わりについての基本的概念を概ね理解して概ね説明できる。		生命と環境の関わりについての基本的概念を理解せず説明できない。		
評価項目3	環境科学の基本的概念を理解して説明できる。		環境科学の基本的概念を概ね理解して概ね説明できる。		環境科学の基本的概念を理解せず説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A-2 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4							
教育方法等							
概要	今日の高度技術社会において“もの”、“技術”は“生命”、“環境”を強く意識しなければならない。先端的な技術者は、これらの知識なくしては社会に貢献していくことは困難である。また、深刻化している地球規模の環境問題は生命との関わりを考えずには理解できない。本科目では、生命科学と環境科学の基礎を理解し、技術者としての倫理的環境観を身に付けることが必要である。						
授業の進め方・方法	講義を中心に進める。 毎回の授業にあたっては事前に教科書を予習し、分からない内容を整理しておくこと。						
注意点	本科目では、生命科学関連科目をほとんど履修していない学生は、本科1、2年生で行われた基本的な生物および化学の知識程度は理解してから、選択するようにすること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	生命の基本構造		生命の基本構造を理解する。		
		2週	生体エネルギー		生体エネルギーを理解する。		
		3週	代謝		代謝を理解する。		
		4週	分子から見た遺伝情報		生物の設計図を理解する。		
		5週	分子から見た遺伝情報		遺伝情報伝達を理解する。		
		6週	分子から見た		分子から見た生物を理解する。		
		7週	情報伝達		生体内の情報伝達を理解する。		
		8週	情報伝達		分子による情報伝達を理解する。		
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	生物の進化		生物の進化を理解する。		
		11週	生物圏と生物多様性		生物圏についてを理解する。		
		12週	生物圏と生物多様性		生物多様性について理解する。		
		13週	環境と化学物質		化学物質の定義と環境汚染を理解する。		
		14週	環境と化学物質		化学物質の管理を理解する。		
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却と解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築学特別研究 I
科目基礎情報					
科目番号	AC016		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 6	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	前期:5 後期:5	
教科書/教材	研究課題に応じて各自収集する。				
担当教員	岩下 勉, 下田 誠也, 正木 哲, 森田 健太郎				
到達目標					
1. (研究への取組) 研究の内容を理解し, 自発的に計画を立てて行うことができる。 2. (論文) 研究の現状・課題を把握し, 適切な方法で結果を得て考察を行うことができる。 3. (成果発表) 発表資料をわかりやすく作成し, 説明・質疑応答を適切に行うことができる。 ※下記ルーブリックは簡易版であり, 概要に示す(a)~(l)の観点での詳細な評価を行う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	研究の社会的意義を理解し, 研究記録を漏れなく記載する倫理観を持ち, 自発的に計画を立てて取り組むことができる。		研究の内容を理解し, 自発的に計画を立てて行うことができる。		研究内容が理解できず, 自発的に計画を立てることができない。
評価項目2	研究の現状・課題を把握し, 適切な方法で結果を得て考察を行うことができ, 将来展望も示すことができる。さらには適切な書式で成果報告書を作成できる。		研究の現状・課題を把握し, 適切な方法で結果を得て考察を行うことができ, さらには適切な書式で成果報告書を作成できる。		研究の現状・課題を把握し, 適切な方法で結果を得て考察を行うことができない。あるいは適切な書式で成果報告書を作成できない。
評価項目3	発表資料をわかりやすく作成し, 適切に説明することができるほか, 質疑にも適切に回答できる。		発表資料をわかりやすく作成し, 適切に説明することができる。		発表資料をわかりやすく作成し, 適切に説明することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	日本は技術立国を目指して努力し, 「世界の工場」「技術大国」として世界に貢献してきた。しかし今日, 日本の産業技術は大きな転換期にあるといわれている。すなわちこれまでの大量生産技術が有効である時代は過ぎようとしている。これからの技術者は「もの」を安価に大量生産することではなくて, 「新しい何かをいかに, 廃棄の環境への配慮もしてつくるか」という, これまでにも増して「課題発見解決型技術者」であることが求められている。新しい何かをつくるためには独創力を発揮できる能力を身につける必要がある。				
授業の進め方・方法	特別研究 I では各自の持つ研究テーマに対し, 担当教員の下で研究をすすめる。高等専門学校本科で得た学識や技術を基礎として, さらに広く深く専門知識を得るとともにその総合化と深化を図り, より高度で実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目標とする。また, 研究の過程における研究者間の討論や成果の発表に際して, 自己の主張を的確に相手に伝えることのできる能力, 研究成果を成果報告書としてまとめるにあたり, 論理的な記述力を身につけることを目的とする。				
注意点	独創的なアイデアは限られた時間や場所で浮かぶものではない。日常生活の中でも常にヒントとなるものがないか探す習慣を身につける必要がある。また研究実験は限られた時間で終わらず, 長時間集中して連続的に行うことが必要になることも多い。各自で効果のある特別研究計画を立ててほしい。 ※下記各項目全てが60%以上を合格とする。 以下の取組・論文・成果発表の3つの項目を(a)~(m)の観点によって評価する。 研究への取組 (40点) (a) 研究に関する文献を読む等して, 研究内容の理解に努めたか。(10点) (b) 自発的に研究計画を立て倫理観を持って研究を行ったか。(20点) (c) 担当教員が指示したデザイン能力育成のための取組を行ったか。(10点) 成果報告書 (30点) (d) 成果報告書は一般的な報告書の書き方に従って書かれていたか。(5点) (e) 成果報告書は, 文章はもちろん, 図・表や構成・レイアウトを含めて, 適切に書かれていたか。(5点) (f) 研究目的は現状の課題・問題を把握し, 従来の研究との比較も含めて適切に設定されていたか。(5点) (g) 研究の方法は適切であったか。(5点) (h) 研究方法に従い, 研究結果が適切に得られているか。(5点) (i) 研究結果に対する考察は適切になされたか。(5点) 成果発表 (30点) (j) 発表資料は一般的な書き方に従って準備されていたか。(5点) (k) 発表資料はわかりやすく作成されていたか。(5点) (l) 研究内容の説明は適切であったか。(10点) (m) 質疑に対する応答は適切であったか。(10点)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	研究活動		自発的に計画を立てて研究を進め, 研究課題の意義・内容を理解し, 成果をわかりやすくまとめ, 説明できること。
		2週	同上		同上
		3週	同上		同上
		4週	同上		同上
		5週	同上		同上
		6週	同上		同上
		7週	同上		同上
		8週	同上		同上

	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	同上	同上	
		14週	同上	同上	
		15週	同上	同上	
		16週	同上	同上	
	後期	3rdQ	1週	同上	同上
			2週	同上	同上
			3週	同上	同上
			4週	同上	同上
			5週	同上	同上
			6週	同上	同上
			7週	同上	同上
			8週	同上	同上
4thQ		9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	同上	同上	
		14週	同上	同上	
		15週	同上	同上	
		16週	研究成果の発表会	成果報告書を適切に作成したうえで、発表資料をわかりやすく作成し、説明・質疑応答を適切に行うことができること。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的方法で明確化できる。	4	
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	40	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	30	20	0	70
分野横断的能力	0	10	0	10	10	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築学技術英語	
科目基礎情報						
科目番号	AC018		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材	選定した英語論文のコピー等を提供する					
担当教員	金田 一男, 岩下 勉, 下田 誠也, 松岡 高弘, 正木 哲, 森田 健太郎					
到達目標						
1. 技術論文等の購読による読解力を習得できる。 2. 英語文献の理解と習得により、高度な専門的知識を深く理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
評価項目1	技術論文等の購読による読解力をより深く習得できる。		技術論文等の購読による読解力を習得できる。		技術論文等の購読による読解力を習得できない。	
評価項目2	英語文献の理解と習得により、高度な専門的知識を正しい語句を使用してより深く理解できる。		英語文献の理解と習得により、高度な専門的知識を深く理解できる。		英語文献の理解と習得により、高度な専門的知識を深く理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2						
教育方法等						
概要	工学および建築学の技術は、国内のみならず、当然ながら海外で同時に進展しており、先端の技術開発を行っていくには、諸外国の技術をいち早く修得する必要がある。現在、これらの技術論文は英語が多数を占めている。そのため、海外の雑誌や研究報告書および英語による技術論文等を講読し理解する能力が必須となる。この科目の目標は、本科での英語の授業を通して修得した英語文献の読解力を更に発展させるとともに、高度な専門的知識を習得できることである。そのため、建築学技術英語では英語文献の和訳を行い、最終的に和訳した文献をレポートとしてまとめる。 なお、本科目は、SDGsのうち、「11. 住み続けられるまちづくり」に関する内容について学ぶ。					
授業の進め方・方法	大きく計画・環境系、構造・生産系の2つに分け、各系において関連のある英語文献を用いて、担当教員が指導していく。					
注意点	特別研究のテーマに関連した専門科目や応用数学、統計学、応用物理学等の知識が必要であるし、また文献を読み、論文をまとめるために必要な国語力や英語力を必要とする。そのため、特別研究テーマに関連した科目の予習および復習が大切となる。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび文献選択	授業の概要について理解できる。また、翻訳する英語文献を選択できる。		
		2週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		3週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		4週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		5週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		6週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		7週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		8週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
	2ndQ	9週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		10週	中間提出	選択した英語文献について60%以上の内容を深く理解できる。		
		11週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		12週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		13週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		14週	和訳作業	選択した英語文献について内容を深く理解できる。		
		15週	最終提出			
		16週	レポート返却と解説			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力向上のための学習	関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	4	前10,前11,前12,前13,前14
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他
						合計

総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	合同特別実験
科目基礎情報					
科目番号	AC019		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	前期:2	
教科書/教材	授業中に配布するテキスト				
担当教員	篠崎 烈,坂本 武司,伊野 拓一郎,河野 晋,石丸 智士,嘉藤 学,富永 伸明,石川 元人,下田 誠也				
到達目標					
<p>1. 班員と協力し, 計画的に実験を遂行することができる。さらに, 出身学科の実験では指導者的見地で実験を遂行することができる。</p> <p>2. 学際的知識を理解し, 実践・活用することができる。</p> <p>3. 実験した内容および結果を報告書にまとめ, 期限までに提出することができる。</p> <p>4. 実験の意図する課題を自ら理解し, 論理的に報告書に記載することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	積極的に班員と協力し, 計画的に実験を遂行することができる。さらに, 出身学科の実験では積極的に指導者的見地で実験を遂行することができる。		班員と協力し, 計画的に実験を遂行することができる。さらに, 出身学科の実験では指導者的見地で実験を遂行することができる。		班員と協力し, 計画的に実験を遂行することができない。出身学科の実験では指導者的見地で実験を遂行することができない。
評価項目2	学際的知識を理解し, 積極的に実践・活用することができる。		学際的知識を理解し, 実践・活用することができる。		学際的知識を理解し, 実践・活用することができない。
評価項目3	実験した内容および結果を論理的な日本語で報告書にまとめ, 期限までに提出することができる。		実験した内容および結果を報告書にまとめ, 期限までに提出することができる。		実験した内容および結果を報告書にまとめ, 期限までに提出することができない。
評価項目4	実験の意図する課題を自ら理解し, 論理的思考を加えたうえで報告書に表現することができる。		実験の意図する課題を自ら理解し, 論理的に報告書に記載することができる。		実験の意図する課題を自ら理解し, 論理的に報告書に記載することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	本校では, 本科4年次から専攻科2年次までの4年間に相当する学習・教育に対して, 一貫した1つの教育プログラムとして「複合生産システム工学」を設定している。本プログラムでは, 工業生産活動(機械・電気・電子情報・物質・建築)における諸課題を自ら発掘し, 多角的な視点から問題を解決し, ものづくりを行う能力を育成することを目指している。そのために本科5学科の特長をベースとして, 各学科の基礎実験をすべての専攻科生が学習することにより, 専門技術の深さだけでなく工学分野における技術の幅の広さを身につけることができる。				
授業の進め方・方法	それぞれの学科の基礎実験(工作実習も含む)を, 他の4学科の出身学生に対して行う。なお, 自分の出身学科が行う実験に当たっては, 出身学科学生は, 担当教員のチューターとして, 各担当教員の補佐を勤める。				
注意点	本実験では, 5学科を順次巡り, 各学科で用意した実験を行う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	A: エンジンの分解組立 B: 手仕上げ加工実験 C: 熱工学実験	A: エンジンの分解組立をすることで構造や組立技法を考察し理解できる。 B: 金属に対する手仕上げ加工を実施し, メカニズムと理論を考察し理解できる。 C: 熱力学・伝熱工学に関する実験を行い, 理論を考察し理解できる。	
		2週	A: エンジンの分解組立 B: 手仕上げ加工実験 C: 熱工学実験	A: エンジンの分解組立をすることで構造や組立技法を考察し理解できる。 B: 金属に対する手仕上げ加工を実施し, メカニズムと理論を考察し理解できる。 C: 熱力学・伝熱工学に関する実験を行い, 理論を考察し理解できる。	
		3週	A: エンジンの分解組立 B: 手仕上げ加工実験 C: 熱工学実験	A: エンジンの分解組立をすることで構造や組立技法を考察し理解できる。 B: 金属に対する手仕上げ加工を実施し, メカニズムと理論を考察し理解できる。 C: 熱力学・伝熱工学に関する実験を行い, 理論を考察し理解できる。	
		4週	A: サーボモータの特性 B: 高圧水銀灯の特性試験	A: 交流二相サーボモータの伝達関数を求め, その特性が理解できる。 B: 高圧水銀灯の特性試験を通して, 水銀灯の特性を理解できる。	
		5週	A: CR発振回路 B: 気中火花放電特性	A: CR発振回路に関する実験について, 測定結果を考察できる。 B: 高電圧実験の基礎である空気中における放電特性を理解するとともに, 極性効果について理解できる。	
		6週	A: オペアンプの特性 B: 直流分巻電動機	A: オペアンプに関する実験について, 測定結果を考察できる。 B: 直流分巻電動機の起動方法, 速度制御方法, 回転方向の転換について理解できる。	
		7週	UNIXサーバマシンの使用	WebサーバであるUNIXサーバマシンにログインし, 基本的なUNIXコマンドを使うことができる。	

2ndQ	8週	Webページ作成(1)	HTML言語でWebページを記述できる。
	9週	Webページ作成(2)	Javascript言語を用いて動きのあるWebページを記述できる。
	10週	口腔細胞からのDNAの抽出	細胞からDNAが抽出できることを理解できる。
	11週	アルコールデヒドロゲナーゼ遺伝子のPCRによる増幅	PCR法で調べた遺伝子が増幅できることを理解できる。
	12週	電気泳動による増幅産物の分離・分析	増幅産物を分析することで遺伝子の異変が調べられることを理解できる。
	13週	コンクリートの圧縮強度試験	コンクリートの圧縮強度試験を理解できる。
	14週	鉄筋の引張強度試験	鉄筋の引張強度試験を理解できる。
	15週	材料強度試験結果のデータ整理方法	コンクリートおよび鉄筋の強度試験結果について、データ整理方法を理解できる。
	16週	レポート返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築設計特別演習 I
科目基礎情報					
科目番号	AC020	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	前期:2		
教科書/教材	なし				
担当教員	正木 哲,森田 健太郎				
到達目標					
1. 与えられた課題 (コンペ応募・他課題) において、課題の理解・探求ができる。 2. 課題の解決が独創的であり、技術的に裏付けできる。 3. コンセプトや問題解決方法を明確にでき、惹きつけるプレゼンテーションができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	よく課題を理解し、適切な探求ができる。	課題の理解・探求ができる。	課題の理解・探求ができない。		
評価項目2	課題の解決が独創的であり、技術的に裏付けできる。	課題の解決はだいたいの射ており、技術的に裏付けできる。	課題の解決が的を射ておらず、技術的に裏付けできない。		
評価項目3	コンセプトや問題解決方法が明快であり、惹きつけるプレゼンテーションができる。	コンセプトや問題解決方法が示され、プレゼンテーションができる。	コンセプトや問題解決方法は明確でなく、プレゼンテーションも劣る。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-1					
教育方法等					
概要	本科の「建築設計演習」および「卒業設計」あるいは「構造設計演習」、「設備設計演習」を通じて修得した技術力をさらに発展させ、学外の他大学生や社会人が参加する設計コンペ等に応募し、一般社会で通用する設計水準の技術力を獲得することが本教科の目標である。 提案は取り組む演習課題やコンペのテーマに応じながら、建築界の現状と社会の動向を洞察して、将来に目を向けた若者らしい夢のある独創的なもの、あるいは技術的に裏付けのあるものでなければならず、コンセプトと問題解決方法を明確にし、プレゼンテーションなどに留意した意欲的な作品をつくりあげることが目標である。なお、参加コンペについては原則として教員が指定するコンペの中から選定し、チームで取り組み応募する。 対象とするコンペは、毎年行われていること、そして、高専生や大学生、大学院生が主たる対象になっており、一定水準の設計レベルが求められているものとする。なお、コンペの課題によっては、計画系・構造系・環境系の分野横断でチームをつくりコンペに取組み応募することもある。 また、コンペに先立ち、模型制作等の課題に取り組み、材料加工、制作方法を学ぶとともに、空間の発想、認識力を高める。本科目はSDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」に関わっている。				
授業の進め方・方法	演習中心である。なお、当該コンペの締め切り日によって、作業に充てる期間は変動する可能性がある。また、授業計画に記載していないが、適宜中間発表を行うこととする。				
注意点	本科の「建築設計演習」および「卒業設計」、「構造設計演習」、「設備設計演習」で修得した能力を基礎とするが、さらに、これまでの専門科目で学んだ知識を総合することはもとより、建築業界や日本建築学会で何が求められているかを常に意識することが重要である。予習としてエスキスを進めてくること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業目標及び内容説明、コンペ説明と模型制作説明	コンペ課題の決定と今後の進め方を理解する	
		2週	模型制作	模型制作のための準備・学習、空間の提案、設計・製作を行うことができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	コンペ課題説明	コンペ課題を読み解き、過去のコンペ課題を収集することができる。	
		8週	イメージディスカッションとブレインストーミング	提案イメージを作成し、構想案を練るとともに構想案をまとめることができる。	
	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	構想案のエスキスチェック、ディスカッション	具体的な形に落とし、検討し、修正することができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	図面作成	プレゼンテーション用図面に仕上げることができる。	
		13週	同上	同上	
		14週	同上	同上	
		15週	作品の提出と発表会	作品の提出、発表を行う	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	創造設計合同演習
科目基礎情報					
科目番号	AC022		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:2	
教科書/教材	なし				
担当教員	坂本 武司,石川 洋平,小林 正幸,藤原 ひとみ,白川 知秀				
到達目標					
1. これまで身に付けた専門分野に関する科学技術の知識や情報を活用して、商品改善提案とそのデザインができる 2. 費用および時間的な制約のもとで、改善商品の設計から製作までを計画的に実施できる 3. 本科での所属を超えたチーム編成の中で、他分野の学生と協力しながら、これまで自らが学んだ知識を活かしてチームに貢献できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	提案する商品改善はその必要性を有しており、実現が可能である。	提案する商品改善はその必要性が認められ、実現可能性がある。	提案する商品改善はその必要性が認められない。		
評価項目2	取り組んだ商品の内容に対して、製作した商品の完成度が高い。	取り組んだ商品の内容に対して、製作した商品の完成度が妥当である。	取り組んだ商品の内容に対する製作した商品の完成度が得られていない。		
評価項目3	他分野の学生と協力し、自分の既存知識を活かしてチームに貢献できる。	他分野の学生と協力し、チームに貢献できる。	他分野の学生と協力ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	本科目で、学生は「商品改善提案・製作」を行う。既存の商品の欠点をいろいろな角度から検討し、何らかの方法で改善を加えてより良い商品を提案・製作する。本科目では、自ら進んで未知の問題を解決する意欲、能力、創造力およびグループで協力し、話合って物事を解決する能力、プレゼンテーション能力等を養う。 「SDGs 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」				
授業の進め方・方法	本科目はPBL科目としても位置付けられるため、学生が主体的に計画し、進めていくことが特に重要である。また、本科での所属コースを越えたチーム編成で授業に取り組む。そのため、授業時間外における打ち合わせ・作業等の時間設定・計画をうまくマネジメントする必要がある。本授業で進めるプロジェクトは大きく3つの段階に分けられる。 1. 課題の説明、プロジェクトの準備・設計段階 2. 製品の製作を行う段階 3. プレゼンテーションの準備と実施 なお、第1回目の授業は前期（夏休み前）に実施する。このような商品改善提案などのアイディアは、後期に授業を開始してすぐに出てくるほど簡単なものではない。これまでの学生の要望を踏まえ、夏休み前に班分けを行い、夏休み期間中にアイディアを考えることができるようにする。第1回目の授業の日時については各系の担当教員より事前に連絡をする。 また、本授業のはやい段階で、商品改善に活かすことの助けとなるよう「知的財産に関するセミナー」を受講する予定である。 さらに、プレゼンテーションは最終発表以外にも、中間発表を行う。なお、例年12月には、シンガポールポリテクニク（SP）学生が本校を訪問しており、都合が合えば、SP学生への英語での発表やSP学生との交流を実施する。このことも踏まえ、英語による授業説明を実施することもある。				
注意点	2年次の課題研究1、4年次の創造設計基礎演習などでは教員側から課題を与えられ、その解決にチームで取り組むことを行っている。本科目では、それを発展させて、商品に関する課題を自ら抽出し、その課題を解決した商品を製作する。すなわち、商品改善を行うことで商品の課題を解決するという前述したPBL科目と位置づけられる。前提となる知識の指定はないが、各学生がこれまでに培った専門知識、および、創造力、問題解決能力等が、プロジェクトを進める上で重要となる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・班分け（前期） 安全教育	授業の進め方を理解できる。 安全に関する注意事項を理解できる。	
		2週	商品改善案の発表1	発表、案の再検討をできる。	
		3週	商品改善案の発表2	発表、案を再検討・具体化を行うことができる。	
		4週	案の検討、物品購入、製作作業	案を再検討・具体化を行うとともに、物品購入、製作の検討を行ってできる。	
		5週	案の検討、物品購入、製作作業	案を再検討・具体化を行うとともに、物品購入、製作作業を進めることができる。	
		6週	製作作業	製作作業を進めることができる。	
		7週	商品改善の中間発表（1）	中間発表で案の説明ができる。	
		8週	製作作業	製作作業を進めることができる。	
	4thQ	9週	製作作業	製作作業を進めることができる。	
		10週	商品改善の中間発表（2）	中間発表で案の説明ができる。	
		11週	製作作業	製作作業を進めることができる。	
		12週	製作作業	製作作業を進めることができる。	
		13週	製作作業	製作作業を進めることができる。	
		14週	製作作業・最終発表準備	製作作業を進めるとともに、最終発表の準備に取り組むことができる。	

		15週	最終発表		最終発表会において製作した商品の説明ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	15	5	0	20	60	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	20	0	20
分野横断的能力	0	15	5	0	0	60	80

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度(2022年度)	授業科目	特別実習 I
科目基礎情報					
科目番号	AC023		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	特になし				
担当教員	下田 誠也, 岩下 勉				
到達目標					
<p>1. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。</p> <p>2. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組み、実習現場において経験する実務上の課題を解決し、適切に対応することができること。</p> <p>3. 実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目1	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を明確に理解できること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できない。
評価項目2	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、主体的に取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための適切な対応ができること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための対応ができること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組むことができない。
評価項目3	実習の成果を口頭発表およびレポートで詳細に説明できること。		実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できること。		実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
<p>学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1</p> <p>学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1</p>					
教育方法等					
概要	<p>専攻科を修了する学生は、将来的には、技術者としては企業で働く可能性が高い。学外で実習を体験することで、企業での技術者の実態、すなわち技術者の実務内容を実際に見聞し、また一部を体験することによって、技術者とはどのようなものなのか学校では得られなかった情報が得られる。また、そのことにより企業人、社会人としての心構えを身につけることもできる。すなわち企業人の一日の生活日程から仕事の分野、各担当部門の役目、守らねばならない規律そして現在の企業で行われている技術水準など多彩な情報が得られる。まさに“百聞一見に如かず”である。またその情報から省みていま学校で学習しておくべきことが明確に把握できると思われる。自分の将来の進路あるいはどのような技術分野に進もうとしているのか、それにふさわしい実習先を開拓する必要がある。企業側の受け入れもさまざまな困難や問題を抱えているので、早めに実習先の候補を決め、企業側とのコンタクトをとる必要がある。</p> <p>なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>派遣先にて実習を行う。期間は10日以上である。</p> <p>毎日の実習には、しっかり準備をして臨むこと。</p>				
注意点	<p>本科では、基礎的な学習に力点が置かれているため、十分な学外実習の時間を取ることができなかつたが、専攻科では応用力を身につけるためにも、これを必修の特別実習として位置付けている。本科で学んだことおよび専攻科で学習していることを、実際の現場で実践的に学習することに意義がある。また、専攻科修了後、実社会で勤務する場合の実務の内容を知ることによって、専攻科で学ぶ学問の必要性、重要性を認識してもらうための動機付けとしても意味があるし、学校では学びにくい実社会の仕事の種々な内容、それに対する企業の取り組み方、組織の実態などを考察させることに意味がある。</p> <p>評価方法は実習報告書および報告会での発表により、以下の項目について総合的に評価する。ただし、必要に応じて受け入れ先からの評価も加味する。</p> <p>①実習で与えられた課題に対して、その本質が示されたか。(実習内容や課題の理解)</p> <p>②実習で与えられた課題に対して、自ら取り組んだことが示されていたか。(実習への積極性と実務の完遂)</p> <p>③発表資料は適切に作成されていたか。</p> <p>④実習内容等を説明することができたか。</p> <p>⑤質疑に対する応答は適切であったか。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		2週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		3週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		4週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		5週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		6週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		7週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		8週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	

	2ndQ	9週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		10週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		11週	報告書作成	実習成果について、レポートにまとめることができること。
		12週	報告書作成	実習成果について、レポートにまとめることができること。
		13週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		14週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		15週	発表会	実習成果について、発表資料を使い口頭で説明でき、質疑に対して対応できること。
		16週	予備	
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	実用情報処理
科目基礎情報					
科目番号	AC025		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	担当教員が配布するプリント、インターネット社会を生きるための情報倫理；情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究グループ/実教出版				
担当教員	菅沼 明				
到達目標					
1. 責任を持って情報を扱う能力として、情報倫理の重要性を説明できる 2. 情報を活用する能力として、文書作成ソフトの応用操作ができる 3. 情報を活用する能力として、表計算ソフトの応用操作ができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	責任を持って情報を扱う能力として、情報倫理の重要性を説明でき、ネット被害などの例を挙げて防止策などを説明することができる。		責任を持って情報を扱う能力として、情報倫理の重要性を説明できる。		責任を持って情報を扱う能力として、情報倫理の重要性を説明できない。
評価項目2	文書作成ソフトの応用操作ができ、自分で工夫をした便利な文書を作成することができる。		文書作成ソフトの応用操作ができる。		文書作成ソフトの応用操作ができない。
評価項目3	表計算ソフトの応用操作ができ、自分で工夫をした便利なシートを作成することができる。		表計算ソフトの応用操作ができる。		表計算ソフトの応用操作ができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	<p>実用情報処理は、本科の所属が電子情報工学科以外の専攻科生を対象とする。本授業は本科の情報処理基礎(情報リテラシー)の応用に位置付けられる。</p> <p>現在、誰もが情報システムを使えるようになり、キーボード操作やインターネットを活用した情報検索・分析のスキルを持つことは当然のこととみなされるようになってきている。社会(特に企業)では、さらに高度な内容を理解し、高度な情報処理を行うことが求められている。また、情報処理に関する問題もたびたび発生し、正しい情報システムの取り扱いや情報の利用・管理に関する判断力も求められている。こうした情報システム利用環境の高度化に伴い、本授業では情報倫理および高度な情報リテラシーのスキルの習得を目的とする。この目的を達成するために次の2つの授業目標を掲げる。</p> <p>第1の目標は、責任を持って情報を扱う能力を養うことである。そのために、本授業では、情報倫理(情報を取り扱う際の注意や情報に関する法制度、ルールやマナー、トラブルへの対策など)を学習する。</p> <p>第2の目標は、より高度な情報処理を行うために必要な知識や技術を習得することである。そのために、本授業では、文書作成ソフトや表計算ソフトの中級～上級レベルの利用法を学習する。</p> <p>この科目はSDGsの目標のうち、「4.質の高い教育をみんなに」と「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」に関連する。</p>				
授業の進め方・方法	情報倫理に関しては講義を中心とし、文書作成ソフト・表計算ソフトの学習に関しては実習・演習を中心として授業を行う。演習において、各自の進むペースによっては時間外に取り組む必要がある。				
注意点	コンピュータおよびWindowsの操作、MS-Word、MS-Excelの基本操作をマスターしていることが望ましい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 文書作成ソフトの応用操作1	テキストボックスを利用して表などを作成できることを理解できる。表作成機能を使用して、複雑な表をくみ上げるための技術を理解できる。	
		2週	文書作成ソフトの応用操作2	ビジネス報告書の例として営業月報の文書のテンプレートを作成することができる。	
		3週	文書作成ソフトの応用操作3	フォームを利用して電子的なアンケート用紙を作成することができる。差し込み印刷を利用した文書を作成することができる。	
		4週	文書作成ソフトの応用操作4	長文レポートの作成に関して、見出しの設定や目次の自動作成・更新などを行うことができる。	
		5週	文書作成ソフトの応用操作5	長文レポートの作成に関して、ヘッダ・フッタの作成、参考文献リストの作成などを行うことができる。	
		6週	文書作成ソフトの応用操作6	文書作成ソフトの機能を活用して文章の校正作業を行うことができる。 文書作成ソフトの機能を活用して統一的な図表の番号付けを行うことができる。	
		7週	情報倫理 (情報の正しい取扱い)	個人情報と知的財産に関して理解し、取り扱い方法を理解することができる。ネットにおけるコミュニケーションマナーを理解することができる。	
		8週	情報倫理 (情報に関する法律、情報セキュリティ)	情報社会で生活するうえで注意すべき点を理解することができる。情報セキュリティに関して重要性を理解することができる。	
	2ndQ	9週	表計算ソフトの応用操作1	関数を利用して計算を実行するシートを作成することができる。	

	10週	表計算ソフトの応用操作2	条件付き書式やユーザ定義の表示形式など、シート上に便利な表を作成することができる。
	11週	表計算ソフトの応用操作3	複数のブックに跨るデータを操作することができる。
	12週	表計算ソフトの応用操作4	表計算ソフトを用いたデータベース機能の実現法を理解し、シートを作成・活用することができる。
	13週	表計算ソフトの応用操作5	ピボットテーブルとピボットグラフを作成することができる。マクロとはどのようなものかを理解し、マクロを作成することができる。
	14週	表計算ソフトの応用操作6	ソルバとはどのようなものかを理解し、ソルバを利用して問題を解決することができる。
	15週	期末試験	
	16週	テスト返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	15	0	75
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	15	0	25

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	機械システム要素	
科目基礎情報						
科目番号	AC028		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	前期:1		
教科書/教材	教員作成教材					
担当教員	堀田 源治,南 明宏					
到達目標						
1. 自動機械の、機素、機構、動力、アクチュエータ、制御を理解し、説明できる。 2. 自動機械に関する力学、順運動学、逆運動学を理解し、機械要素の軌跡を描いてその動作について計算できる。 3. 自動機械を用いたFMC生産システムに関する生産管理・安全管理について理解し、説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	自動機械の、機素、機構、動力、アクチュエータ、制御を理解し、正しい語句を用いて詳細に説明できる。	自動機械の、機素、機構、動力、アクチュエータ、制御を理解し、説明できる	自動機械の、機素、機構、動力、アクチュエータ、制御を理解していない。説明もできない。			
評価項目2	自動機械に関する力学、順運動学、逆運動学を理解し、機械要素の軌跡が詳細に描けてその動作について数式を用いて求めることができる。	自動機械に関する力学、順運動学、逆運動学を理解し、機械要素の軌跡が描けてその動作について求めることができる。	自動機械に関する力学、順運動学、逆運動学を理解していない。機械要素の軌跡が描けず、その動作について求めることができない。			
評価項目3	自動機械を用いたFMC生産システムに関する生産管理・安全管理について理解し、正しい語句を用いて詳細に説明できる。	自動機械を用いたFMC生産システムに関する生産管理・安全管理について理解し、説明できる。	自動機械を用いたFMC生産システムに関する生産管理・安全管理について理解していない。説明できない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4						
教育方法等						
概要	産業機械はエネルギーを与えられ予め設定された制御によって自動的に生産活動を行う。この機械は要素としての機素から構成されたシステムであり、またこの機械自体もFAシステムの構成要素となっている。機械システム要素は産業機械について、構成要素から機械自体の運動、その機械が要素として組み込まれる自動化生産設備（について学ぶものである。本科目では、1）機械の定義と機素、2）機構の種類と動き、3）機械を動かす運動の原理と力学、3）機械を動かすエネルギー、アクチュエータ、制御のしくみ、4）生産設備の役割としくみ、5）機械の保全、6）安全管理について学ぶ。また、これらの項目に関連する応用力を身に付ける。この科目は企業で自動化機械の設計を担当していた教員が、その経験を活かし、機械要素の種類、特性、最新の設計手法等について講義形式で授業を行うものである。					
授業の進め方・方法	授業時間の前半は講義を行い、後半は演習を行う。演習は個人またはグループ単位で行う。演習問題は前半の講義内容について自ら考えて復習してもらうもので教材の使用もある。					
注意点	本科5年次までの数学や物理の知識を有することが望ましい。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	科目全体のガイダンスとシラバス説明	機械システム要素の科目について理解し、説明できる。			
	2週	機構学 (1)	機械の定義を理解し、その構成要素である機素、対遇とそれらの相互運動について理解し、説明できる。また、機械的運動を保証する自由度について計算できる。回転・直線運動のしくみと回転～直線運動への変換のしくみについて理解し、説明できる。			
	3週	機構学 (2)	機素と対偶の組み合わせであるリンク機構について理解できる。また、日常的な機構を見てリンクの仕組みを見抜くことができる。			
	4週	機構学 (3)	機素と対偶の組み合わせであるカム機構について理解できる。また、基礎的なカム曲線の作図ができる。			
	5週	運動学 (1)	直線運動、回転運動について、力、速度、加速度、変位の関係が分かり、基礎的な計算ができる。			
	6週	運動学 (2)	ロボットの順運動学、逆運動学について理解でき、基礎的な計算ができる。			
	7週	メカニズム (1)	回転～直線の変換運動および機構について理解し、説明できる。			
	8週	前期中間試験	1回～7回までの復習			
	2ndQ	9週	メカニズム (2)	ロボットアームの動きについて理解でき、説明できる。		
		10週	メカニズム (3)	動力源・アクチュエータの種類と特徴、シーケンス制御について理解し、説明できる。		
		11週	産業機械の種類としくみ	加工や組立を実現する機械の種類やしくみについて理解し、説明できる。		
		12週	産業用ロボットの種類としくみ	加工や組立を実現する自動機械やロボットの種類としくみについて理解し、説明できる。		

		13週	品質の維持と保全	生産機能を維持して、信頼性を確保する設備保全について理解し、説明できる。また、機械保全技能検定試験について紹介する。
		14週	生産と安全確保	機械システムが及ぼす環境や人的被害と工場としての対策や配慮について理解し、説明できる。
		15週	期末試験	
		16週	テスト返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	電気電子工学概論		
科目基礎情報								
科目番号	AC030		科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1				
開設期	後期		週時間数	後期:1				
教科書/教材	資料等, 適宜配布。							
担当教員	石丸 智士							
到達目標								
1. 電磁気現象の基本的な法則について説明できる。 2. 直流回路や基礎的な交流回路の解析ができる。 3. 電気諸量の測定方法について説明できる。 4. 半導体素子の役割と基本的な電子回路について説明できる。								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	電磁気の基本的な法則を応用し, 電気諸量を求めることができる。		電磁気の基本的な法則について説明できる。		電磁気の基本的な法則について説明できない。			
評価項目2	直流回路や基礎的な交流回路を解析し, 電流や電圧などの計算ができる。		直流回路や基礎的な交流回路の解析ができる。		直流回路や基礎的な交流回路の解析ができない。			
評価項目3	電気諸量の測定方法について詳細に説明できる。		電気諸量の測定方法について説明できる。		電気諸量の測定方法について説明できない。			
評価項目4	半導体素子の役割と基本的な電子回路について詳細に説明できる。		半導体素子の役割と基本的な電子回路について説明できる。		半導体素子の役割と基本的な電子回路について説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-4								
教育方法等								
概要	電気電子技術は, 産業分野のみならず日常生活において深く浸透しており, 電気電子系以外の工学分野においても電気工学や電子工学に関する基礎的な知識が必要不可欠となっている。本科目では, 電気・電子工学分野における基礎的な事項について学習する。							
授業の進め方・方法	講義を中心に授業を行う。また, 事前・事後学習として, 適宜, 演習課題を課す。							
注意点	物理, 数学の基礎的な知識を身に付けていること。							
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	科目ガイダンス 直流回路(1)			科目の目的, 概要について説明できる。 電気回路の基本法則について説明できる。		
		2週	直流回路(2)			簡単な直流回路の解析ができる。		
		3週	電流と磁気(1)			電荷とクーロンの法則について説明できる。		
		4週	電流と磁気(2)			電流と磁界の関係について説明できる。		
		5週	交流回路(1)			正弦波交流およびインダクタンスやキャパシタンスの役割について説明できる。		
		6週	交流回路(2)			共振回路やブリッジ回路について説明できる。		
		7週	交流回路(3)			交流回路の解析ができる。		
	8週	中間試験						
	4thQ	9週	中間試験答案の確認 非正弦波交流と過渡現象(1)			第1週~第7週の到達度を確認する。 正弦波以外の交流信号の分析方法について説明できる。		
		10週	非正弦波交流と過渡現象(2)			過渡現象について説明できる。		
		11週	電気計測(1)			電流, 電圧及び電力の測定方法について説明できる。		
		12週	電気計測(2)			その他電気諸量の測定方法について説明できる。		
		13週	半導体素子と電子回路(1)			半導体素子の役割について説明できる。		
		14週	半導体素子と電子回路(2)			代表的な電子回路について説明できる。		
		15週	期末試験					
16週		期末試験答案の確認			第9週~第14週の到達度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	情報システム		
科目基礎情報							
科目番号	AC031		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	前期:1			
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	森 紳太郎						
到達目標							
1. コンピュータ利用技術を考慮したリテラシーを身に着けること 2. コンピュータ利用技術の背景となる基礎知識を理解すること 3. 計算機のシステム構成や開発の歴史について理解すること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	コンピュータ利用技術を考慮したリテラシーを身に着けて十分に活用出ること.		コンピュータ利用技術を考慮したリテラシーを身に着けていること.		コンピュータ利用技術を考慮したリテラシー身に着けることができない.		
評価項目2	計算機のシステム構成や開発の歴史について詳細に理解すること.		計算機のシステム構成や開発の歴史について理解すること.		計算機のシステム構成や開発の歴史について理解することができない.		
評価項目3	コンピュータ利用技術の背景となる詳細な基礎知識を理解すること.		コンピュータ利用技術の背景となる基礎知識を理解すること.		コンピュータ利用技術の背景となる基礎知識を理解することができない.		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4							
教育方法等							
概要	コンピュータに関する知識を得るとともに、より高いリテラシーを身に着ける。本科目は、SDGsの17の目標のうち「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」に関連している。						
授業の進め方・方法	プリントを配布して講義形式で授業を行う。事後学習としてレポートを課す。最終評価は試験の成績を70%、レポートの評価を30%とする。						
注意点	レポートはLaTeXによって作成します。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	LaTeXについての解説	LaTeXというシステムを理解すること.			
		2週	LaTeXによる文書作成 1	LaTeXで文章が書けるようになること.			
		3週	LaTeXによる文書作成 2	LaTeXで文章が書けるようになること.			
		4週	LaTeXによる文書作成 3	LaTeXで文章が書けるようになること.			
		5週	コンピュータの歴史	コンピュータ開発と発展の歴史を理解すること.			
		6週	数体系	コンピュータ内部での数値の取り扱いを理解すること.			
		7週	文字コード	文字コードの考え方を理解すること.			
		8週	基本論理ゲート	基本論理ゲートと組み合わせ回路を理解すること.			
	2ndQ	9週	コンピュータアーキテクチャ 1	コンピュータのCPUに関する理解を深めること.			
		10週	コンピュータアーキテクチャ 1	機械語とアセンブリ言語に関する理解を深めること.			
		11週	コンピュータアーキテクチャ 2	コンピュータの周辺装置に関する知識と理解を深めること.			
		12週	ソフトウェアとオペレーティングシステム 1	オペレーティングシステムの基礎知識を身に着けて理解すること.			
		13週	ソフトウェアとオペレーティングシステム 2	オペレーティングシステムの機能について理解すること.			
		14週	ソフトウェアとオペレーティングシステム 3	プログラミング言語に関する理解を深めること.			
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却と解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地域協働特論	
科目基礎情報						
科目番号	AC037-1		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	必要に応じ, 配付.					
担当教員	橋爪 康知, 楠本 昌彦, 岩下 勉					
到達目標						
1. 起業およびブランド戦略について説明できる. 2. 知財と特許について説明できる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	十分説明できる.	起業およびブランド戦略について説明できる.	説明できない.			
評価項目2	十分説明できる.	知財と特許について説明できる.	説明できない.			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 B-4						
教育方法等						
概要	本科目は, 「地球的視野と国際性を備えた技術者」, 「専門知識と多様性・学際性を備えた技術者」, 「実践力と創造性を備えた技術者」を養成するという学習・教育目標を, 周辺地域との関わりの中での実践を通して, 達成するために開講されたものである. 本科目では, 地元自治体や企業で活躍できるような地域の課題解決を担う人材, 地域や国際社会で自考・自立できる人材を実践的に育てることを目標としている. 特に, 起業, ブランド戦略, 知財や特許についての知識を身につける.					
授業の進め方・方法	講義は長期休暇中に行い, 定期的に課題を与える.					
注意点	配布する資料を使い, 予習しておくこと.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	(集中講義1-1) 起業およびブランド戦略について1	起業およびブランド戦略について講義する.		
		2週	(集中講義1-2) 起業およびブランド戦略について2	起業およびブランド戦略について講義する.		
		3週	(集中講義2-1) 知財および特許について1	知財および特許について講義する.		
		4週	(集中講義2-2) 知財および特許について2	知財および特許について講義する.		
			5週			
			6週			
			7週			
			8週			
後期	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
4thQ	9週					
	10週					
	11週					
	12週					
	13週					
	14週					
	15週					
	16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	4	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	4	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	4	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	4	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4	
				企業には社会的責任があることを認識している。	4	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	4	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	4	
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	4					
企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4					
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4					

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	80	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	20	0	20

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地域協働演習 I
科目基礎情報					
科目番号	AC038-1		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	適宜プリント配付				
担当教員	下田 誠也,松岡 高弘,金田 一男,岩下 勉,藤原 ひとみ,正木 哲,窪田 真樹,森田 健太郎,佐土原 洋平				
到達目標					
1. 工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できること。 2. 学習成果を、図表を用いて論理的に説明できること。 3. 限られた時間の中で、課せられた課題に対処できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	工学の基礎的な知識・技術を駆使して的確に調査を企画・実行し、データを正確に分析し、工学的に深く考察できる。		工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できる。		企画・実施した調査の内容、もしくは、得られたデータの分析に重大な欠陥がある。
評価項目2	学習成果を、適切な図表を用い、明快かつ論理的に説明できる。		学習成果を、図表を用いて論理的に説明できる。		学習成果を、図表を用いて論理的に説明することができない。
評価項目3	限られた時間の中で、課せられた課題に対し、的確に対処できる。		限られた時間の中で、課せられた課題に対処できる。		限られた時間の中で、課せられた課題に対処することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	荒尾市地域再生事業では、まちなか研究室を中心とし、多世代が織りなす生き活きとしたコミュニティが再生されつつある。そこで、本科目では、まちなか研究室及び周辺環境の整備について考える。具体的には、まちなか研究室及び周辺環境の状況について実践的な課題を見出すための調査を企画・実施する。なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。				
授業の進め方・方法	授業は、放課後や長期休暇中に行う。授業担当教員の指示に応じて製作の準備や作業、レポート作成、発表会の準備などを行う。授業時間外にも、積極的に現場に赴き、情報収集活動に努めること。				
注意点	本科目は、建築系の科目であるが、そこで必要になる知識・経験は建築の枠に留まるものではない。従って、建築界の動きはもちろん、日常の社会的問題にも常日頃から目を向けていることが必要である。特に、地方都市をめぐる問題への認識が求められる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成、進め方、ならびに評価方法等を知る。	
		2週	調査対象地の現状	調査対象地の現状を説明できること。	
		3週	まちなか研究室をめぐる動向	まちなか研究室をめぐる動向を説明できること。	
		4週	地域の団体との交流	地域の団体との交流を通じて、荒尾市地域再生事業について理解できること。	
		5週	地域の団体との交流	地域の団体との交流を通じて、荒尾市地域再生事業について理解できること。	
		6週	現状把握の成果と今後の取り組み方針の確認	多面的に現状を理解した上で、今後の取り組み方針を説明できること。	
		7週	調査の企画	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
		8週	調査の企画	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
	2ndQ	9週	調査の企画	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
		10週	調査の実施	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより実施できること。	
		11週	データ分析と考察	調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		12週	データ分析と考察	調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		13週	データ分析と考察	調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		14週	プレゼンテーション資料づくり	視覚的かつ論理的で、わかりやすいプレゼンテーション資料が作成できること。	
		15週	発表会と最終総括	論理的で、わかりやすいプレゼンテーションができること。	
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			

		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
		4thQ	9週		
			10週		
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	4	前4,前5	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前4,前5	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前4,前5	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	前2,前3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	前2,前3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	前2,前3,前14	
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	前6,前11,前12,前13	
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	前11,前12,前13	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	前7,前8,前9,前10
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前7,前8,前9,前10
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	前7,前8,前9,前10
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前7,前8,前9,前10
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4	前4,前5
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4	前4,前5

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	70	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	30	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地域協働演習Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	AC039-1		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	適宜プリント配付				
担当教員	下田 誠也,松岡 高弘,金田 一男,岩下 勉,藤原 ひとみ,正木 哲,窪田 真樹,森田 健太郎,佐土原 洋平				
到達目標					
1. 工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できること。 2. 学習成果を、図表を用いて論理的に説明できること。 3. 限られた時間の中で、課せられた課題に対処できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	工学の基礎的な知識・技術を駆使して、地域に内在する問題を的確に捉え、その問題を解決する上で、実効性の高い事業計画を考案できる。		工学の基礎的な知識・技術を駆使して、地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できる。		地域に内在する問題を発見できない。もしくは、提案された事業計画が、地域の問題解決とは無関係である。
評価項目2	学習成果を、適切な図表を用い、明快かつ論理的に説明できる。		学習成果を、図表を用いて論理的に説明できる。		学習成果を、図表を用いて論理的に説明することができない。
評価項目3	限られた時間の中で、課せられた課題に対し、的確に対処できる。		限られた時間の中で、課せられた課題に対処できる。		限られた時間の中で、課せられた課題に対処することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	本科目では、身近な地域の問題解決を図るうえで有用な事業の提案を建築学の立場から行う。その過程では、実際に社会で進められている、地域の問題解決を図る事業に学生諸君が自ら率先して参画することを原則とする。そのねらいは、実践を通じて、地域社会が抱える問題を的確に理解するとともに、その解決には、何が必要かを確かみとることにある。これら成果を活かし、地域の問題解決を図るうえで有用な事業計画の提案を建築学の立場から行う。 なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。				
授業の進め方・方法	授業は放課後や長期休暇中に行う。授業担当教員の指示に応じて製作の準備や作業、レポート作成、発表会の準備などを行う。その他、多様な主体が進める地域の問題を解決する事業に積極的に関わること。				
注意点	本科目は、建築系の科目であるが、そこで必要になる知識・経験は建築の枠に留まるものではない。従って、建築界の動きはもちろん、日常の社会的問題にも常日頃から目を向けていることが必要である。特に、地方都市をめぐる問題への認識が求められる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成、進め方、ならびに評価方法等を知る。	
		2週	テーマ選定	自分が取り組みたいテーマの妥当性を説明できる。	
		3週	テーマ選定	自分が取り組みたいテーマの妥当性を説明できる。	
		4週	地域の問題についての理解を深める活動	地域の問題解決を図る事業に参画し、地域の問題について深く理解できること。	
		5週	地域の問題についての理解を深める活動	地域の問題解決を図る事業に参画し、地域の問題について深く理解できること。	
		6週	地域の問題についての理解を深める活動	地域の問題解決を図る事業に参画し、地域の問題について深く理解できること。	
		7週	現状把握の成果と今後の取り組み方針の確認	多面的に現状を理解した上で、今後の取り組み方針を説明できること。	
		8週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
	2ndQ	9週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		10週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		11週	進捗状況確認	検討を進めている事業計画の妥当性を説明できること。その一方で、当該計画の不十分な点を認識し、今後の方向性を是正できること。	
		12週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		13週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		14週	プレゼンテーション資料づくり	視覚的かつ論理的で、わかりやすいプレゼンテーション資料が作成できること。	
		15週	発表会と最終総括	論理的で、わかりやすいプレゼンテーションができること。	
		16週			

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週				
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	4	前4,前5,前6				
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	4	前4,前5,前6				
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前4,前5,前6				
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前4,前5,前6				
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	前4,前5,前6				
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	前2,前3				
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	前2,前3				
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	前2,前3				
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	前8,前9,前10,前12,前13				
			複数の情報を整理・構造化できる。	4	前8,前9,前10,前12,前13				
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13			
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	前7,前11,前15			
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前8,前9,前10,前12,前13			
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前11,前14			
				態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	前4,前5,前6
							自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4	前4,前5,前6
							チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	前8,前9,前10,前12,前13
							チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13
							当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13
							チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13
リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4	前8,前9,前10,前12							
適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4	前8,前9,前10,前12							

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	0	0	0	0	70	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	30	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	特別実習Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	AC040-1		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 6	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	特になし				
担当教員	下田 誠也,岩下 勉				
到達目標					
<p>1. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。</p> <p>2. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組み、実習現場において経験する実務上の課題を解決し、適切に対応することができること。</p> <p>3. 実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を明確に理解できること。	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できない。	
	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、主体的に取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための適切な対応ができること。	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための対応ができること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組むことができない。	
	実習の成果を口頭発表およびレポートで詳細に説明できること。	実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できること。		実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1					
教育方法等					
概要	専攻科を修了する学生は、将来的には、技術者として企業で働く可能性が高い。これまでに学んできたことを活かしつつ、より主体的、実践的に、学外での実習に取り組むことは、様々な場面で、かけがえのない財産になるはずである。本科目は、特定の期間に限るのではなく、受け入れ先と調整をしながら、日常的に学外での実習を行い、積み重ねられたその成果について評価するものである。 なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。				
授業の進め方・方法	派遣先にて実習を行う。毎日の実習には、しっかり準備をして臨むこと。 以下、諸注意を記す。 ・実習は専攻科2年間のうち、先方との協議で適切な実施日を選び、原則として授業期間に行う。 ・実習は45時間を1単位として計算し、最大6単位まで認める。 ・実習は学校を通して各企業等に依頼し、インターンシップ協定を結んで行う。				
注意点	特別実習Ⅰは必修であるが、本科目は選択である。履修にあたっては、積極的かつ主体的な取り組み姿勢、そして計画的に物事を進めることができる力が求められる。 評価方法は実習報告書および報告会での発表により、以下の項目について総合的に評価する。ただし、必要に応じて受け入れ先からの評価も加味する。 ①実習で与えられた課題に対して、その本質が示されたか。(実習内容や課題の理解) ②実習で与えられた課題に対して、自ら取り組んだことが示されていたか。(実習への積極性と実務の完遂) ③発表資料は適切に作成されていたか。 ④実習内容等を説明することができたか。 ⑤質疑に対する応答は適切であったか。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		2週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		3週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		4週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		5週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		6週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		7週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
	8週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。		
	2ndQ	9週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
10週		派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。		

後期		11週	報告書作成	実習成果について、レポートにまとめることができること。		
		12週	報告書作成	実習成果について、レポートにまとめることができること。		
		13週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。		
		14週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。		
		15週	発表会	実習成果について、発表資料を使い口頭で説明でき、質疑に対して応対できること。		
		16週				
	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
		4thQ	9週			
			10週			
11週						
12週						
13週						
14週						
15週						
16週						

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築防災システム工学
科目基礎情報					
科目番号	AC041		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	必要に応じて参考資料を配布するが、下記の教科書等を参考書とする。				
担当教員	金田 一男				
到達目標					
1. 地震応答解析の理論を理解して、既存のプログラムを利用して解析の実施ができる。 2. 建築学の分野における防災技術などを理解できる。 3. 防災マップの意義を理解でき、作成することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地震応答解析の理論を理解して、既存のプログラムにより簡単な地震応答解析ができる。	地震応答解析の理論を理解して、既存のプログラムを利用できる。	地震応答解析の理論を理解できていない。		
評価項目2	建築学の分野における防災技術などを説明できる。	建築学の分野における防災技術などを理解できる。	建築学の分野における防災技術などを理解できていない。		
評価項目3	防災マップの意義を理解でき、作成することができる。	防災マップの意義を理解できる。	防災マップの意義を理解できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	本科目は、第5学年次に習得した建築振動学に続くものであり、建築構造物の地震応答解析手法、各種災害に対する防災技術および防災マップについて理解できることを目的としている。 なお、この科目は企業（設計コンサルタント）で構造物の設計・耐震改修を担当していた教員が、その経験を活かし、日本に発生する自然災害について講義し、地震応答解析および防災マップ（RC塀など）作成などについて講義および演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	地震応答解析については、振動論や解析方法について説明したのちに解析を実施する。各種災害に対する防災技術については、書籍やウェブサイトから各自で調べたのち、プレゼンテーションの資料を作成し、発表する。防災マップについては、対象とする場所で調査したのち、得られた情報を利用してマップを作成する。また、事後学習としてレポートを提出することがある。				
注意点	波動などの物理的知識および建築振動学の知識を必要とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	シラバスの説明を受け、本科目の意義や進め方などについて説明するので、その内容を理解できる。振動学の基礎理論を説明し、その内容を理解できる。振動学の基礎理論を説明し、その内容を理解できる。	
		2週	建築構造物の地震応答解析1	地震応答解析に関する既存の解析ソフトについて調査する。その種類を把握する。	
		3週	建築構造物の地震応答解析2	既存の地震応答解析ソフトについて、その概要をレポート整理できる。	
		4週	建築構造物の地震応答解析3	既存の地震応答解析ソフトを用いて、解析を実施し、その入力条件等を理解できる。	
		5週	建築構造物の地震応答解析4	既存の地震応答解析ソフトを用いて、解析を実施し、その入力条件等を理解できる。	
		6週	建築構造物の地震応答解析5	既存の地震応答解析ソフトを用いて、解析を実施し、その入力条件等を理解できる。	
		7週	建築構造物の地震応答解析6	既存の地震応答解析ソフトを用いて、解析を実施し、適用する波形（地震波など）について理解できる。	
		8週	建築構造物の地震応答解析7	既存の地震応答解析ソフトを用いて、解析を実施し、その解析結果について理解できる。	
	4thQ	9週	建築構造物の地震応答解析8	解析の結果をレポートに取りまとめることができる。	
		10週	耐震・免震・制震・防風・防雪等の技術1	最新の耐震・免震・制震・防風・防雪等の各技術を各自で調査することにより、建築学の分野におけるそれぞれの技術の進歩を理解できる。	
		11週	耐震・免震・制震・防風・防雪等の技術2	最新の耐震・免震・制震・防風・防雪等の各技術を各自で調査することにより、建築学の分野におけるそれぞれの技術の進歩を理解でき、得られた情報をもとに、レポートを作成でき、プレゼンテーション資料を作成できる。	
		12週	耐震・免震・制震・防風・防雪等の技術3	作成した資料を基にプレゼンテーションでき、互いに質問・応答し、違う内容の理解ができる。	
		13週	防災マップの作成1	防災マップの作成意義を理解して、危険の個所の調査が机上できる。	
		14週	防災マップの作成2	机上で確認した危険個所の現地調査・資料収集ができる。	

		15週	防災マップの作成3	収集したデータをもとに、防災マップを作成できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	構造	マグニチュードの概念と震度階について説明できる。	5	後1,後2
				地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明できる。	5	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	15	0	0	85	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	15	0	0	85	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	居住地計画論	
科目基礎情報						
科目番号	AC042		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	前期:1		
教科書/教材	必要に応じて配布資料あり					
担当教員	正木 哲					
到達目標						
1. コーポラティブ以前の集合住宅におけるコミュニティ形成の技法を説明できる。 2. 集住の意味、集住システムを説明できる。 3. 居住者参加の集住-コーポラティブ住宅をはじめ、現代の集住のありようを説明できる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安		
評価項目1	コーポラティブ以前の集合住宅におけるコミュニティ形成の技法を十分に説明できる。	コーポラティブ以前の集合住宅におけるコミュニティ形成の技法を説明できる。		コーポラティブ以前の集合住宅におけるコミュニティ形成の技法を説明できない。		
評価項目2	集住の意味、集住システムを十分に説明できる。	集住の意味、集住システムを説明できる。		集住の意味、集住システムを説明できない。		
評価項目3	居住者参加の集住-コーポラティブ住宅をはじめ、現代の集住のありようを十分に説明できる。	居住者参加の集住-コーポラティブ住宅をはじめ、現代の集住のありようを説明できる。		居住者参加の集住-コーポラティブ住宅をはじめ、現代の集住のありようを説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2						
教育方法等						
概要	<p>これまでの不特定多数という計画理念による、主体なき、極論すれば、単なるモノづくりの居住地計画は行き詰まり、世界的にも各地で破綻をきたしている。これを打開する方策としては、集住主体を何らかの形で育成すること、つまり、居住者がどれだけ居住地の主体になりうるかが鍵と考えられ、この集住主体を居住地計画に取り込めるプランナーとしての自覚を促すことが本教科の目標である。そもそも、建築技術者は利用主体の要求を捉え、それに応じた空間を創造することが使命であるが、実際には利用主体の要求自体が明確でない場合が多い。つまり、言い換えると利用主体自体が生活をイメージできていない。したがって、これまでのように利用者の顕在化した要求を捉えて空間を創造するという論理では対応しきれなくなっており、さらに一歩論理を進めて利用者とともに潜在的な要求を顕在化させる必要がある。</p> <p>この潜在的な要求を顕在化させるということは共に生活を創ることにほかならない。したがって、居住地計画に限らず、建築技術者は利用主体とともに生活を創り上げることに関わらねばならなくなっており、この資質を育成する意味は大きい。</p> <p>集合住宅の計画はすでに本科3年の住環境計画で学習しているが、それはこれまでの近代住居理論に基づき居住者の生活を静的に捉え、集合形式や平面・断面構成など建物のありようを中心にしたものである。本教科はその発展であるが、むしろ、住民の集合生活(集住)そのものを問題にしている。その意味では、建築計画で学習した他施設についてもその発展として位置づけることができる。なお、この科目は企業で建築の設計を担当していた教員が、その経験を活かし、集合住宅の計画手法等について講義やゼミ形式で授業を行うものである。</p> <p>本科目は、SDGs「11.住み続けられるまちづくり」に対応する。</p>					
授業の進め方・方法	学生のレポート(レジュメ)中心にゼミ形式で確認してゆく。					
注意点	本科で学んだ住環境計画の知識は前提条件として必要である。建築の他の専門科目の知識はそれほど必要なく、人の集団形成を対象とするので、むしろ、教養の社会学、都市社会学、心理学などの知識を必要とし、また、各地のまちづくり運動の実践例なども参考になる。学生のレポートを中心にゼミ形式で進めるので、必ず予習し、レポートすること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	[1] オリエンテーション 授業の目標と計画を説明し、授業の進め方を決める。基本的には、学生が分担した教科書の範囲をレポートにまとめ発表し、それについて全員で討論する形式をとる。	授業の目標と計画を理解し、説明できる。		
	2週	[2] これまでの集合住宅計画の変遷と到達点 これまでのモノづくりに偏した集合住宅計画について、集住主体の形成がどの程度考えられていたかを再点検する。	施設の段階的構成論、住棟配置、コモンスペース配置、通路形式、住戸平面について確認できるが、結果的にそれら空間の仕掛けのみでは、コミュニティ形成の主体的条件の育成というよりも生活問題の消極的あるいは回避的解決しかもたらさず、集住のサポート的役割でしかなかったことを説明できる			
	3週	[2] これまでの集合住宅計画の変遷と到達点 これまでのモノづくりに偏した集合住宅計画について、集住主体の形成がどの程度考えられていたかを再点検する。	施設の段階的構成論、住棟配置、コモンスペース配置、通路形式、住戸平面について確認できるが、結果的にそれら空間の仕掛けのみでは、コミュニティ形成の主体的条件の育成というよりも生活問題の消極的あるいは回避的解決しかもたらさず、集住のサポート的役割でしかなかったことを説明できる			
	4週	[2] これまでの集合住宅計画の変遷と到達点 これまでのモノづくりに偏した集合住宅計画について、集住主体の形成がどの程度考えられていたかを再点検する。	施設の段階的構成論、住棟配置、コモンスペース配置、通路形式、住戸平面について確認できるが、結果的にそれら空間の仕掛けのみでは、コミュニティ形成の主体的条件の育成というよりも生活問題の消極的あるいは回避的解決しかもたらさず、集住のサポート的役割でしかなかったことを説明できる			
	5週	[3] 集住の意味と共同性 集住は人間が獲得した住文化であり、その良さと困難さ(集住の楽しさと煩わしさ)を考える。	事例を通して、集住での「暮らし」にクローズアップし、メリット・デメリットなどを説明できる			

2ndQ	6週	[3] 集住の意味と共同性 集住は人間が獲得した住文化であり、その良さと困難さ(集住の楽しさと煩わしさ)を考える。	事例を通して、集住での「暮らし」にクローズアップし、メリット・デメリットなどを説明できる
	7週	[3] 集住の意味と共同性 集住は人間が獲得した住文化であり、その良さと困難さ(集住の楽しさと煩わしさ)を考える。	事例を通して、集住での「暮らし」にクローズアップし、メリット・デメリットなどを説明できる
	8週	[4] 居住者参加型としてのコーポラティブ住宅 住民参加型の居住地計画の事例としてコーポラティブ住宅の建設前から竣工後までの実践例を学習する。	居住主体相互、居住主体とプランナー相互、居住主体と地域相互の働きかけを学ぶ中からプランナーと集住主体との関わりを考え、説明できる。
	9週	[4] 居住者参加型としてのコーポラティブ住宅 住民参加型の居住地計画の事例としてコーポラティブ住宅の建設前から竣工後までの実践例を学習する。	居住主体相互、居住主体とプランナー相互、居住主体と地域相互の働きかけを学ぶ中からプランナーと集住主体との関わりを考え、説明できる。
	10週	[5] シェアハウスや、現代ならではの集住のあり方について事例を通して学ぶ。	現代ならではの集住の課題について説明できる
	11週	[5] シェアハウスや、現代ならではの集住のあり方について事例を通して学ぶ。	現代ならではの集住の課題について説明できる
	12週	現代における集合住宅の実例を調べる。	コーポラティブ住宅のみならず、現代の暮らしに合わせて様々な種類、形式が生み出されていることを理解し、説明できる。
	13週	現代における集合住宅の実例を調べる。	コーポラティブ住宅のみならず、現代の暮らしに合わせて様々な種類、形式が生み出されていることを理解し、説明できる。
	14週	現代における集合住宅の実例を調べる。	コーポラティブ住宅のみならず、現代の暮らしに合わせて様々な種類、形式が生み出されていることを理解し、説明できる。
	15週	現代における集合住宅の実例を調べる。	コーポラティブ住宅のみならず、現代の暮らしに合わせて様々な種類、形式が生み出されていることを理解し、説明できる。
16週	発表会	調べた内容についてパワーポイントを用いて発表する。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	5 前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	都市・空間デザイン論
科目基礎情報					
科目番号	AC043		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	適宜プリント配付。副読本は次の通り。小嶋他著『空間練習帳』彰国社、J. ゲール著・北原訳『人間の街』鹿島出版、シビックプライド研究会編著『シビックプライド2 (国内編) 都市と市民のかかわりをデザインする』、伊藤他『都市計画とまちづくりがわかる本』彰国社。				
担当教員	佐土原 洋平				
到達目標					
1. サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について説明できること。 2. 都市空間を観察しその特性をとらえ、説明できること。 3. 多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について、的確かつ詳細に説明できること。	サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について説明できること。	サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について説明できない。		
評価項目2	都市空間を観察しその特性をとらえ、説得力のある説明ができること。	都市空間を観察しその特性をとらえ、説明できること。	都市空間を観察しその特性をとらえ、説明できできない。		
評価項目3	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて、的確かつ詳細に説明できること。	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	<p>本科目では、これからの時代に呼応した豊かな都市空間を創造する方法と、そこにおけるポイントを理解するため、以下の3点について授業を行います。</p> <p>(1) 課題1：サステナブルデザイン事例研究 サステナブルな都市づくりに貢献する都市デザイン事例、建築デザイン事例についての研究を行い、各人の成果をもって受講者でディスカッションを行う。 なお、サステナブルデザインについて理解を深めることは、これからの「都市・空間デザイン」を考えるうえでは欠かせない。</p> <p>(2) 課題2：都市空間の特性を捉えるフィールドワーク ある視点に基づき都市空間を観察する課題に取り組み。この課題への取り組みを通じて、都市空間を体験することの大切さ、都市空間の質を捉える眼やセンスを養うことの必要性を感じてほしい。なお、ここでの課題は2種類用意する(予定)。</p> <p>(3) 課題3：都市・地域デザイン事例研究 多様な主体による協働作業としての都市・地域のデザインを捉え、事例研究を行う。このことを通じて、多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインの進め方と、その過程で大切になる視座とポイントを理解する。 なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>本科目では、各課題の内容にあわせて行うレクチャの他、授業時間外でデータ収集・分析をしてもらい、授業時間とその内容についてのチェックを行いながら、各課題に関連する知識等を修得していく。授業時間中に有意義な意見のやり取りができるよう、各自しっかりと準備をして授業に臨むこと。また、本科目では、授業時間外で積極的にフィールドワークを行うことも求める。</p>				
注意点	<p>基本的に計画系分野の科目ですが、本科目の対象はその枠内にとどまるものではない。本科目が対象とする都市空間は、そこにある要素群や地域の人々のくらしだけでなく、それらの背景にある歴史文化の蓄積なども含めて多様な条件の上に成り立つものであり、その秩序を解読するには広い視野と知識が必要だからである。 こうした都市空間を扱う本科目は、これまで学んだ授業の成果はもちろん、日常生活で得た知識・経験の上にも成り立つものである。 本科目を履修した人には、引き続き「景観設計論(建築学専攻2年生対象)」も履修することを期待する。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成、進め方、ならびに評価方法等を知る。	
		2週	サステナブルデザイン事例研究(ブレインストーミング)	サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について説明できること。	
		3週	サステナブルデザイン事例研究(レクチャ)	サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について説明できること。	
		4週	サステナブルデザイン事例研究(レクチャとミーティング)	サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について説明できること。	
		5週	サステナブルデザイン事例研究(発表会とディスカッション)	サステナブルデザインの重要性とそこで大切になる考え方について説明できること。	
		6週	都市空間の特性を捉える課題1(ショートレクチャとフィールドワークの準備)	都市空間を観察しその特性をとらえ、説明できること。	
		7週	都市空間の特性を捉える課題1(フィールドワーク)	都市空間を観察しその特性をとらえ、説明できること。	
		8週	都市空間の特性を捉える課題1(発表会とディスカッション)	都市空間を観察しその特性をとらえ、説明できること。	

4thQ	9週	都市空間の特性を捉える課題2（ショートレクチャとフィールドワークの準備）	都市空間を観察しその特性をとらえ，説明できること。
	10週	都市空間の特性を捉える課題2（発表会とディスカッション）	都市空間を観察しその特性をとらえ，説明できること。
	11週	都市・地域デザイン事例研究（ビデオ講義：コミュニティ主体の開発等）	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。
	12週	都市・地域デザイン事例研究（レクチャ）	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。
	13週	都市・地域デザイン事例研究（ミーティング）	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。
	14週	都市・地域デザイン事例研究（ミーティング）	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。
	15週	発表会とディスカッション，最終総括	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。
	16週	予備	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	5	後2,後3,後5
				近現代都市の特質と課題について説明できる。	5	後2,後3,後5
				現代にいたる都市計画論について説明できる。	5	後2,後3,後5
				市街地を開発する仕組みについて説明できる。	5	後11,後12,後13,後14,後15
				建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	6	後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	90	0	90
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	構造解析特論
科目基礎情報					
科目番号	AC047		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	初めての建築構造設計 (建築のテキスト編集委員会, 学芸出版社), 必要に応じて資料をコピーする				
担当教員	岩下 勉				
到達目標					
1. 塑性解析を理解し, 構造物の終局耐力等を計算できる. 2. 有限要素解析ソフト (Marc) を使い, 骨組の解析, 実験結果との比較・考察ができる.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	塑性解析の手法を深く理解し, 構造物の終局耐力等を正確に計算できる.	塑性解析の手法を理解し, 構造物の終局耐力等を計算できる.	塑性解析の手法を理解が十分でなく, 構造物の終局耐力等を計算できない.		
評価項目2	有限要素解析ソフト (Marc) を使い, 骨組の解析, 実験結果との比較・考察を行い, 専門用語を用いた的確に説明できる.	有限要素解析ソフト (Marc) を使い, 骨組の解析, 実験結果との比較・考察ができる.	有限要素解析ソフト (Marc) を使い, 骨組の解析, 実験結果との比較・考察ができない.		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	<p>本授業では, 構造解析や構造力学における計算手法や解析ソフトを学ぶ. 計算手法としては, 塑性解析を学習する. これまで学んできた力学では, 構造材料が弾性範囲, すなわちフックの法則を満足する範囲を対象としていた. しかしながら, 建物が大地震を受ける際, 建物を構成する部材は, 塑性域に入ることがあるため, 弾性解析だけでは建物が最終的にどれだけの外力に耐えられるのか分からない. 本授業で学ぶ塑性解析により構造物の終局 (崩壊) 荷重を計算できるようになる.</p> <p>また, 建築構造技術者は, 構造解析ソフトを的確に運用しなければならない. その際必要となることは, 実際の構造物の適切なモデル化と, 解析結果の適切な評価である. 本授業では, 有限要素解析ソフトを使って, 本科5年次に実験を行った鋼構造骨組を対象にモデル化, 解析を用うことで, 有限要素法による解析結果, 古典力学による計算結果, 実験結果との比較を行うことで, 解析によって実験をどのように捉えることができるのかを学習する.</p> <p>なお, 評価項目1が前半の授業内容, 評価項目2が後半の授業内容である. 前半は筆記試験を行い, 後半はレポートによって評価し, 下記総合評価の合計点が60点以上の場合, 合格となる. * SDGsの目標11に関連</p>				
授業の進め方・方法	塑性解析の修得には, 自ら問題を解いていくことが重要となる. 塑性力学の知識, 塑性解析の計算手法を理解していくために, 適宜演習を取り入れて進める. そのため, できる限り授業の前半に講義, 後半に演習という形をとる. 有限要素解析については, 汎用ソフトウェアを利用し解析に取り組む.				
注意点	構造力学および材料力学の知識が必要である. 解析ソフトの使用手法, 結果の整理・分析等, 時間外での実施が必要となる.				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業の概要説明	授業の概要が理解できる.	
		2週	引張材の崩壊荷重	引張材の崩壊荷重を計算できる.	
		3週	曲げモーメントと曲率	曲げモーメントと曲率の関係を理解できる.	
		4週	曲げ材の崩壊荷重	曲げ材の崩壊荷重を計算できる.	
		5週	メカニズム法	メカニズム法による解法を理解する.	
		6週	崩壊荷重	メカニズム法を用いて, 梁の崩壊荷重を計算できる.	
		7週	崩壊荷重	メカニズム法を用いて, ラーメンの崩壊荷重を計算できる.	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	ブレース付き鋼構造骨組のモデル作成 1	ブレース付き鋼構造骨組のモデルを作成する.	
		10週	ブレース付き鋼構造骨組のモデル作成 2	ブレース付き鋼構造骨組のモデルを作成する.	
		11週	ブレース付き鋼構造骨組のモデル作成 3	ブレース付き鋼構造骨組のモデルを作成する.	
		12週	ブレース付き鋼構造骨組の解析および結果検討	ブレース付き鋼構造骨組のモデルの解析を行い, 解析結果を得る.	
		13週	ブレース付き鋼構造骨組の解析結果考察 1	ブレース付き鋼構造骨組のモデルの解析結果 (初期剛性, 荷重-ひずみ関係の弾性勾配, 最大耐力等) を考察する.	
		14週	ブレース付き鋼構造骨組の解析結果考察 2	ブレース付き鋼構造骨組のモデルの解析結果 (初期剛性, 荷重-ひずみ関係の弾性勾配, 最大耐力等) を考察する.	
		15週	ブレース付き鋼構造骨組の解析結果考察 3	ブレース付き鋼構造骨組のモデルの解析結果 (ブレースの有無による影響等) を考察する.	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	構造	力の定義、単位、成分について説明できる。	5	前5,前15
				力のモーメントなどを用い、力のつり合い(合成と分解)に関する計算ができる。	5	前5,前15
				断面一次モーメントを理解し、図心を計算できる。	5	前5,前15
				断面二次モーメント、断面相乗モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を計算できる。	5	前5,前15
				弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の間係を説明でき、それらを計算できる。	5	前5,前15
				曲げモーメントによる断面に生じる応力(引張、圧縮)とひずみの間係を理解し、それらを計算できる。	5	前5,前15
				はり断面内のせん断応力分布について説明できる。	5	前5,前15
				骨組構造物の安定・不安定の判定ができる。	5	前5,前15
				はりの支点の種類、対応する支点反力、およびはりの種類やその安定性について説明できる。	5	前5,前15
				はりの断面に作用する内力としての応力(軸力、せん断力、曲げモーメント)、応力図(軸力図、せん断力図、曲げモーメント図)について説明することができる。	5	前5,前15
				応力と荷重の間係、応力と変形の間係を用いてはりのたわみの微分方程式を用い、幾何学的境界条件と力学的境界条件について説明でき、たわみやたわみ角を計算できる。	5	前5,前15
				不静定構造物の解法の基本となる応力と変形間係について説明できる。	5	前5,前15
				はり(単純はり、片持ちはり)の応力を計算し、応力図を描くことができる。	5	前5,前15
				ラーメンやその種類について説明できる。	5	前5,前15
ラーメンの支点反力、応力(軸力、せん断力、曲げモーメント)を計算し、その応力図(軸力図、せん断力図、曲げモーメント図)をかくことができる。	5	前5,前15				

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	鉄筋コンクリート構造特論
科目基礎情報					
科目番号	AC048		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	担当教員より配付されるプリント				
担当教員	下田 誠也				
到達目標					
1. 鉄筋コンクリート構造物の劣化について説明できる。 2. 鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	プリントに示す鉄筋コンクリート構造物の劣化についてまとめ、説明でき、質疑に対して的確に返答できる。	プリントに示す鉄筋コンクリート構造物の劣化についてまとめ、説明できる。	プリントに示す鉄筋コンクリート構造物の劣化についてのまとめや説明ができない。		
評価項目2	プリントに示す鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法についてまとめ、説明でき、質疑に対して的確に返答できる。	プリントに示す鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法についてまとめ、説明できる。	プリントに示す鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法についてのまとめや説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	近年における鉄筋コンクリート構造の建築物の経年劣化問題、地震被害の増加によって、鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震設計も含めた耐震補強は社会的にも一段と重要になってきている。そこで、本科の「鉄筋コンクリート構造」の実践版と位置付けるこの授業では、以下のことを目標に授業を進める。 1) 鉄筋コンクリート構造物の劣化についてまとめ、説明できること。 2) 鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法についてまとめ、説明できること。 筆記試験は行わず、発表とレポートの内容によって評価し、下記総合評価の合計点が60点以上の場合、合格となる。 * SDGsの目標9と11に関連				
授業の進め方・方法	授業は受講者による輪講形式とする。担当教員が配布するプリントを使い授業準備する。発表内容について、発表用資料およびレポートとしてまとめ、発表時に配付すること。				
注意点	構造力学、材料力学、構造計画、鉄筋コンクリート構造などの知識が必要である。関係の資料を使い、予習しておくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業の概要説明 鉄筋コンクリート構造の耐震設計の概要	この授業の目標や進め方などについて説明する。 R C構造の耐震設計に関する各種課題の説明と関連資料を紹介する。	
		2週	鉄筋コンクリート構造物の劣化 (その1) について1	鉄筋コンクリート構造物の劣化を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の劣化現象について理解できる。	
		3週	鉄筋コンクリート構造物の劣化 (その1) について2	鉄筋コンクリート構造物の劣化を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の劣化現象について理解できる。また、得られた情報をもとに、レポートを作成でき、プレゼンテーション資料を作成できる。	
		4週	鉄筋コンクリート構造物の劣化 (その1) について3	鉄筋コンクリート構造物の劣化について、作成した資料を基にプレゼンテーションでき、互いに質問・応答し、違う内容の理解ができる。	
		5週	鉄筋コンクリート構造物の劣化 (その2) について1	鉄筋コンクリート構造物の劣化を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の劣化現象について理解できる。	
		6週	鉄筋コンクリート構造物の劣化 (その2) について2	鉄筋コンクリート構造物の劣化を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の劣化現象について理解できる。また、得られた情報をもとに、レポートを作成でき、プレゼンテーション資料を作成できる。	
		7週	鉄筋コンクリート構造物の劣化 (その2) について3	鉄筋コンクリート構造物の劣化について、作成した資料を基にプレゼンテーションでき、互いに質問・応答し、違う内容の理解ができる。	
		8週	鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法 (その1)	鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法に関するDVD資料を見て、意見交換を行うことができる。	
	4thQ	9週	鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法について1	鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法について理解できる。	
		10週	鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法について2	鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法について理解できる。また、得られた情報をもとに、レポートを作成でき、プレゼンテーション資料を作成できる。	

		11週	鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法について3	鉄筋コンクリート構造物の耐震補強方法について、作成した資料を基にプレゼンテーションでき、互いに質問・応答し、違う内容の理解ができる。
		12週	鉄筋コンクリート構造物の改修事例について1	鉄筋コンクリート構造物の改修事例を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の改修について理解できる。
		13週	鉄筋コンクリート構造物の改修事例について2	鉄筋コンクリート構造物の改修事例を各自で調査することにより、鉄筋コンクリート構造物の改修について理解できる。また、得られた情報をもとに、レポートを作成でき、プレゼンテーション資料を作成できる。
		14週	鉄筋コンクリート構造物の改修事例について3	鉄筋コンクリート構造物の改修事例について、作成した資料を基にプレゼンテーションでき、互いに質問・応答し、違う内容の理解ができる。
		15週	鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法(その2)	鉄筋コンクリート構造物の補修および耐震補強方法に関するDVD資料を見て、意見交換を行うことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	構造	鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。	3	
				建物の外力と変形能力に基づく構造設計法について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	0	0	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	40	0	60
分野横断的能力	0	20	0	0	20	0	40

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語コミュニケーションⅢ
科目基礎情報					
科目番号	AC005		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	Working Abroad: Learning to Communicate via Emails & Telephone Conversations / Nicholas Bovee 著 (松柏社)				行時潔 / 長田順子
担当教員					
到達目標					
1. 異なるスピードのリーディング教材を活用し、理解力を向上させることができる。 2. 速読を通して、500語の英文を内容理解ができるようになる。 3. テストで使用される専門用語等を体系的に理解し、自主的な語彙力の強化ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	テキスト『VOA健康と環境レポート1』について、日頃から計画的に自学することができる。また、ネイティブの発話を通して、英文の内容を8割以上理解することができる。		テキストで扱う様々なトピックについての理解が十分で、ネイティブの発話を通して、英文の内容を6割以上理解することができる。		テキストで扱う様々なトピックについての理解が不十分で、ネイティブの発話を通して、英文の内容を6割未満しか理解することができない。
評価項目2	教材の中の文法事項の発展的内容を見につけたり、読んだり聞いたりしたことや学んだことに基づき、情報や考えなどについて、詳しく書いたり発表したりすることができる。		教材の中の文法事項を身につけ、読んだり聞いたりしたことや学んだことに基づき、基本的な情報や考えについて、書いたりすることができる。		教材の中の文法事項を身につけておらず、読んだり聞いたりしたことや学んだことに基づき、基本的な情報や考えについて、まとめたりすることができない。
評価項目3	教材と同じレベル以上の英文を読んだり聞いたりして、内容を英語で説明することができる。		教材の英文を読んだり聞いたりして、内容を英語で説明することができる。		教材の英文をスクリプトを見ながら読んだり聞いたりしても、内容を英語で説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 A-3					
教育方法等					
概要	この授業は受講生の「聞く」（というより「聴き取る」）能力を改善し、上達させることを第一の目標とする。上達の目安の一つはTOEICテストのスコアである。最低でも400点をクリアする必要のある専攻科生にとって有益な授業を行うことを前提とするのだが、本校で実施しているTOEIC IPテスト受験者の（ここ数年の）結果から判断すると、リスニング・セクションよりリーディング・セクションの方が圧倒的に正解率が低いという事実があり、授業に工夫を要する。この読解力不足の主たる原因は（専攻科生も含め）高専生の基本的な語彙力と文法力の不足が挙げられよう。そこで、「聴き取る」教材に英文法の基本文型を用いたものを用い、単元ごとに要点をチェックしながら、リスニング力のみならず文法力の強化も目指したい。また一方で、映画やニュース、またはポップスなども教材として適宜活用し、役に立つ表現も毎回習得させ、それらの表現を用いて口頭発表させることで、英語でのコミュニケーションにおける積極性を養うことも目標としたい。				
授業の進め方・方法	上記の教科書『Working Abroad』を毎回1課ずつ進めながら付随しているCDを活用し、聴き取りならびにディクテーションを通して聴解能力を高める。さらに文法と語彙の確認、長文読解を毎回行い「リーディングセクション」でも得点力アップを目指す。				
注意点	定期試験は行わない。各25点の確認テストを4回行い、合計点を成績とする。確認テストの4回は以下の通り（順番は異なることもある）。 テスト1 『Working Abroad』確認テスト（語彙編） テスト2 『Working Abroad』確認テスト（リスニング編1） テスト3 『Working Abroad』確認テスト（リスニング編2） テスト4 配布資料からの確認テスト				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション：授業の進め方についての説明	本テキストの予習の仕方を学ぶ。	
		2週	Unit 1 Takuya's Job Hunt	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		3週	Unit 2 Asking A Favor	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		4週	Unit 3 Decision Time	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		5週	Unit 4 A Lucky Break	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		6週	Unit 5 Fun in the Sun (確認テスト1)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	
		7週	Unit 6 Welcome to the Land of the Rising Sun!	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。	

2ndQ	8週	Unit 7 Bottoms Up!	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	9週	Unit 8 The World's Most Comfortable City (確認テスト2)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	10週	Unit 9 Touching Base	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	11週	Unit 10 The Lion City	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	12週	Unit 11 Heading Down Under	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	13週	Unit 12 Dreams Come True (確認テスト3)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	14週	Unit 13 An Unexpected Invitation	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	15週	Unit 14 The Sweet, Spicy, and Sour Wonderland	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。
	16週	Unit 15 Back to a Good Old City (確認テスト4)	テキストの内容が理解でき、本文で使用された専門用語やイディオムを覚えることができる。後者については短いセンテンスに適用させることができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	環境科学		
科目基礎情報							
科目番号	AC015		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	前期:1			
教科書/教材	理工系学生のための生命科学・環境科学/東京化学同人						
担当教員							
到達目標							
1. 生命の構造や成り立ちについての基本概念を理解していること。 2. 生命と環境の関わりについての基本的概念を理解していること。 3. 環境科学の基本的概念を理解していること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	生命の構造や成り立ちについての基本概念を理解して説明できる。		生命の構造や成り立ちについての基本概念を概ね理解して概ね説明できる。		生命の構造や成り立ちについての基本概念を理解せず説明できない。		
評価項目2	生命と環境の関わりについての基本的概念を理解して説明できる。		生命と環境の関わりについての基本的概念を概ね理解して概ね説明できる。		生命と環境の関わりについての基本的概念を理解せず説明できない。		
評価項目3	環境科学の基本的概念を理解して説明できる。		環境科学の基本的概念を概ね理解して概ね説明できる。		環境科学の基本的概念を理解せず説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A-2 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4							
教育方法等							
概要	今日の高度技術社会において“もの”、“技術”は“生命”、“環境”を強く意識しなければならない。先端的な技術者は、これらの知識なくしては社会に貢献していくことは困難である。また、深刻化している地球規模の環境問題は生命との関わりを考えずには理解できない。本科目では、生命科学と環境科学の基礎を理解し、技術者としての倫理的環境観を身に付けることが必要である。						
授業の進め方・方法	講義を中心に進める。 毎回の授業にあたっては事前に教科書を予習し、分からない内容を整理しておくこと。						
注意点	本科目では、生命科学関連科目をほとんど履修していない学生は、本科1、2年生で行われた基本的な生物および化学の知識程度は理解してから、選択するようにすること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	生命の基本構造		生命の基本構造を理解する。		
		2週	生体エネルギー		生体エネルギーを理解する。		
		3週	代謝		代謝を理解する。		
		4週	分子から見た遺伝情報		生物の設計図を理解する。		
		5週	分子から見た遺伝情報		遺伝情報伝達を理解する。		
		6週	分子から見た発生		分子から見た発生を理解する。		
		7週	情報伝達		生体内の情報伝達を理解する。		
		8週	情報伝達		分子による情報伝達を理解する。		
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	生物の進化		生物の進化を理解する。		
		11週	生物圏と生物多様性		生物圏についてを理解する。		
		12週	生物圏と生物多様性		生物多様性について理解する。		
		13週	環境と化学物質		化学物質の定義と環境汚染を理解する。		
		14週	環境と化学物質		化学物質の管理を理解する。		
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却と解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築学特別研究Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	AC017	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 6		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専2		
開設期	通年	週時間数	前期:5 後期:5		
教科書/教材	研究課題に応じて各自収集する。				
担当教員	岩下 勉, 金田 一男, 窪田 真樹, 藤原 ひとみ, 正木 哲				
到達目標					
1. (研究への取組) 研究の内容を理解し、自発的に計画を立てて行うことができる。 2. (論文) 研究の現状・課題を把握し、適切な方法で結果を得て考察を行うことができる。 3. (成果発表) 発表資料をわかりやすく作成し、説明・質疑応答を適切に行うことができる。 ※下記ルーブリックは簡易版であり、概要に示す(a)~(l)の観点での詳細な評価を行う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	研究の社会的意義を理解し、研究記録を漏れなく記載する倫理観を持ち、オリジナルな方法を考案し取り組むことができる。	研究内容を理解でき、自発的に計画を立てて取り組むことができる。	研究内容が理解できず、自発的に計画を立てることができない。		
評価項目2	論文の一般的な形式を守っており、研究目的が明確で結果を考察するのに十分に信頼性の高いデータが得られている。さらに、将来展望も示されている。	論文の一般的な形式を守っており、研究目的が明確で結果を考察するのに十分なデータが得られている。	論文の一般的な形式になっていない。研究目的が明確ではなく研究結果を適切に記載できていない。		
評価項目3	発表要旨・資料共に一般的な形式を守って作成しており、論理展開が明瞭で、批判的・合理的な思考に基づいたわかりやすい内容で説明できる。また、質問者の意図を的確にとらえることができ、応答が明確である。	発表要旨・資料共に一般的な形式を守って作成しており、研究目的と説明の関連が明確で、質問者の意図を的確にとらえることができる。	発表要旨・資料共に一般的な形式を守って作成しておらず、研究目的と説明の関連が不明である。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	日本は技術立国を目指して努力し、「世界の工場」「技術大国」として世界に貢献してきた。しかし今日、日本の産業技術は大きな転換期にあるといわれている。すなわちこれまでの大量生産技術が有効である時代は過ぎようとしている。これからの技術者は「もの」を安価に大量生産することではなく、「新しい何かをいかに、廃棄の環境への配慮もしてつくるか」という、これまでも増して「課題発見解決型技術者」であることが求められている。新しい何かをつくるためには独創力を発揮できる能力を身につける必要がある。				
授業の進め方・方法	特別研究Ⅱでは各自の持つ研究テーマに対し、担当教員の下で研究をすすめる。高等専門学校本科および専攻科で得た学識や技術を基礎として、さらに広く深く専門知識を得るとともにその総合化と深化を図り、より高度で実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目標とする。また、研究の過程における研究者間の討論や成果の発表に際して、自己の主張を的確に相手に伝えることのできる能力、研究成果を論文としてまとめるにあたり、論理的な記述力を身につけることを目的とする。				
注意点	独創的なアイデアは限られた時間や場所で浮かぶものではない。日常生活の中でも常にヒントとなるものがないか探す習慣を身につける必要がある。また研究実験は限られた時間で終わらず、長時間集中して連続的に行うことが必要なのも多い。各自で効果のある特別研究計画を立ててほしい。 ※下記各項目全てが60%以上を合格とする。 以下の取組・論文・成果発表の3つの項目を(a)~(m)の観点によって評価する。 研究への取組 (30点) (a)研究に関する文献を読む等して、研究内容の理解に努めたか。(10点) (b)自発的に研究計画を立て倫理観を持って研究を行ったか。(10点) (c)担当教員が指示したデザイン能力育成のための取組を行ったか。(10点) 論文(50点) (d)論文は一般的な研究論文の書き方に従って書かれていたか。(5点) (e)論文は、文章はもちろん、図・表や構成・レイアウトを含めて、適切に書かれていたか。(5点) (f)研究目的は現状の課題・問題を把握し、従来の研究との比較も含めて適切に設定されていたか。(10点) (g)研究の方法は適切であったか。(10点) (h)研究方法に従い、研究結果が適切に得られているか。(10点) (i)研究結果に対する考察は適切になされたか。(10点) 成果発表(20点) (j)発表要旨は一般的な発表要旨の書き方に従って書かれていたか。(5点) (k)発表資料はわかりやすく作成されていたか。(5点) (l)研究内容の説明は適切であったか。(5点) (m)質疑に対する応答は適切であったか。(5点)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	研究活動	自発的に計画を立てて研究を進め、研究課題の意義・内容を理解し、成果をわかりやすくまとめ、説明できること。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	同上	同上	

		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	同上	同上	
	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	同上	同上	
		14週	同上	同上	
		15週	同上	同上	
		16週	同上	同上	
	後期	3rdQ	1週	同上	同上
			2週	同上	同上
			3週	同上	同上
			4週	同上	同上
			5週	同上	同上
6週			同上	同上	
7週			同上	同上	
8週			同上	同上	
4thQ		9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	同上	同上	
		14週	同上	同上	
		15週	同上	同上	
		16週	研究成果の発表会	論文を適切に作成したうえで、発表資料をわかりやすく作成し、説明・質疑応答を適切に行うことができること。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	4	
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	30	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	20	40	0	70
分野横断的能力	0	10	0	10	10	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築設計特別演習Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	AC021	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専2		
開設期	前期	週時間数	前期:2		
教科書/教材	なし				
担当教員	正木 哲,森田 健太郎				
到達目標					
1. 与えられた課題 (コンペ応募・他課題) において、課題の理解・探求ができる。 2. 課題の解決が独創的であり、技術的に裏付けできる。 3. コンセプトや問題解決方法を明確にでき、惹きつけるプレゼンテーションができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	よく課題を理解し、適切な探求ができる。	課題の理解・探求ができる。	課題の理解・探求ができない。		
評価項目2	課題の解決が独創的であり、技術的に裏付けできる。	課題の解決はだいたいの射ており、技術的に裏付けできる。	課題の解決が的を射ておらず、技術的に裏付けできない。		
評価項目3	コンセプトや問題解決方法が明快であり、惹きつけるプレゼンテーションができる。	コンセプトや問題解決方法が示され、プレゼンテーションができる。	コンセプトや問題解決方法は明確でなく、プレゼンテーションも劣る。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-1					
教育方法等					
概要	本科の「建築設計演習」および「卒業設計」あるいは「構造設計演習」、「設備設計演習」を通じて修得した技術力をさらに発展させ、学外の他大学生や社会人が参加する設計コンペ等に応募し、一般社会で通用する設計水準の技術力を獲得することが本教科の目標である。 提案は取り組む演習課題やコンペのテーマに応じながら、建築界の現状と社会の動向を洞察して、将来に目を向けた若者らしい夢のある独創的なもの、あるいは技術的に裏付けのあるものでなければならず、コンセプトと問題解決方法を明確にし、プレゼンテーションなどに留意した意欲的な作品をつくりあげることが目標である。なお、参加コンペは原則として教員が指定するコンペの中から選定し、チームで取り組み応募する。 対象とするコンペは、毎年行われていること、そして、高専生や大学生、大学院生が主たる対象になっており、一定水準の設計レベルが求められているものとする。なお、コンペの課題によっては、計画系・構造系・環境系の分野横断でチームをつくりコンペに取組み応募することもある。 また、コンペに先立ち、模型制作等の課題に取り組み、材料加工、制作方法を学ぶとともに、空間の発想、認識力を高める。本科目はSDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」に関わっている。				
授業の進め方・方法	演習中心である。なお、当該コンペの締め切り日によって、作業に充てる期間は変動する可能性がある。また、授業計画に記載していないが、適宜中間発表を行うこととする。				
注意点	本科の「建築設計演習」および「卒業設計」、「構造設計演習」、「設備設計演習」で修得した能力を基礎とするが、さらに、これまでの専門科目で学んだ知識を総合することはもとより、建築業界や日本建築学会で何が求められているかを常に意識することが重要である。予習としてエスキスを進めてくること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業目標及び内容説明、コンペ説明と模型制作説明	コンペ課題の決定と今後の進め方を理解する	
		2週	模型制作	模型制作のための準備・学習、空間の提案、設計・製作を行うことができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	コンペ課題説明	コンペ課題を読み解き、過去のコンペ課題を収集することができる。	
		8週	イメージディスカッションとプレーストリーミング	提案イメージを作成し、構想案を練るとともに構想案をまとめることができる。	
	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	構想案のエスキスチェック、ディスカッション	具体的な形に落とし、検討し、修正することができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	図面作成	プレゼンテーション用図面に仕上げることができる。	
		13週	同上	同上	
		14週	同上	同上	
		15週	作品の提出と発表会	作品の提出、発表を行う	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	材料科学
科目基礎情報					
科目番号	AC024		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	適宜, 配付				
担当教員	石丸 智士				
到達目標					
1. 導電材料の性質や特徴について説明できる。 2. 半導体材料の性質や特徴について説明できる。 3. 誘電体材料の性質や特徴について説明できる。 4. 磁性材料の性質や特徴について説明できる。 5. 超伝導材料の性質や特徴について説明できる。 6. オプトエレクトロニクス材料の性質や特徴について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	導電材料の性質や特徴, 電気伝導現象について詳細に説明できる。	導電材料の性質や特徴について説明できる。	導電材料の性質や特徴について説明できない。		
評価項目2	半導体材料の性質や特徴, 応用について詳細に説明できる。	半導体材料の性質や特徴について説明できる。	半導体材料の性質や特徴について説明できない。		
評価項目3	誘電体材料の性質や特徴について詳細に説明できる。	誘電体材料の性質や特徴について説明できる。	誘電体材料の性質や特徴について説明できない。		
評価項目4	磁性材料の性質や特徴について詳細に説明できる。	磁性材料の性質や特徴について説明できる。	磁性材料の性質や特徴について説明できない。		
評価項目5	超伝導材料の性質や特徴, 応用について詳細に説明できる。	超伝導材料の性質や特徴について説明できる。	超伝導材料の性質や特徴について説明できない。		
評価項目6	オプトエレクトロニクス材料の性質や特徴について詳細に説明できる。	オプトエレクトロニクス材料の性質や特徴について説明できる。	オプトエレクトロニクス材料の性質や特徴について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	近年の科学技術の進展は目覚ましいものがあり, 材料科学はそれを根底で支える技術として重要な役割を担っている。本科目は様々な分野を支える材料科学の中で電気・電子材料に焦点を当て, 導電材料, 半導体材料, 誘電体材料, 磁性材料, 超伝導材料およびオプトエレクトロニクス材料について学習する。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜, 課題や小テストを実施する。				
注意点	物理 (量子力学) や化学, 電気電子工学に関する科目を履修していることが望ましい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 材料科学の基礎(1)	科目の目的, 概要について説明できる。 原子内での電子配置や原子のポテンシャルエネルギーについて説明できる。	
		2週	材料科学の基礎(2)	原子間結合や結晶構造, 物質の状態について説明できる。	
		3週	導電材料(1)	物質の電気伝導について説明することができる。	
		4週	導電材料(2)	導電率や抵抗率など, 電気伝導に関する諸特性値を計算することができる。	
		5週	半導体材料(1)	半導体材料の特徴や種類について説明することができる。	
		6週	半導体材料(2)	半導体材料の作製方法や応用について説明することができる。	
		7週	誘電体材料(1)	誘電体材料の電氣的性質について説明することができる。	
		8週	誘電体材料(2)	誘電体材料の応用について説明することができる。	
	4thQ	9週	磁性材料(1)	物質の磁氣的性質について説明することができる。	
		10週	磁性材料(2)	各種磁性材料の特徴について説明することができる。	
		11週	超伝導材料(1)	超伝導材料の基礎的な性質について説明することができる。	
		12週	超伝導材料(2)	超伝導材料とその応用について説明することができる。	
		13週	オプトエレクトロニクス材料(1)	発光材料や受光材料について説明することができる。	
		14週	オプトエレクトロニクス材料(2)	その他のオプトエレクトロニクス材料について説明することができる。	
		15週	期末試験	授業での理解度を確認する。	
		16週	テスト返却と解説	試験答案の返却・確認と解説を通して, 理解状況を把握する。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	環境調整学		
科目基礎情報							
科目番号	AC026	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	建築学専攻	対象学年	専2				
開設期	前期	週時間数	前期:1				
教科書/教材	プリントを配付						
担当教員	窪田 真樹						
到達目標							
1. 技術が社会に及ぼす影響について説明できる 2. 環境マネジメントの概要について説明できる 3. 地球環境の概要と問題点、改善策について説明できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安				
評価項目1	技術が社会に及ぼす影響について説明でき、これからの技術者に求められる課題について言及できる	技術が社会に及ぼす影響について説明できる	技術が社会に及ぼす影響について理解が不足して説明できない				
評価項目2	環境マネジメントの概要が説明でき、今後の環境マネジメントの課題について言及できる	環境マネジメントの概要が説明できる	環境マネジメントについて理解が不足して説明できない				
評価項目3	地球環境の概要と問題点について説明でき、積極的な改善策を提案できる	地球環境の概要と問題点、改善策について説明できる	地球環境の概要と問題点、改善策について理解が不足している				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A-2 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 A-2 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4							
教育方法等							
概要	技術者は、それぞれの専門分野で単に法律を守るだけでなく、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、臭気、周辺環境への影響、廃棄物といった地域環境問題から地球環境（酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化、森林の減少、資源枯渇）の問題まで幅広く認識し、技術によって解決策を講じることが望まれる。 この授業では技術者の素養として技術者倫理を理解すると同時に技術が社会へ及ぼす影響を考慮し、これら地域環境問題・地球環境問題の解決手順を理解する。 ※SDGsの目標11・12に関連する。						
授業の進め方・方法	講義と事例の調査探索の発表及びディベートを行う。 事例調査やディベート準備のため、事前事後学習を求める。						
注意点	日常的に専門知識を活用する問題解決策を探る姿勢を持つ。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	本科目の概要が理解できる			
		2週	技術者倫理	法的責任と知的財産権について理解できる 設計と技術革新の倫理について理解できる			
		3週	技術者倫理	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		4週	技術者倫理	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		5週	技術者倫理	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		6週	地球環境問題	現在の地球の問題点について概観できる 地球温暖化について理解できる エネルギー問題について理解できる			
		7週	地球環境問題	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		8週	地球環境問題	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
	2ndQ	9週	地球環境問題	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		10週	地球環境問題	地域環境問題について概観できる オゾン層破壊問題について理解できる			
		11週	地球環境問題	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		12週	地球環境問題	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		13週	地球環境問題	事例を調査探索し、分かり易く説明することができる			
		14週	地球環境問題	循環型社会について理解できる 技術者としての環境問題への取り組みについて理解できる			
		15週	期末試験				
		16週	試験返却と解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	50	0	0	0	20	0	70
分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	環境工学概論
科目基礎情報					
科目番号	AC027		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	配布プリント				
担当教員	内田 雅也				
到達目標					
1. 環境問題・エネルギー問題の現状を理解することができる。 2. 高度文明社会と環境問題の関連性について理解することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	環境問題・エネルギー問題の現状を80%以上理解することができる。	環境問題・エネルギー問題の現状を60%以上理解することができる。	環境問題・エネルギー問題の現状を60%以上理解することができない。		
評価項目2	高度文明社会と環境問題の関連性について80%以上理解することができる。	高度文明社会と環境問題の関連性について60%以上理解することができる。	高度文明社会と環境問題の関連性について60%以上理解することができない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-2 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 A-2 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	<p>地球温暖化, 酸性雨, 成層圏オゾン層破壊など, 現在の地球にはいくつもの重大な環境問題が存在する。これらのほとんどは, われわれ人類が現在のよう高度な文明社会で生活することを許された一方で, 同時に担わされたいわば「負の遺産」である。産業革命以降, 科学技術者たちは, より便利でより快適な文明社会を求め研究開発を進めてきた。これらの文明社会で快適な生活を送るためには, 多大なエネルギーを必要とする。多大なエネルギーを作り出すためには, 多くの炭酸ガスや酸性ガスを排出せざるを得ず, 地球温暖化や酸性雨を引き起こしてきた。今日の文明社会は, いわば地球環境の悪化という犠牲と引き換えに得られたものであるといっても過言ではない。近年, 環境問題に関する報道も多くなされるようになり, われわれも環境問題に関するいろいろな情報を得ることができるようになった。しかし, 逆に情報が入り乱れて, もしくは一方に偏った考え方の情報ばかりに惑わされることすらある。</p> <p>この授業目標の第1は, 卒業後ひとりの技術者として活動する場合に, 科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果, および技術者が社会に負っている責任に対する理解を深め, 企業の利益を追求しながらも地球環境を保護することを優先することのできる技術者倫理を習得することである。</p> <p>目標の第2は, 前述のような背景の中で, 科学技術の進歩によってもたらされた高度な文明社会と環境問題との関連性について, 正しい認識を習得するということである。</p> <p>またこの科目は企業にて環境アセスメントに関わる業務に従事していた教員が, その経験を活かし, 近年の環境問題や環境アセスメントなどについて講義形式で授業を行うものである。</p>				
授業の進め方・方法	3週連続で講義をしたら4週目に意見交換会を行う。意見交換会は事前に2から3件のテーマを与えるので, 学生はそれについて調査し報告書を作成したうえで意見を発表する。なお, 事後学習事後学習としてレポートを課す。				
注意点	環境問題についてはいろいろな考え方を持つ学者が存在し, それぞれの立場で意見を述べている。それら多くの情報がネット上に散在しているため, レポート執筆の際, 情報を引用するときには反対側の意見も参照したうえで十分な吟味をした後, 自分の意見として引用するようにしてほしい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	科目概要と授業の進め方等のガイダンス	科目概要や授業の進め方, ポイントについて理解できる	
		2週	環境とは何か	地球をとりまく環境問題について, 全般的な理解ができる。	
		3週	世界人口と食料問題	世界の人口と食料事情を理解できる。	
		4週	エネルギー消費とその対策	エネルギー消費の歴史と埋蔵量の現状を把握し, これからのエネルギー消費の在り方を理解できる。	
		5週	環境汚染物質	環境汚染物質の種類とそれぞれの発生源を理解できる。	
		6週	4 大公害訴訟と技術者倫理	過去の公害訴訟問題を学習し, 技術者としての倫理を身に付けることができる。	
		7週	大気環境	大気環境の基準値と大気汚染の現状を理解できる。	
		8週	自動車排ガスの浄化技術	自動車排ガスの浄化技術を, ガソリン車・ディーゼル車の両方について理解できる。	
	2ndQ	9週	大気汚染浄化技術	NOx, SOx浄化のための装置について, その原理について理解できる。	
		10週	水環境	水環境の基準値と現状について理解できる。	
		11週	廃棄物とリサイクル	廃棄物に関する法制を知り, リサイクルの現状について理解できる。	
		12週	地球温暖化	地球温暖化の現状について理解できる。	
		13週	酸性雨 オゾン層破壊	酸性雨・オゾン層破壊の原因を知り, その対策がどのように行われてきたか理解できる	
		14週	放射線の基礎	放射線の基礎的事項について, 理解できる。	

		15週	【前期期末試験】	
		16週	テスト返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	大気の大気熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。	4	
			植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	4	
			世界のバイオームとその分布について説明できる。	4	
			日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	4	
			生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	4	
			生態ピラミッドについて説明できる。	4	
			生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	4	
			熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	4	
			有害物質の生物濃縮について説明できる。	4	
			地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	4	
	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法) レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	50	0	0	25	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	25	50	0	0	25	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	熱力学概論
科目基礎情報					
科目番号	AC029		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	指定しない				
担当教員	鶴 大輔				
到達目標					
1. 熱力学第一法則および第二法則を説明し、応用することができる。 2. 理想気体および蒸気の性質を理解し、それらの状態変化に伴う各種物理量を求めることができる。 3. 熱サイクルのエネルギー授受を計算することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	熱力学第一法則および第二法則を説明し応用することができる。	熱力学第一法則および第二法則を説明し応用することが、ある程度できる。		熱力学第一法則および第二法則を説明し応用することができない。	
評価項目2	理想気体および蒸気の性質を理解し、状態変化に伴う各種物理量を求めることができる。	理想気体および蒸気の性質を理解し、状態変化に伴う各種物理量を求めることが、ある程度できる。		理想気体および蒸気の性質を理解し、状態変化に伴う各種物理量を求めることができない。	
評価項目3	熱サイクルのエネルギー授受を計算することができる。	熱サイクルのエネルギー授受をある程度計算することが、ある程度できる。		熱サイクルのエネルギー授受を計算することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	温度変化が重要な役割を演じる種々の変化過程における熱と仕事と状態変化の関係について、体系的に基礎知識を修得する。これらの基礎知識は熱エネルギーの変換を効率よく有効に実施するために必要であり、エネルギー問題や環境問題に直接関わる内容である。本授業では、熱力学に用いられる各種状態量や物理量を理解し、熱力学の基本法則を各種熱サイクルに応用することにより、各種熱サイクルの熱効率を計算することができる。				
授業の進め方・方法	配布資料に沿って、板書しながら説明を行い、理解させる。その際に、身近な現象や社会的な話題なども紹介し、熱現象に興味と関心を持ってもらうようにする。また、授業中の例題や演習問題を通して、問題の考え方や解き方を学んでもらう。なお、適宜、課題のレポート提出による自主学習を促し、自分のものとして定着させる。				
注意点	履修にあたり物理や数学の基礎知識が必要である。定期試験の成績 80%、課題レポートの成績 20% を目安として、成績評価を行う。評価基準：60点以上を合格とする。なお、再試験は学期末に一回行う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	はじめに、熱力学とは 熱力学で用いる基礎用語、各種物理量や状態量	熱力学で用いられる用語や各種物理量や状態量について説明できる。	
		2週	熱力学の第一法則（閉じた系、開いた系）	熱力学の第一法則を用い、熱、仕事、内部エネルギー、エンタルピーの関係およびP-V線図について説明と計算ができる。	
		3週	理想気体の性質 理想気体の状態変化（閉じた系）	理想気体の状態方程式および内部エネルギー、エンタルピー、比熱の関係を説明できる。	
		4週	理想気体の状態変化（閉じた系、開いた系）	理想気体の各種状態変化における状態量、熱、仕事を理解し、計算できる。	
		5週	熱力学の第二法則 カルノーサイクル	熱力学の第二法則を説明できる。カルノーサイクルを理解し、熱効率を求めることができる。	
		6週	エントロピーと熱力学第二法則 エントロピーの計算	エントロピーの定義およびT-S線図を理解し、エントロピーの変化を計算できる。	
		7週	以上の演習問題	各種の問題を理解し、解くことができる。	
		8週	エネルギー有効利用とエクセルギー	エクセルギーの考え方を理解し、系から得られる最大仕事との関係を説明できる。	
	2ndQ	9週	燃料と燃焼	燃焼反応機構を理解し、発熱量および理論火炎温度を求めることができる。	
		10週	内燃機関 オットーサイクル ディーゼルサイクル	内燃機関のサイクルを理解し、理論熱効率を計算することができる。	
		11週	ガスタービン ブレイトンサイクル ジェットエンジンサイクル	ガスタービンのサイクルを理解し、理論熱効率を計算することができる。	
		12週	蒸気の性質 ランキンサイクル	蒸気の性質を理解し、蒸気表を用いて状態量を求めることができる。ランキンサイクルの理論熱効率を求めることができる。	
		13週	再熱サイクル 再生サイクル	再熱サイクル、再生サイクルを理解し、理論熱効率を求めることができる。	

	14週	冷凍サイクル（ヒートポンプサイクル） 空気調和	冷凍サイクルを理解し、成績係数を計算することができる。湿り空気線図を理解し、使用することができる。
	15週	以上の演習問題	各種の問題を理解し、解くことができる。
	16週	試験の答案返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	情報ネットワーク概論
科目基礎情報					
科目番号	AC032		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	インターネット入門; 尾家祐二他著/岩波書店 (絶版)				
担当教員	嘉藤 学				
到達目標					
1. コンピュータネットワークの基本的な仕組みと要素技術を理解できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目1	コンピュータネットワークの基本的な仕組みと要素技術を比較的细节な内容まで理解できる		コンピュータネットワークの基本的な仕組みと要素技術の概要を理解できる		コンピュータネットワークの基本的な仕組みと要素技術理解できない
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	インターネット (Internet) は、企業や学校などの組織のネットワークを相互に接続した世界的な規模の情報ネットワークである。1990年代に入って、ネットワークアプリケーションとして、ワールドワイドウェブ (WWW) が広く使われるようになり、その後、インターネットは生活になくてはならない社会基盤として認められるようになった。インターネットに関する基礎的な内容を理解することが本授業の目標である。本授業では、インターネットが働く仕組みとその内部で支えている技術の基礎的な内容を学習する。さらには、インターネットの歴史、社会基盤としての側面などについても学習する。なお、本科目はSDGsの目標「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」に合致している。				
授業の進め方・方法	○パワーポイントによる講義で授業を進める。 ○授業毎に課題を与える。 ○期末に試験を実施する。				
注意点	学際的資質育成科目であり、情報システムコース出身以外の学生を対象に開講される。ポートフォリオ20%で評価する。課題締切を厳守すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	科目の概要と目的	・ 科目の概要と目的を知る	
		2週	インターネットの概要	・ 総務省の発行する情報通信白書を読み、日本の情報通信の現状を知ることができる	
		3週	インターネットの概要	・ インターネットの効用を理解する ・ WWW、電子メールの仕組みを理解する ・ DNSを理解できる	
		4週	インターネットの概要	・ プロトコル、階層化、TCP/IPを理解できる ・ IPアドレスを理解できる ・ IPアドレスの2進数・10進数の変換ができる ・ LAN、イーサネットについて理解できる ・ 伝送速度を理解できる	
		5週	インターネットの実験	・ ネットワークコマンドを実行し、各コマンドの機能を理解できる	
		6週	インターネットの体系	・ データの単位、ハードウェア要素、データ交換方式、ソフトウェアの構造を理解できる	
		7週	インターネットの体系	・ ネットワークの構造、各層（アプリケーション層、トランスポート層）のプロトコルの役割を理解できる	
		8週	インターネットの体系	・ 各層（インターネット層、データリンク層、物理層）のプロトコルの役割、ネットワークの接続とその関連機器を理解できる	
	4thQ	9週	インターネットの技術	・ 経路制御を理解できる ・ 最短経路問題を計算できる	
		10週	インターネットの技術	・ サブネット化について理解できる ・ サブネット化に関する計算ができる	
		11週	インターネットの技術	・ 誤り制御を理解できる	
		12週	インターネットの技術	・ フロー制御と輻輳制御を理解できる	
		13週	インターネットの歴史	・ インターネットのおおまかな歴史を知る	
		14週	社会基盤としてのインターネット	・ インターネットの社会基盤としての役割等を理解できる	
		15週	期末試験		
		16週	テストの解答と解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	情報通信ネットワーク	プロトコルの概念を説明できる。	3	後4
				プロトコルの階層化の概念や利点を説明できる。	3	後4,後6,後7,後8
				ローカルエリアネットワークの概念を説明できる。	3	後4,後8
				インターネットの概念を説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12,後13,後14
				TCP/IPの4階層について、各層の役割を説明でき、各層に関係する具体的かつ標準的な規約や技術を説明できる。	3	後3,後4,後6,後7,後8
				無線通信の仕組みと規格について説明できる。	3	後4,後8
				有線通信の仕組みと規格について説明できる。	3	後4,後8
				基本的なルーティング技術について説明できる。	3	後9

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	80	0	0	0	20	0	100

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	材料工学概論
科目基礎情報					
科目番号	AC033		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	村石治人、新版固体化学、三共出版 (2016)				
担当教員	田中 康徳				
到達目標					
1 固体材料の結晶構造と欠陥、アモルファス、電子構造について、その要点を説明できる。 2 固体材料物性として、電気的性質、磁氣的性質、光学的性質、機械的性質、熱的性質とサイズ効果について、その要点を説明できる。 3 固体材料の反応や相転移について、その要点を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	固体材料の結晶構造と欠陥、アモルファス、電子構造について詳細に説明できる。		固体材料の結晶構造と欠陥、アモルファス、電子構造についてその要点を説明できる。		固体材料の結晶構造と欠陥、アモルファス、電子構造について説明できない。
評価項目2	固体材料物性として、電気的性質、磁氣的性質、光学的性質、機械的性質、熱的性質とサイズ効果について詳細に説明できる。		固体材料物性として、電気的性質、磁氣的性質、光学的性質、機械的性質、熱的性質とサイズ効果についてその要点を説明できる。		固体材料物性として、電気的性質、磁氣的性質、光学的性質、機械的性質、熱的性質とサイズ効果について説明できない。
評価項目3	固体材料の反応や相転移について詳細に説明できる。		固体材料の反応や相転移について、その要点を説明できる。		固体材料の反応や相転移について説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	金属、セラミックス、ガラスなどの素材をもとに、電子材料、光エレクトロニクス材料、生体材料、センサーなど多くの機能性材料が生み出されてきた。材料について学ぶことは全ての工学分野の基盤であり、ある意味、材料なくして工学自体が存在できないという重要な分野である。本講義では、材料の「構造」・「物性」・「反応」の3つについて、基礎の固体化学を学ぶ。				
授業の進め方・方法	講義を中心とする。授業時間外学習として、レポートを課す。また、各週のまとめと予習復習の問題をWeb上で解答すること。				
注意点	テスト80%,とレポート (Webでのまとめと予習復習問題を含む) 20%で評価する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 結晶構造 不完全な構造	本授業の概要と注意点の説明 結晶構造にはどのようなものがあるかを説明できる。 不完全な構造にはどのようなものがあるかを説明できる。	
		2週	電子構造	分子軌道法、バンド理論で電子構造を説明できる。	
		3週	電気的性質 (1) 導電性	導体、半導体、絶縁体の違いをバンド理論で説明できる。 超電導体の特性と応用を説明できる	
		4週	電気的性質 (2) 誘電性	誘電性、圧電性の原理を説明できる	
		5週	磁氣的性質	磁性の発現機構と磁性体の種類を説明できる	
		6週	光学的性質	光ファイバーとレーザなどの発光素子について説明できる	
		7週	機械的性質	材料の変形と硬度について説明できる	
		8週	中間試験	1～7週の内容の修得状況を確認する。	
	4thQ	9週	試験返却 熱的性質	1～7週の内容のうち、修得できていないところを把握する。 材料の熱伝導と熱膨張について説明できる。	
		10週	ナノ物質とサイズ効果	物質をナノサイズとすることによる様々な効果を説明できる。	
		11週	結晶化反応	結晶核の生成と成長について説明できる。	
		12週	相転移反応	相転移における平衡状態図の利用と、相転移を利用した材料強化を説明できる。	
		13週	拡散過程と拡散律速反応 固相の反応	材料中の原子やイオンの拡散と焼結について説明できる。	
		14週	無機固体の合成	いくつかの無機固体の合成方法を説明できる。	
		15週	期末試験	9～14週の内容の修得状況を把握する。	
		16週	試験返却 本科目のまとめ	9～14週の内容のうち、修得できていないところを把握するとともに、本科目全体を総括できる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	分子生物学
科目基礎情報					
科目番号	AC034		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	プリント				
担当教員	出口 智昭				
到達目標					
1. 生体の基本となる細胞, 生体を構成する成分について構造や性質を理解する。 2. 生体内での代謝によるエネルギー生産と物質変換について理解する。 3. 基礎的なバイオテクノロジーについて理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	生体の基本となる細胞, 生体を構成する成分について構造を書くことができ性質を詳細に説明できること。		生体の基本となる細胞, 生体を構成する成分について構造や性質を説明できること。		生体の基本となる細胞, 生体を構成する成分について構造や性質を説明できない。
評価項目2	生体内でのエネルギー獲得及び物質変換に関する代謝経路が詳細に説明できること。		生体内でのエネルギー獲得及び物質変換に関する代謝経路の概要が説明できること。		生体内でのエネルギー獲得及び物質変換に関する代謝の概要が説明できない。
評価項目3	遺伝子組み換え, 発酵工業, 酵素利用などの基礎的なバイオテクノロジーについて詳細に説明できること。		遺伝子組み換え, 発酵工業, 酵素利用などの基礎的なバイオテクノロジーについて説明できること。		基礎的なバイオテクノロジーについて説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	近年, 科学技術の進歩によって, 生命現象の様々な謎が分子レベルで解明できるようになり, 多くの新事実が日々明らかになっている。工学分野において, 生物のシステムを物質のレベルで理解することが必要となり, 工学分野のシステムの研究が生物を見本として進められることが多々ある。生物は細胞一つをとっても非常に複雑であり, 一固体となると非常に高性能なシステムであるか理解できる。このため工学と生物の両方の知識や視点を身につけることは非常に重要なことである。 本科目ではそれぞれ専門の工学の分野で応用するために生体を構成する構成成分や代謝について分子のレベルで見ることで, 基礎的な生命現象の理解を目指す。特にこれまで専門で生物を学んでいない学生が生物学の知識や視点が身につくように, 生体分子, 分子構造, 生体内での様々な反応について理解したうえで, 基礎的なバイオテクノロジーについて理解する。				
授業の進め方・方法	講義を中心に授業を進める。理解度を高めるために事前・事後学習のための課題(レポート)を課す。				
注意点	注意点様々な化合物があるため, 各自でしっかり構造等を整理し, 必要な化合物はしっかり覚えるように, 予習・復習を行ってほしい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	シラバス説明 生体の構成成分	生体の構成成分について理解する。	
		2週	細胞の構造	細胞の構造(原核細胞, 真核細胞, 動物細胞, 植物細胞)について理解する。生体内での水の作用及び水素結合について理解する。	
		3週	炭水化物の構造と性質	糖の構造, グリコシド結合, 性質について理解する。	
		4週	脂質の構造と性質	脂質の種類, 構造, 性質について理解する。	
		5週	タンパク質の構造と性質	アミノ酸, タンパク質の構造, ペプチド結合, 性質について理解する。	
		6週	核酸の構造と性質	核酸, 遺伝子の構造, 性質について理解する。	
		7週	酵素の化学的性質及び反応	酵素の性質(分類, 基質特異性, 補酵素)及び酵素の反応特性(最適温度, pH, ミカエリスメンテンの式, 酵素阻害)について理解する。	
	8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	テスト返却 高エネルギー化合物について	中間テストの範囲の内容で理解不足であったところ(テストで明確化されたところ)の内容を正確に理解する。ATPのような高エネルギー化合物の作用と構造を理解する。	
		10週	糖質の代謝	解糖系, クエン酸回路, 電子伝達系, 嫌気呼吸について理解する。	
		11週	脂質の代謝	脂肪酸のβ-酸化について理解する。	
		12週	微生物を応用した物質生産	微生物を利用した有用物質の生産(アルコール醸造, 抗生物質, 発酵食品)について理解する。	
13週		酵素を応用した物質生産	酵素を応用した有用物質の生産(固定化酵素, バイオリクター, 酵素阻害剤の医薬利用)について理解する。		

	14週	遺伝子組み換え技術の基礎と応用	基本的な遺伝子組み換え技術（遺伝子組換え、形質転換、PCRなど）の原理とその応用について原理を理解する。
	15週	学年末試験	
	16週	テスト返却と解説	期末テストの範囲の内容で理解不足であったところ（テストで明確化されたところ）の内容を正確に理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	基礎生物	原核生物と真核生物の違いについて説明できる。	4	後1,後2
			代謝、異化、同化という語を理解しており、生命活動のエネルギーの通貨としてのATPの役割について説明できる。	4	後9
			酵素とは何か説明でき、代謝における酵素の役割を説明できる。	4	後9,後11
			DNAの構造について遺伝情報と結びつけて説明できる。	4	後6
			遺伝情報とタンパク質の関係について説明できる。	4	後6
		生物化学	タンパク質、核酸、多糖がそれぞれモノマーによって構成されていることを説明できる。	4	後5
			単糖と多糖の生物機能を説明できる。	4	後3
			単糖の化学構造を説明でき、各種の異性体について説明できる。	4	後3
			グリコシド結合を説明できる。	4	後3
			多糖の例を説明できる。	4	後3
			脂質の機能を複数あげることができる。	4	後4
			トリアシルグリセロールの構造を説明できる。脂肪酸の構造を説明できる。	4	後4
			タンパク質の機能をあげることができ、タンパク質が生命活動の中心であることを説明できる。	4	後5
			タンパク質を構成するアミノ酸をあげ、それらの側鎖の特徴を説明できる。	4	後5
			アミノ酸の構造とペプチド結合の形成について構造式を用いて説明できる。	4	後5
			タンパク質の高次構造について説明できる。	4	後5
			ヌクレオチドの構造を説明できる。	4	後6
			DNAの二重らせん構造、塩基の相補的結合を説明できる。	4	後6
			酵素の構造と酵素-基質複合体について説明できる。	4	後7
			酵素の性質(基質特異性、最適温度、最適pH、基質濃度)について説明できる。	4	後7
			補酵素や補欠因子の働きを例示できる。水溶性ビタミンとの関係を説明できる。	4	後7
			解糖系の概要を説明できる。	4	後10
			クエン酸回路の概要を説明できる。	4	後10
			酸化的リン酸化過程におけるATPの合成を説明できる。	4	後10
			嫌気呼吸(アルコール発酵・乳酸発酵)の過程を説明できる。	4	後10
		生物工学	微生物の育種方法について説明できる。	4	後14
			アルコール発酵について説明でき、その醸造への利用について説明できる。	4	後12
			食品加工と微生物の関係について説明できる。	4	後12
			抗生物質や生理活性物質の例を挙げ、微生物を用いたそれらの生産方法について説明できる。	4	後13

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築生産システム工学
科目基礎情報					
科目番号	AC035		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	担当教員より配付されるプリント				
担当教員	下田 誠也, 上田 雅之				
到達目標					
1. 建築分野で用いられている材料に関して理解し、それら材料の力学的性質などについて説明できる。 2. 実務的な施工計画および施工管理方法、あるいは、品質管理について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	建築分野で用いられている材料に関して理解し、それら材料の力学的性質などについて正しい語句を使用して詳細に説明できる。	建築分野で用いられている材料に関して理解し、それら材料の力学的性質などについて説明できる。	建築分野で用いられている材料に関して理解し、それら材料の力学的性質などについて説明できない。		
評価項目2	実務的な施工計画および施工管理方法、あるいは、品質管理について正しい語句を使用して詳細に説明できる。	実務的な施工計画および施工管理方法、あるいは、品質管理について説明できる。	実務的な施工計画および施工管理方法、あるいは、品質管理について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	本授業の内容は、建築材料学と建築施工学に大別されるが、各内容については下記のとおりである。建築材料学についての目標は、建築学の分野で主要な構造材料であるコンクリート・鉄鋼・木材に関して説明することにより、それら材料の力学的性質などを習得できること。その後、前述以外の仕上材料について説明する力学的性質なども習得できることである。具体的には、石材、アルミニウム、銅および銅合金、粘土および粘土焼成品、ガラス、高分子材料について説明する。 建築施工学についての目標は、最新かつ実務的な施工計画および施工管理方法、あるいは、品質管理について習得できることである。より実務的な授業内容にするため、実務経験豊かな非常勤講師による授業を実施する。 *SDGsの目標9と11に関連				
授業の進め方・方法	第1週から第9週までを下田教員、第10週から第15週までを上田教員が実施する。講義を中心として、必要に応じて課題を与えるので、各自図書館の資料および教科書を調べて、レポート等を提出してもらおう。				
注意点	建築生産システム工学において、建築材料の諸性質を理解するために、物理学および化学に関する基本的な事項を理解しておく必要である。本科建築学科において学んだ「建築材料」・「建築生産」・「基礎構造」は基礎科目である。本科建築学科以外の学科あるいは他専攻において学んだ材料系科目は、本科目の基礎科目である。そのため、専攻問わず、基礎科目の予習および復習が大切となる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概説	本授業の意義について説明する内容について理解できる。建築構造学および建築材料学に関する概論を説明する内容について理解できる。	
		2週	コンクリート	主要な建築材料であるコンクリートについて説明する内容を理解できる。	
		3週	鉄鋼	主要な建築材料である鉄鋼について説明する内容を理解できる。	
		4週	木材	主要な建築材料である木材について説明する内容を理解できる。	
		5週	アルミニウムおよび銅	アルミニウムおよび銅について説明する内容を理解できる。	
		6週	粘土および粘土焼成品	粘土および粘土焼成品について説明する内容を理解できる。	
		7週	ガラス	ガラスについて説明する内容を理解できる。	
		8週	石材および高分子材料	石材および高分子材料について説明する内容を理解できる。	
	2ndQ	9週	試験		
		10週	施工計画および施工管理 (第1週)	建築施工について説明する内容を理解できる。	
		11週	施工計画および施工管理 (第2週)	建築工事を取り巻く社会の変化(環境問題など)についても説明の内容について理解できる	
		12週	施工計画および施工管理 (第3週)	最新の施工計画および施工管理について理解できる。	
		13週	基礎工事および躯体工事 (第1週)	建築工事における時代の流れをふまえた国際規格について理解できる。	
		14週	現場見学	現場見学や工場見学などを実施して、建築工事について理解できる。	
		15週	基礎工事および躯体工事 (第2週)	建築工事の最新の品質管理について理解できる。	
		16週	レポート返却と解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	材料	木材の種類について説明できる。	3	前4
				建築用鋼製品(丸鋼・形鋼・板など)の特徴・性質について説明できる。	3	前3
				非鉄金属(アルミ、銅、ステンレスなど)の分類、特徴をあげることができる。	3	前5
				石材の種類・性質について説明できる。	3	前8
				屋根材(例えば和瓦、洋瓦、金属、アスファルト系など)の特徴をあげることができる。	3	前6
				タイルの種類、特徴をあげることができる。	3	前6
				ガラスの製法、種類をあげることができる。	3	前7
			構造	建築構造の成り立ちを説明できる。	3	前1
				建築構造(W造、RC造、S造、SRC造など)の分類ができる。	3	前1
				木構造の特徴・構造形式について説明できる。	3	前1
			S造の特徴・構造形式について説明できる。	3	前1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	0	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	ユニバーサルデザイン
科目基礎情報					
科目番号	AC036	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	後期:1		
教科書/教材	授業での配付プリント				
担当教員					
到達目標					
1.ユニバーサルデザインが生まれた背景、歴史、理念、現状のひろがり、今後の発展動向等を理解できる。 2.ユニバーサルデザインの観点から、現状の社会環境を見直し、改善案、あるいは新たな提案を提示できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
評価項目1	ユニバーサルデザインが生まれた背景、歴史、理念、現状のひろがり、今後の発展動向等、を深く理解し詳細に説明できる。	ユニバーサルデザインが生まれた背景、歴史、理念、現状のひろがり、今後の発展動向等、を理解し説明できる。		ユニバーサルデザインが生まれた背景、歴史、理念、現状のひろがり、今後の発展動向等、を説明できない。	
評価項目2	ユニバーサルデザインの観点から、現状の社会環境を見直し、改善案、あるいは新たな提案を提示でき、詳細に説明できる。	ユニバーサルデザインの観点から、現状の社会環境を見直し、改善案を提示でき、説明できる。		ユニバーサルデザインの観点から、現状の社会環境を見直し、改善案を提示できず、説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	<p>アメリカで生まれたユニバーサルデザインが、日本で強く意識されはじめたのは、超高齢化社会の到来に直面した1990年代後半であるといわれている。「改造または特別な設計を必要とすることなしに、可能な最大限の範囲内で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計」を意味するこの言葉は、急速な高齢化の進展と共に一気に普及し、「今や、ユニバーサルデザインに配慮しないと、製品は売れなくなった」とまでいわれている。今後、ものづくりに携わっていく者として、21世紀の基本コンセプトとなるであろうユニバーサルデザインという理念について学ぶ必要があり、具体的には次の授業目標を達成することを求める。</p> <p>[1] ユニバーサルデザインが生まれた背景、歴史、理念について理解できること。 [2] 製品開発におけるユニバーサルデザインの取り入れ方について理解できること。 [3] ユニバーサルデザインと関連する諸政策について理解できること。 [4] 身の回りの製品、環境、あるいは制度やシステム等について、ユニバーサルデザインの観点から、その善し悪しを判断でき、改善案、あるいは新たな提案を提示できること。</p> <p>本科目はSDGsの目標11.住み続けられるまちづくりをに関連する</p>				
授業の進め方・方法	<p>1) ユニバーサルデザインについての理解の程度を評価する。 2) 提案内容の創造性や独創性、およびレポートや発表会でのプレゼンテーションについてのわかりやすさを評価する。 3) この科目は学習単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施する。具体的には注意点を参照。</p>				
注意点	<p>すべての人々にとって使いやすい生活製品、家電・OA機器、住宅、都市環境、制度など多様な分野に関わる問題であるため、本校専攻科すべての専攻分野にまたがる幅広い専門知識と学際性、ものづくりで養われた実践的な創造性、論理的思考と課題探求能力が必要である。 諸外国も含め、あらゆる分野にわたるユニバーサルデザインの事例を書物やインターネットから集めて研究し、またその中から改善が必要と思われる事例についてとりあげ、改善の提案をする。そのため、授業時間以外での資料収集作業や創作作業が必要である。先行事例などをインターネットや書籍で予習して授業に望むこと。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ユニバーサルデザインについて学ぶ	ユニバーサルデザインの7つの原則について説明できる	
		2週	同上	高齢者や障害のある人の不便さについて説明できる。	
		3週	同上	ユニバーサルデザインを考える上で重要なヒューマンスケールについて説明できる。	
		4週	同上	ユニバーサルデザインを考える上で重要な人間工学について説明できる。	
		5週	同上	ユニバーサルデザインを考えるうえで考慮すべき色の効果について説明できる	
		6週	同上	パッケージデザインとユニバーサルデザインの評価手法について説明できる	
		7週	同上	第三者への安全配慮としてキッズデザインについて説明できる	
		8週	同上	だれにも暮らしやすい社会の創設に向けて説明できる。	
	4thQ	9週	提案作成	<p>事例発掘と提案づくり</p> <p>1) ユニバーサルデザインを十分に理解した上で、現状の社会環境を見直し、身の回りの製品、環境、あるいは制度やシステム等について、その善し悪しを判断でき、ユニバーサルデザインの観点から、詳細な分析または改善案、あるいは新たな提案を提示できる。 2) 自身の提案についてわかりやすくレポートをまとめ、また皆の前でわかりやすく魅力的なプレゼンテーションができる。</p>	
		10週	同上	同上	
		11週	同上	同上	

	12週	同上	同上
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	発表	成果を発表し、その内容について討論する。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週			
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	環境・設備	視覚と光の関係について説明できる。	4			
				明視、グレアの現象について説明できる。	4			
				表色系について説明できる。	5	後5		
				色彩計画の概念を知っている。	5	後5		
		計画・歴史	モジュールについて説明できる。	5				
			建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	5				
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4				
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4				
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4				
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	4				
			複数の情報を整理・構造化できる。	4				
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	4				
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	4				
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4				
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3				
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	3				
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3				
			態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	目標の実現に向けて計画ができる。	4	
						高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4	
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	4				

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	60	0	70
分野横断的能力	0	10	0	0	20	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地域協働特論	
科目基礎情報						
科目番号	AC037-2		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	必要に応じ, 配付.					
担当教員	橋爪 康知, 楠本 昌彦, 岩下 勉					
到達目標						
1. 起業およびブランド戦略について説明できる. 2. 知財と特許について説明できる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	十分説明できる.	起業およびブランド戦略について説明できる.	説明できない.			
評価項目2	十分説明できる.	知財と特許について説明できる.	説明できない.			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 B-4						
教育方法等						
概要	本科目は, 「地球的視野と国際性を備えた技術者」, 「専門知識と多様性・学際性を備えた技術者」, 「実践力と創造性を備えた技術者」を養成するという学習・教育目標を, 周辺地域との関わりの中での実践を通して, 達成するために開講されたものである. 本科目では, 地元自治体や企業で活躍できるような地域の課題解決を担う人材, 地域や国際社会で自考・自立できる人材を実践的に育てることを目標としている. 特に, 起業, ブランド戦略, 知財や特許についての知識を身につける.					
授業の進め方・方法	講義は長期休暇中に行い, 定期的に課題を与える.					
注意点	配布する資料を使い, 予習しておくこと.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	(集中講義1-1) 起業およびブランド戦略について1	起業およびブランド戦略について講義する.		
		2週	(集中講義1-2) 起業およびブランド戦略について2	起業およびブランド戦略について講義する.		
		3週	(集中講義2-1) 知財および特許について1	知財および特許について講義する.		
		4週	(集中講義2-2) 知財および特許について2	知財および特許について講義する.		
			5週			
			6週			
			7週			
			8週			
後期	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
4thQ	9週					
	10週					
	11週					
	12週					
	13週					
	14週					
	15週					
	16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	4	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	4	
				他者のおかれている状況に配慮した行動をとれる。	4	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	4	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	4	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4	
				企業には社会的責任があることを認識している。	4	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	4	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	4	
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	4					
企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4					
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4					

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	80	0	80
分野横断的能力	0	0	0	0	20	0	20

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地域協働演習 I
科目基礎情報					
科目番号	AC038-2	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専2		
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	適宜プリント配付				
担当教員	下田 誠也,松岡 高弘,金田 一男,岩下 勉,藤原 ひとみ,正木 哲,窪田 真樹,森田 健太郎,佐土原 洋平				
到達目標					
1. 工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できること。 2. 学習成果を、図表を用いて論理的に説明できること。 3. 限られた時間の中で、課せられた課題に対処できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	工学の基礎的な知識・技術を駆使して的確に調査を企画・実行し、データを正確に分析し、工学的に深く考察できる。	工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できる。	企画・実施した調査の内容、もしくは、得られたデータの分析に重大な欠陥がある。		
評価項目2	学習成果を、適切な図表を用い、明快かつ論理的に説明できる。	学習成果を、図表を用いて論理的に説明できる。	学習成果を、図表を用いて論理的に説明することができない。		
評価項目3	限られた時間の中で、課せられた課題に対し、的確に対処できる。	限られた時間の中で、課せられた課題に対処できる。	限られた時間の中で、課せられた課題に対処することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	荒尾市地域再生事業では、まちなか研究室を中心とし、多世代が織りなす生き活きとしたコミュニティが再生されつつある。そこで、本科目では、まちなか研究室及び周辺環境の整備について考える。具体的には、まちなか研究室及び周辺環境の状況について実践的な課題を見出すための調査を企画・実施する。なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。				
授業の進め方・方法	授業は、放課後や長期休暇中に行う。授業担当教員の指示に応じて製作の準備や作業、レポート作成、発表会の準備などを行う。授業時間外にも、積極的に現場に赴き、情報収集活動に努めること。				
注意点	本科目は、建築系の科目であるが、そこで必要になる知識・経験は建築の枠に留まるものではない。従って、建築界の動きはもちろん、日常の社会的問題にも常日頃から目を向けていることが必要である。特に、地方都市をめぐる問題への認識が求められる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成、進め方、ならびに評価方法等を知る。	
		2週	調査対象地の現状	調査対象地の現状を説明できること。	
		3週	まちなか研究室をめぐる動向	まちなか研究室をめぐる動向を説明できること。	
		4週	地域の団体との交流	地域の団体との交流を通じて、荒尾市地域再生事業について理解できること。	
		5週	地域の団体との交流	地域の団体との交流を通じて、荒尾市地域再生事業について理解できること。	
		6週	現状把握の成果と今後の取り組み方針の確認	多面的に現状を理解した上で、今後の取り組み方針を説明できること。	
		7週	調査の企画	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
		8週	調査の企画	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
	2ndQ	9週	調査の企画	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
		10週	調査の実施	課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより実施できること。	
		11週	データ分析と考察	調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		12週	データ分析と考察	調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		13週	データ分析と考察	調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		14週	プレゼンテーション資料づくり	視覚的かつ論理的で、わかりやすいプレゼンテーション資料が作成できること。	
		15週	発表会と最終総括	論理的で、わかりやすいプレゼンテーションができること。	
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			

		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
		4thQ	9週		
			10週		
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	4	前4,前5	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前4,前5	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前4,前5	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	前2,前3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	前2,前3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	前2,前3,前14	
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	前6,前11,前12,前13	
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	前11,前12,前13	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	前7,前8,前9,前10
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前7,前8,前9,前10
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	前7,前8,前9,前10
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前7,前8,前9,前10
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4	前4,前5
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4	前4,前5

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	70	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	30	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地域協働演習Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	AC039-2		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	適宜プリント配付				
担当教員	下田 誠也,松岡 高弘,金田 一男,岩下 勉,藤原 ひとみ,正木 哲,窪田 真樹,森田 健太郎,佐土原 洋平				
到達目標					
1. 工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できること。 2. 学習成果を、図表を用いて論理的に説明できること。 3. 限られた時間の中で、課せられた課題に対処できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	工学の基礎的な知識・技術を駆使して、地域に内在する問題を的確に捉え、その問題を解決する上で、実効性の高い事業計画を考案できる。	工学の基礎的な知識・技術を駆使して、地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できる。	地域に内在する問題を発見できない。もしくは、提案された事業計画が、地域の問題解決とは無関係である。		
評価項目2	学習成果を、適切な図表を用い、明快かつ論理的に説明できる。	学習成果を、図表を用いて論理的に説明できる。	学習成果を、図表を用いて論理的に説明することができない。		
評価項目3	限られた時間の中で、課せられた課題に対し、的確に対処できる。	限られた時間の中で、課せられた課題に対処できる。	限られた時間の中で、課せられた課題に対処することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 B-4 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	本科目では、身近な地域の問題解決を図るうえで有用な事業の提案を建築学の立場から行う。その過程では、実際に社会で進められている、地域の問題解決を図る事業に学生諸君が自ら率先して参画することを原則とする。そのねらいは、実践を通じて、地域社会が抱える問題を的確に理解するとともに、その解決には、何が必要かを確かみとることにある。これら成果を活かし、地域の問題解決を図るうえで有用な事業計画の提案を建築学の立場から行う。なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。				
授業の進め方・方法	授業は放課後や長期休暇中に行う。授業担当教員の指示に応じて製作の準備や作業、レポート作成、発表会の準備などを行う。その他、多様な主体が進める地域の問題を解決する事業に積極的に関わることを。				
注意点	本科目は、建築系の科目であるが、そこで必要になる知識・経験は建築の枠に留まるものではない。従って、建築界の動きはもちろん、日常の社会的問題にも常日頃から目を向けていることが必要である。特に、地方都市をめぐる問題への認識が求められる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成、進め方、ならびに評価方法等を知る。	
		2週	テーマ選定	自分が取り組みたいテーマの妥当性を説明できる。	
		3週	テーマ選定	自分が取り組みたいテーマの妥当性を説明できる。	
		4週	地域の問題についての理解を深める活動	地域の問題解決を図る事業に参画し、地域の問題について深く理解できること。	
		5週	地域の問題についての理解を深める活動	地域の問題解決を図る事業に参画し、地域の問題について深く理解できること。	
		6週	地域の問題についての理解を深める活動	地域の問題解決を図る事業に参画し、地域の問題について深く理解できること。	
		7週	現状把握の成果と今後の取り組み方針の確認	多面的に現状を理解した上で、今後の取り組み方針を説明できること。	
		8週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
	2ndQ	9週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		10週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		11週	進捗状況確認	検討を進めている事業計画の妥当性を説明できること。その一方で、当該計画の不十分な点を認識し、今後の方向性を是正できること。	
		12週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		13週	地域の問題解決に貢献する事業計画検討	地域に内在する問題を発見し、その解決に貢献する事業計画を考案できること。	
		14週	プレゼンテーション資料づくり	視覚的かつ論理的で、わかりやすいプレゼンテーション資料が作成できること。	
		15週	発表会と最終総括	論理的で、わかりやすいプレゼンテーションができること。	
		16週			

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週				
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	4	前4,前5,前6				
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	4	前4,前5,前6				
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前4,前5,前6				
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前4,前5,前6				
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	前4,前5,前6				
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	前2,前3				
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	前2,前3				
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	前2,前3				
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	前8,前9,前10,前12,前13				
			複数の情報を整理・構造化できる。	4	前8,前9,前10,前12,前13				
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13			
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	前7,前11,前15			
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前8,前9,前10,前12,前13			
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前11,前14			
				態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	前4,前5,前6
							自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4	前4,前5,前6
							チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	前8,前9,前10,前12,前13
							チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13
							当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13
							チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4	前8,前9,前10,前12,前13
リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4	前8,前9,前10,前12							
適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4	前8,前9,前10,前12							

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	0	0	0	0	70	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	30	0	30

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	特別実習Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	AC040-2		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 6	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	特になし				
担当教員	下田 誠也, 岩下 勉				
到達目標					
<p>1. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。</p> <p>2. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組み、実習現場において経験する実務上の課題を解決し、適切に対応することができること。</p> <p>3. 実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を明確に理解できること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できない。
	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、主体的に取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための適切な対応ができること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための対応ができること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組むことができない。
	実習の成果を口頭発表およびレポートで詳細に説明できること。		実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できること。		実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 A-3 学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1					
教育方法等					
概要	専攻科を修了する学生は、将来的には、技術者として企業で働く可能性が高い。これまでに学んできたことを活かしつつ、より主体的、実践的に、学外での実習に取り組むことは、様々な場面で、かけがえのない財産になるはずである。本科目は、特定の期間に限るのでなく、受け入れ先と調整をしながら、日常的に学外での実習を行い、積み重ねられたその成果について評価するものである。				
授業の進め方・方法	派遣先にて実習を行う。毎日の実習には、しっかり準備をして臨むこと。 以下、諸注意を記す。 ・実習は専攻科2年間のうち、先方との協議で適切な実施日を選び、原則として授業期間に行う。 ・実習は45時間を1単位として計算し、最大6単位まで認める。 ・実習は学校を通して各企業等に依頼し、インターンシップ協定を結んで行う。				
注意点	特別実習Ⅰは必修であるが、本科目は選択である。履修にあたっては、積極的かつ主体的な取り組み姿勢、そして計画的に物事を進めることができる力が求められる。 評価方法は実習報告書および報告会での発表により、以下の項目について総合的に評価する。ただし、必要に応じて受け入れ先からの評価も加味する。 ①実習で与えられた課題に対して、その本質が示されたか。(実習内容や課題の理解) ②実習で与えられた課題に対して、自ら取り組んだことが示されていたか。(実習への積極性と実務の完遂) ③発表資料は適切に作成されていたか。 ④実習内容等を説明することができたか。 ⑤質疑に対する応答は適切であったか。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		2週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		3週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		4週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		5週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		6週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		7週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		8週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
	2ndQ	9週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		10週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		11週	報告書作成	実習成果について、レポートにまとめることができること。	

		12週	報告書作成	実習成果について、レポートにまとめることができること。
		13週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		14週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		15週	発表会	実習成果について、発表資料を使い口頭で説明でき、質疑に対して応対できること。
		16週	予備	
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	都市環境マネジメント論	
科目基礎情報						
科目番号	AC044		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	前期:1		
教科書/教材	適宜プリント配付。副読本は、次の通り。葉袋他「生活の視点でとく都市計画」彰国社、内山監修+佐々木著「景観とデザイン」オーム社、西村+野澤編「まちの見方・調べ方」朝倉書店、東大都市デザイン研究室「図説都市空間の構想力」学芸出版社、陣内秀信「イタリアの街角から」弦書房。					
担当教員	森田 健太郎					
到達目標						
1. 都市空間をデザインするという立場から、建築と都市の関係をどう捉えるべきか、説明できること。 2. 都市環境の意味を理解し、その捉え方を説明できること。 3. 都市の現状を読み解くことを通じて、都市計画を進める際に大切になる基本事項を説明できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安			
評価項目1	都市空間をデザインするという立場から、建築と都市の関係をどう捉えるべきか、的確に説明できること。	都市空間をデザインするという立場から、建築と都市の関係をどう捉えるべきか、説明できること。	都市空間をデザインするという立場から、建築と都市の関係をどう捉えるべきか、説明することができない。			
評価項目2	都市環境の意味を理解し、その捉え方を的確に説明できること。	都市環境の意味を理解し、その捉え方を説明できること。	都市環境の意味を理解し、その捉え方を説明することができない。			
評価項目3	都市の現状を読み解くことを通じて、都市計画を進める際に大切になる基本事項を的確に説明できること。	都市の現状を読み解くことを通じて、都市計画を進める際に大切になる基本事項を説明できること。	都市の現状を読み解くことを通じて、都市計画を進める際に大切になる基本事項を説明することができない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2						
教育方法等						
概要	「都市環境」とは、何か。都市をどうとらえれば良いのか。そして、豊かな都市を守り・つくり・育むには、どうすれば良いか。 講義とフィールドワーク、ならびに3つの課題（課題1：建築と街並み／課題2：都市の捉え方／課題3：都市の方向性を定める）への取り組みを通じて、都市を考える際の視座を養うとともに、都市計画に関わる基本的な事項を学ぶことが本科目の目的です。 なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。					
授業の進め方・方法	本科目では、授業時間外にデータ収集やまとめ、フィールドワークとそのまとめなどをしてもらい、これらの内容をチェックするかたちで授業を進めます。従って、授業時間中に有意義な意見のやり取りができるよう、各自しっかりと準備をして授業に臨むこと。					
注意点	(1) 本科目は、1学年の時に学習した「都市・空間デザイン論」に続くものです。「都市環境マネジメント論」では、より豊かな都市空間を保全・創出していくにはどうするか。その具体的な方法論について学習します。 (2) 本科目の位置づけは、そこだけに限定されるものではありません。なぜなら、都市は、そこにある要素群や地域の人々のくらしだけでなく、それらの背景にある歴史文化の蓄積なども含めて多様な条件の上に成り立つものであり、その秩序を解読するには広い視野と知識が必要だからです。そうした都市空間を扱う本科目は、これまで学んだ授業の成果はもちろん、併せてみなさんが日常生活で得た知識・経験の上にも成り立つものです。 (3) 本科目の成果は、各自の専門分野の学習にフィードバックして欲しいと考えています。特に、建築や都市の計画・設計を専攻する人には、それらのプロセスで大いに役立ててくれることを期待しています。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成、進め方、ならびに評価方法等を知る。			
	2週	建築と街並み	建築と街並みの関係を考えることを通じて、建築と都市の関係を捉え方を理解すること。			
	3週	建築と街並み (フィールドワーク)	建築と街並みの関係を考えることを通じて、建築と都市の関係を捉え方を理解すること。			
	4週	建築と街並み (まとめ作業)	建築と街並みの関係を考えることを通じて、建築と都市の関係を捉え方を理解すること。			
	5週	建築と街並み (発表とディスカッション)	建築と街並みの関係を捉え方を説明できること。			
	6週	都市の捉え方	都市環境をマネジメントするために具体的に何をしなければならぬのか。地域調査法を身につけ、その成果を表現できること。			
	7週	歴史を知る	年表、地図、写真などを調べ、地域での出来事を時系列で理解する。また、古い絵図、古写真などを用いて、地域環境の形成過程を空間的に理解し、説明できること。			
	8週	地形を知る	地形図、土地条件図、ハザードマップ、地名を調べ、地形について説明できること。			
	2ndQ	9週	空間を知る	建物、道路、土地利用、自然環境を調べ、建物やインフラなどの環境全体について説明できること。		
		10週	生活を知る	住宅地図、国勢調査、各種の統計調査を分析し、まちの動き、生活の全体像、産業の状況について説明できること。		

		11週	計画・事業の履歴を知る	これまでの整備事業、都市計画マスタープラン、政策の動きを調べ、現状をより深く理解し、現在の地域の姿について説明できること。
		12週	都市の事実を知る	都市の事実を知る上で調べた歴史、地形、空間、生活、計画・事業を理解し、都市全体の現状について説明できること。
		13週	都市の方向性を定める	都市の現状を読み解くことを通じて、都市計画を進める際に大切になる基本事項を理解すること。
		14週	都市の方向性を定める	都市の現状を読み解くことを通じて、都市計画を進める際に大切になる基本事項を理解すること。
		15週	都市の方向性を定める（発表とディスカッション）	都市の現状を読み解くことを通じて、都市計画を進める際に大切になる基本事項を説明できること。
		16週	予備	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	5	前2,前5,前15
				近代の都市計画論について説明できる。	5	前2,前5,前10,前11,前15
				現代にいたる都市計画論について説明できる。	5	前10,前11,前15
				景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	5	前2,前3,前4,前5,前10,前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	70	0	90
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	近代化建築史論
科目基礎情報					
科目番号	AC045		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	配付プリント				
担当教員	松岡 高弘				
到達目標					
1. 近代化遺産の意味を説明できる。 2. 近代化遺産の特徴を説明できる。 3. 近代化遺産を活用していくことの意義を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	近代化遺産の重要性を理解し、近代化遺産の意味を説明できる。	近代化遺産の意味を説明できる。	近代化遺産の意味を説明できない。		
評価項目2	各分野における近代化の意味を理解し、近代化遺産の特徴を説明できる。	近代化遺産の特徴を説明できる。	近代化遺産の特徴を説明できない。		
評価項目3	近代化遺産の活用を通して、その遺産の特徴を理解し、それを活用していくことの意義を説明できる。	近代化遺産を活用していくことの意義を説明できる。	近代化遺産を活用していくことの意義を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	近代化遺産とは、近代化を担った各種の建造物や工作物を意味し、産業・交通・土木遺産の3種類がある。産業遺産には鉱業・製鉄等、交通遺産には駅舎・鉄橋・道路橋等、土木遺産には港湾施設・発電所・上下水道施設等が含まれる。本科目では近代化遺産の範囲を広げて、近代化に伴い必要とされた新しい機能を有する建築を対象とする。本科目では近代化を担った以上の諸施設を通じて近代化の意味を理解し、近代化遺産の特徴を説明できることを目標とする。近代化遺産は近代化という要求に基づいて設けられたものであるため、新たな機能に対応できなければ壊されていく。しかし、地域の文化にとっては必要不可欠なものであるため、まちづくりの中で活用方法について考えることができることも目標とする。 本科目は、企業において重要文化財等の歴史的建造物の保存修理工事を担当した教員が、その経験から得られた知見を活かしつつ、日本の近代化に貢献した歴史的建造物に関する特徴等について講義形式で授業を行うものである。また、本科目はSDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」に関わる内容を学ぶ。				
授業の進め方・方法	配付プリントを用いて講義を行う。定期試験70%、2つのレポート30%で成績を評価する。この科目は学修単位のため、事前・事後学習としてレポートを実施する。				
注意点	本科5年次の近代建築史で習得した内容は基礎的知識の一つである。必ず、予習をして授業に臨むこと。2つのレポートは、近代化遺産の実測調査のレポートおよび近代化遺産をまちづくりに活用している事例のレポートである。実測調査では、調査した近代化遺産の特徴を理解し、事例調査では、文献等で事例の特色を理解し、図面や写真等を用いて解りやすくまとめているか、を評価する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	近代化遺産 (1)	様々な分野における近代化の内容を理解し、近代化遺産の意義を説明できる。	
		2週	近代化遺産 (2)	近代化遺産に係る文化財行政の在り方を説明できる。	
		3週	三井三池炭鉱 (1)	三池炭鉱の沿革を理解し、現存する生産施設の特徴を説明できる。	
		4週	三井三池炭鉱 (2)	港倶楽部等の建築の特徴を説明できる。	
		5週	炭鉱関連施設 (1)	事務所建築の特徴を説明できる。	
		6週	炭鉱関連施設 (2)	炭鉱住宅の特徴を説明できる。	
		7週	炭鉱関連施設 (3)	炭鉱経営者の住宅の特徴を説明できる。	
		8週	八幡製鉄所	八幡製鉄所に関連する近代化遺産の特徴を説明できる。	
	2ndQ	9週	学校建築	明治期の学校建築の特徴を説明できる。	
		10週	交通関連遺産 (1)	鉄道の駅舎の建築の特徴を説明できる。	
		11週	交通関連遺産 (2)	鉄骨や鉄筋コンクリートの道路橋の特徴を説明できる。	
		12週	銀行・郵便局	銀行・郵便局の建築の特徴を説明できる。	
		13週	近代化遺産の保存活用 (1)	近代化遺産をまちづくりの中で保存活用している事例から近代化遺産の意義を説明できる。	
		14週	近代化遺産の保存活用 (2)	近代化遺産をまちづくりの中で保存活用している事例から近代化遺産の意義を説明できる。	
		15週	期末試験		
		16週	テスト返却と解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	5	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
-------	----------	-------	-------	----------------------------------	---	--

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築保存再生論
科目基礎情報					
科目番号	AC046		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	配付プリント				
担当教員	松岡 高弘				
到達目標					
1. 歴史的建造物の保存に係る法的制度の変遷を説明できる。 2. 保存再生の事例から保存再生の意味や方法を説明できる。 3. 歴史的建造物を活用していくことの意義を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	歴史的建造物の保存に係る法的制度の変遷を説明でき、日本と外国の保存再生の考えを相違を説明できる。	歴史的建造物の保存に係る法的制度の変遷を説明できる。	歴史的建造物の保存に係る法的制度の変遷を説明できない。		
評価項目2	保存再生の事例から保存再生の意味や方法を説明でき、日本と外国との相違を説明できる。	保存再生の事例から保存再生の意味や方法を説明できる。	保存再生の事例から保存再生の意味や方法を説明できない。		
評価項目3	歴史的建造物を活用していくことの意義をまちづくりのなかで説明できる。	歴史的建造物を活用していくことの意義を説明できる。	歴史的建造物を活用していくことの意義を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	今日、歴史的建造物の改修やそれを利用した空間の創造に関わる事例が増しており、歴史的建造物の保存再生は、その社会的な役割が重要なものとして強く認識される傾向にある。但し、その方法は多様であり、保存再生の考えの違いにより生じているのであろうが、保存再生を行うということは、歴史遺産の継承という基本を踏まえて創意されなければならない。 本科目は、明治時代から行われている歴史的建造物の保存修復に関わる法的制度の変遷について理解でき、日本・海外の保存再生の事例を通して、保存再生における様々な問題点を把握し、保存再生の意味を理解し、保存再生を説明できることを目標とする。そして、歴史的建造物をまちづくりにおける歴史的・文化的資源として考えていくことができることも目標とする。 本科目は、企業において重要文化財等の歴史的建造物の保存修理工事を担当した教員が、その経験から得られた知見を活かしつつ、歴史的建造物の保存再生等に関する特徴等について講義形式で授業を行うものである。また、本科目はSDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」に関わる内容を学ぶ。				
授業の進め方・方法	配付プリントを用いて講義を行う。定期試験70%、2つのレポート30%で成績を評価する。この科目は学修単位のため、事前・事後学習としてレポートを実施する。				
注意点	日本建築史・西洋建築史・近代建築史で習得した内容は基礎的知識となる。予習をして授業に臨むこと。2つのレポートは、授業で紹介した事例以外で日本と外国における保存再生の事例を調査してまとめるものである。事例における保存再生の特色や工夫等を図面や写真等を用いて解りやすくまとめているか、を評価する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	文化財保護の変遷 (1)	日本における明治から昭和戦前期までの文化財保護行政の変化を説明できる。	
		2週	文化財保護の変遷 (2)	日本の文化財保護法の移り変わりを理解し、主要な変更点を説明できる。	
		3週	文化財保護の変遷 (3)	遺産に関する主要な国際的な条約の内容を理解し、日本と外国における保存に対する考え方の相違を説明できる。	
		4週	歴史的建造物の保存再生 (1) 文化財保護の変遷 (4)	日本の近代建築の保存再生の事例をとおして、その考え方や方法を説明できる。イギリスと中国における文化財保護の在り方を説明できる。	
		5週	歴史的建造物の保存再生 (2)	民家の保存再生の事例をとおして、その考え方や方法を説明できる。	
		6週	歴史的建造物の保存再生 (3)	社寺建築の保存再生の事例から建築の変化を説明できる。	
		7週	歴史的建造物の保存再生 (4)	日本における第2次世界大戦後の建築の保存運動の事例をとおして現代建築の保存の意味を説明できる。	
		8週	歴史的建造物の保存再生 (5)	外国における第2次世界大戦後の建築の保存再生の意味を説明できる。	
	4thQ	9週	保存再生の事例 (1)	登録有形文化財建造物の活用方法を説明できる。	
		10週	保存再生の事例 (2)	土木遺産の活用方法を説明できる。	
		11週	保存再生の事例 (3)	日本とヨーロッパの駅舎の活用の特徴を説明できる。	
		12週	保存再生の事例 (4)	ヨーロッパにおける中世の街並み保存再生の考え方を説明できる。	
		13週	外国における文化財保護	イギリス・イタリア・中国における文化財保護の在り方を説明できる。	

		14週	保存再生の方法	保存再生の様々な方法を理解し、その方法の相違の意味を説明できる。
		15週	期末試験	
		16週	テスト返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	5	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	鋼構造特論
科目基礎情報					
科目番号	AC049	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	建築技術/株式会社建築技術 (必要に応じて資料を配付する)				
担当教員	岩下 勉				
到達目標					
1. 鋼構造設計に関する用語や内容 (耐震設計, 材料, 接合部, 破壊現象等) を説明することができる。 2. 自ら調べた鋼構造建築の構造的特徴を分かりやすく説明, 発表できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	鋼構造設計に関する用語や内容 (耐震設計, 材料, 接合部, 破壊現象等) を詳細に説明できる。	鋼構造設計に関する用語や内容 (耐震設計, 材料, 接合部, 破壊現象等) を説明できる。	鋼構造設計に関する用語や内容 (耐震設計, 材料, 接合部, 破壊現象等) を説明できない。		
評価項目2	鋼構造建築の構造的特徴を深く考察し, 分かりやすく説明, 発表できる。	鋼構造建築の構造的特徴を分かりやすく説明, 発表できる。	鋼構造建築の構造的特徴を分かりやすく説明, 発表できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	兵庫県南部地震で生じた鋼構造物の脆性破壊は, 骨組の塑性変形によるエネルギー吸収を期待した設計法に衝撃を与え, 溶接部の品質管理に対して 抜本的な見直しを迫った。それから多くの研究や検討が積み重ねられ, 溶接部の品質確保に関する規定ができたが, その成果は実際の実務にどの程度反映されているのだろうか。一方, 時代は建物に要求される性能に対応した性能設計法へと移りつつあり, 設計の自由度も高まる一方, 設計者としての責任も大きくなる。また, 設計で意図した性能をきちんと発揮させるためには, 監理の質もより問われることになるであろう。このようなことを踏まえて, 本授業では, 鋼構造設計について「授業計画」に挙げるテーマを通して, 鋼構造の設計やその背景となる知識について理解できることを目標とする。 また, 授業では魅力ある鋼構造建築を調べ, その特徴についてレポートを作成するとともに英語での発表も行う。 * SDGsの目標11に関連				
授業の進め方・方法	授業では, 与えられたテーマについて理解し, 学生が発表する形式をとる。また, 各テーマにおいては, 資料以外の情報 (特に最近の技術など) について調べ, それらの紹介を行う。翌週には各テーマにおいて, 小テストを実施するため, これらの準備も重要となる。 日程次第で「九州構造デザイン発表会」の見学を行う。 魅力ある鋼構造建築の発表では, 英語で発表を行う。				
注意点	本科で学んだ鋼構造はもとより, 建築構法, 建築材料, 構造力学, 建築塑性解析, 建築生産などの知識が必要である。また, 上記に述べたよう, 学生が発表を行う形で授業を進めるため, 授業時間外を使って発表準備 (内容の理解) が必要となる。 また, グローバル化や英語の重要性の観点から必要性や内容に応じて, 英語での説明, 問題提示が行われる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	本授業で何を学んでいくのかを理解できる。	
		2週	鋼構造建築の変遷	鋼構造建築の変遷を理解できる。	
		3週	鋼材に求められる性能	鋼材に求められる性能について理解できる。	
		4週	接合のメカニズム	接合のメカニズムについて理解できる。	
		5週	建築鉄骨の破壊とその原因	建築鉄骨の破壊とその原因について理解できる。	
		6週	破壊・破断対策1	破壊・破断対策について理解できる。	
		7週	破壊・破断対策2	破壊・破断対策について理解できる。	
		8週	柱梁接合部	柱梁接合部について理解できる。	
	4thQ	9週	制震	鋼構造物で多く用いられる制震構造, 制震要素について理解できる。	
		10週	最新鋼構造建築, 技術	実例を通して, 最新の鋼構造建築, 技術やその動向を把握する。	
		11週	魅力ある鋼構造建築の調査	魅力ある鋼構造建築の構造的特徴等の調査を進めることができる。	
		12週	魅力ある鋼構造建築の調査	魅力ある鋼構造建築の構造的特徴等の調査を進めることができる。	
		13週	魅力ある鋼構造建築の調査	魅力ある鋼構造建築の構造的特徴等の調査を進めることができる。	
		14週	魅力ある鋼構造建築の調査	魅力ある鋼構造建築の構造的特徴等を調べ, 発表の準備を進めることができる。	
		15週	発表	英語で魅力ある鋼構造物を発表できる	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	材料	建築用構造用鋼材の種類(SS、SM、SNなど)・性質について説明できる。	4	後3
				建築用鋼製品(丸鋼・形鋼・板など)の特徴・性質について説明できる。	4	後3
			構造	鋼構造物の復元力特性と設計法の関係について説明できる。	4	後9,後11
				S造の特徴・構造形式について説明できる。	4	後2,後11
				鋼材・溶接の許容応力度について説明できる。	4	後3
				溶接接合の種類と設計法について説明できる。	4	後4
				仕口の設計方法について説明ができる。	4	後6,後9

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	15	0	0	15	70	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	15	70	85
分野横断的能力	0	15	0	0	0	0	15

有明工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築構造設計論
科目基礎情報					
科目番号	AC050		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建築学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	教科書: 現代建築学 構造設計論: 佐藤邦昭 著 / 鹿島出版会				
担当教員	金田 一男				
到達目標					
1. 構造設計のプロセスを理解できる。 2. 建築の構造技術者として必要な構造の基礎知識が理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	構造設計のプロセスを説明できる。	構造設計のプロセスを理解できる。	構造設計のプロセスを理解できていない。		
評価項目2	建築の構造技術者として必要な構造の基礎知識を習得して、それについて説明できる。	建築の構造技術者として必要な構造の基礎知識が理解できる。	建築の構造技術者として必要な構造の基礎知識が理解できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 B-2					
教育方法等					
概要	本科目では、建築の構造技術者として必要な構造の基礎知識を、平易に分かりやすく学ぶことを目的としている。具体的には、「何が建築をどう変えたか」、「専門的会話を理解するために」、「構造デザインと設計プロセス」、「地震に強い建物を設計するために」、「新しい時代を目指して」および「構造に用いる専門用語」をテーマとして、各テーマについて理解することを目標としている。 なお、この科目は企業（設計コンサルタント）で実際の構造物の設計を担当していた教員が、その経験を活かし、各種構造物の特徴、設計技術の変遷、これからの建設技術の発展等について講義および演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	ゼミ形式であり、学生たちが教科書を読み、または、関係資料を調べ、その重要なところをPowerPointデータに取りまとめ、順番で（発表）説明する。そのあと、担当教員から質問および補足説明を行う。また、事後学習としてレポートを提出することがある。 最終的には、学んだ内容をレポートにまとめて提出する。				
注意点	建築構造系科目および建築生産系科目の知識を必要とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスの説明を受け、本科目の意義や進め方などについて説明するので、その内容を理解できる。	
		2週	何が建築をどう変えたか 1	「構造設計のねらい」および「組積造の世界での知恵と創造」について理解できる。	
		3週	何が建築をどう変えたか 2	「技術のバトンタッチ」および「移転された技術は何をもたらしたか」について理解できる。	
		4週	何が建築をどう変えたか 3	「適材適所の組み合わせ」および「夢をかなえるための基礎的研究」について理解できる。	
		5週	専門的会話を理解するために 1	「建物の重さ」および「建物に加わる力とその大きさ」について理解できる。	
		6週	専門的会話を理解するために 2	「構造材料の強さとその特徴を活かした構法」および「地盤調査とN値」について理解できる。	
		7週	専門的会話を理解するために 3	「VE(バリュウ・エンジニアリング)」について理解できる。	
		8週	構造デザインと設計プロセス 1	「性能設計とは何か」および「構造方式と構造デザイン」について理解できる。	
	2ndQ	9週	構造デザインと設計プロセス 2	「断面を仮定するための便法」および「大スパン構造」について理解できる。	
		10週	構造デザインと設計プロセス 3	「建築ライフサイクル」について理解できる。	
		11週	地震に強い建物を設計するために 1	「地震の概要」および「耐震設計の基本的な考え方」について理解できる。	
		12週	地震に強い建物を設計するために 2	「具体的な設計方法」および「兵庫県南部地震の教訓」について理解できる。	
		13週	地震に強い建物を設計するために 3	「免震構造」について理解できる。	
		14週	新しい時代を目指して	「将来展望」、「日本がかかえる体質」、「これからのマーケット」、「20世紀末期の労働生産性」、「新しい時代を目指して制定された規準」などについて理解できる。	
		15週	構造に用いる専門用語	「構造技術に用いる専門用語」および「慣用的に用いる記号の意味」について理解できる。 *これまでの授業の内容をまとめ、レポートとして提出する。	
		16週	レポート作成	学習した内容を理解し、レポートに取りまとめることができる。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	材料	建築材料の変遷や発展について説明できる。	5	
				建築材料の規格・要求性能について説明することができる。	5	
			構造	建築構造の成り立ちを説明できる。	3	前1
				建築構造(W造、RC造、S造、SRC造など)の分類ができる。	3	前2
				ラーメンやその種類について説明できる。	3	前2,前3,前4
				鋼構造物の復元力特性と設計法の関係について説明できる。	3	前4
				S造の特徴・構造形式について説明できる。	3	前5,前13
				鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。	3	前5,前6,前7,前8,前9,前14
				構造計算の設計ルートについて説明できる。	3	前7,前8,前12
				マグニチュードの概念と震度階について説明できる。	3	前11
				地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明できる。	3	前11
			施工・法規	請負契約(見積り、積算を含む)について説明できる。	5	
				瑕疵・保証について説明ができる。	5	
				5大管理項目(品質、原価、工程、安全、環境)の特徴について説明できる。	5	
				継手(重ね、圧接、機械式、etc.)の仕組みについて説明できる。	3	前8
				養生の必要性について説明できる。	3	前8
				建築物などの定義について説明できる。	3	前15
				建築基準法に基づき、建築物の面積、高さ、階数が算定できる。	5	
				一般構造(構造方法に関する技術的基準)の法令文を読み、適用できる。	5	
				構造強度(構造計算方法に関する規定)の法令文を読み、適用できる。	5	
工事の流れ(仮設・準備・基礎・地業・躯体・仕上げ・設備(電気・空調・給排水・衛生)・解体)について説明できる。	5					
建築物の保守・維持管理の概要・現状について説明できる。	5					

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	0	0	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	40	0	0	60	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0